



データ フロー設計

Process Governance

バージョン 9.7 - Service Release 3

2015 年 4 月

This document applies to ARIS Version 9.7 and to all subsequent releases. Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2000 - 2015 [Software AG](#), Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners. Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://softwareag.com/licenses>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).



目次

1	開始コンテキスト	1
2	手動タスク	3
2.1	一般的なデータ マッピング	3
2.2	ユーザーの選択に対するデータ マッピング	9
2.3	一覧のデータ マッピング	10
3	通知とライブ メッセージ	11
4	ビジネス サービス	13
4.1	ARIS Publisher エクスポートの作成	13
4.2	挿入 - モデル/オブジェクト/グループ	16
4.3	ロック解除 - モデル/オブジェクト	20
4.4	獲得 - 1 (上位) ディレクトリ属性	21
4.5	抽出 - 複数アイテムに対して 1 属性	23
4.6	取得 - モデルの現在の技術バージョン	25
4.7	取得 - ARIS ユーザー グループ属性	27
4.8	取得 - GUID から要素	28
4.9	検出 - モデルとオブジェクトのグループ パス	30
4.10	検出 - モデルおよび/またはオブジェクト	30
4.11	検出 - ロック ステータス (モデル/オブジェクト)	31
4.12	抽出 - 単一アイテムに対して複数属性	33
4.13	作成 - 1 モデル	36
4.14	作成 - 1 オブジェクト	37
4.15	作成 - 1 グループ/フォルダー	40
4.16	作成 - データベース	42
4.17	作成 - ARIS Publisher 動的エクスポート	43
4.18	作成 - レポート	48
4.19	作成 - ARIS Publisher 静的エクスポート	52
4.20	作成 - ショートカット	56
4.21	作成 - バージョン	57
4.22	コピー - データベース	59
4.23	削除 - データベース	61
4.24	削除 - ARIS Publisher 動的エクスポート	63
4.25	削除 - グループ	64
4.26	削除 - モデル	66
4.27	削除 - オブジェクト	67
4.28	整理 - データベース	69
4.29	設定 - 複数アイテムに単一属性	70
4.30	設定 - 単一アイテムに複数属性	72
4.31	ロック - モデル/オブジェクト	75
4.32	検索 - 文字列内の値	76
4.33	一時ファイルの削除	77
4.34	比較 - モデル バージョン	78
4.35	移動 - モデル/オブジェクト (データベース内)	83
5	ARIS Connect でサービスを公開	85
5.1	取得 - ARIS Connect のリンク	85
5.2	公開 - データベース	86



6	ユーザー管理	88
6.1	更新 - ユーザー情報	88
6.2	取得 - プロセス ボード ユーザー	89
6.3	取得 - ユーザーの選択の有無	89
6.4	識別 - ユーザーのユーザー グループ	91
6.5	取得 - ユーザー情報	93
6.6	生成 - ユーザー	95
6.7	生成 - ユーザー グループ	97
6.8	削除 - ユーザー	98
6.9	削除 - ユーザー グループ	99
6.10	関連 - ユーザー グループ	100
6.11	割り当て - 利用権限をユーザーへ	102
6.12	割り当て - ライセンス	104
7	ARIS 文書格納	106
7.1	文書の作成	106
7.2	文書のダウンロード	108
7.3	文書の更新	109
7.4	文書のロックの解除	110
7.5	文書の削除	111
7.6	文書のロック	112
7.7	文書の移動	113
7.8	文書のメタデータの更新	114
7.9	複数文書のメタデータの更新	115
7.10	フォルダーの作成	116
8	ローカル サービス	117
8.1	取得 - プロセス インスタンス ID	117
8.2	獲得 - リンク (デザイン)	118
8.3	獲得 - 番号 (最大/最小)	120
8.4	作成 - 手動タスクのログ	121
8.5	作成 - 変更番号	123
8.6	比較 - 論理値	124
8.7	比較 - 値が空	125
8.8	比較 - 文字列	126
8.9	比較 - 時間属性	127
8.10	比較 - 未来のタイムスタンプ	128
9	データ フロー内の演算子	129
9.1	数値演算子	129
9.1.1	追加	129
9.1.2	減算	129
9.1.3	乗算	130
9.1.4	除算	130
9.2	比較演算子	131
9.2.1	等しい	131
9.2.2	等しくない	131
9.2.3	より大きい	132
9.2.4	以上	133
9.2.5	より小さい	134



9.2.6	以下	135
9.3	論理演算子	136
9.3.1	AND 演算子	136
9.3.2	OR 演算子	136
9.3.3	NOT 演算子	137
9.4	集合の演算子について	138
9.4.1	ID によりアイテムを選択	138
9.4.2	位置によるアイテムの選択	139
9.4.3	集合の作成	139
9.4.4	集合サイズの検出	140
9.4.5	集合の交差を作成	140
9.4.6	行の書式設定	141
9.4.7	集合の妥当性確認	141
9.4.8	集合のマージ	142
9.5	文書用の演算子について	142
9.5.1	パスによる文書の取得	142
9.5.2	文書メタデータの取得	143
9.5.3	文書のフィルター	144
9.5.4	文書に HTTP リンクを作成	145
9.6	データ要素	146
9.6.1	プロセス ボードへのパス	146
9.6.2	タイムスタンプの取得	146
9.7	その他の演算子	147
9.7.1	管理に存在するか確認	147
9.7.2	電子メール/ログオン名でユーザーを検出	148
9.7.3	コミットされたリソースを取得	148
9.7.4	参加者名の取得	149
9.7.5	連結	150
9.7.6	タイムスタンプまたは日付を可読テキストに変換	151
9.7.7	XOR 演算子	152
9.7.8	時間の計算	153
10	定数	154
11	変数	155
11.1	インスタンス変数	155
11.2	プロセス変数	155
11.3	システム変数	155
11.4	例	156



図表一覧

図 1: 開始コンテキスト	2
図 2: タスクの説明	7
図 3: 例 1 - 一般的なデータ マッピング - ログオン	8
図 4: 例 2 - 一般的なデータ マッピング - ログオン	8
図 5: ユーザーの選択	9
図 6: 一覧	10
図 7: 例 1 - 通知	11
図 8: 例 2 - 通知	12
図 9: ライブ メッセージ	12
図 10: ARIS Publisher エクスポートの作成	15
図 11: モデル/オブジェクト/グループのマージ	19
図 12: モデル/オブジェクトのロック解除	21
図 13: 単一 (上位) グループ属性の抽出	23
図 14: 複数アイテムから単一属性を抽出	25
図 15: 現在のモデル バージョンの選択	26
図 16: ARIS ユーザー グループからの属性の抽出	28
図 17: GUID によるアイテムの検索	29
図 18: 検出 - モデルとオブジェクトのグループ パス	30
図 19: モデルまたはオブジェクトのロック確認	33
図 20: 単一アイテムから複数属性を抽出	35
図 21: モデルを 1 つのみ作成	37
図 22: オブジェクトを 1 つのみ作成	40
図 23: グループ/フォルダーを 1 つのみ作成	41
図 24: データベースの作成	43
図 25: ARIS Publisher 動的エクスポートの作成	47
図 26: SAP ソリューション マネージャと同期	51
図 27: 個々のレポートの例	52
図 28: ARIS Publisher 静的エクスポートの作成	55
図 29: ショートカットの作成	57
図 30: バージョンの作成	59
図 31: データベースのコピー	60
図 32: データベースの削除	62
図 33: ARIS Publisher 動的エクスポートの削除	64



図 34: グループの削除	65
図 35: モデルの削除	67
図 36: オブジェクトの削除	68
図 37: データベースの整理	70
図 38: 複数アイテムに単一属性を設定	72
図 39: 単一アイテムに複数属性を設定	74
図 40: モデルとオブジェクトのロック	76
図 41: 一時ファイルの削除	78
図 42: 比較 - モデル バージョン	82
図 43: データベース内のモデル/オブジェクトの移動	84
図 44: 取得 - リンク	86
図 45: ARIS Connect でデータベースを公開	87
図 46: ユーザー管理 - 更新 - ユーザー情報	88
図 47: ユーザー管理 - 取得 - ユーザーの選択の有無	90
図 48: ユーザー管理 - 識別 - ユーザーのユーザー グループ	92
図 49: ユーザー管理 - 取得 - ユーザー情報	94
図 50: ユーザー管理 - 生成- ユーザー	96
図 51: ユーザー管理 - 生成- ユーザー グループ	97
図 52: ユーザー管理 - 削除- ユーザー	98
図 53: ユーザー管理 - 削除- ユーザー グループ	99
図 54: ユーザー管理 - 関連 - ユーザー グループ	101
図 55: ユーザー管理 - 割り当て- 利用権限をユーザーへ	103
図 56: ユーザー管理 - 割り当て - ライセンス	105
図 57: 文書の作成	107
図 58: 文書のダウンロード	108
図 59: 文書の更新	109
図 60: 文書のロックの解除	110
図 61: 文書の削除	111
図 62: 文書のロック	112
図 63: 文書の移動	113
図 64: 文書のメタデータの更新	114
図 65: 複数文書のメタデータの更新	115
図 66: フォルダーの作成	116
図 67: Process Governance - 取得 - プロセス インスタンス ID	117





図 68: モデル リンクの出力 (デザイン)	119
図 69: 最大/最小番号の選択	120
図 70: ユーザー入力のログ	122
図 71: 番号の作成または変更	123
図 72: 論理値の比較	124
図 73: 値が設定されているかを比較	125
図 74: テキスト属性 (文字列) の比較	126
図 75: 時間属性の比較	128
図 76: 未来日付の確認	128
図 77: 追加	129
図 78: 減算	130
図 79: 乗算	130
図 80: 除算	130
図 81: 等しい	131
図 82: 等しくない	131
図 83: より大きい	132
図 84: 以上	133
図 85: より小さい	134
図 86: 以下	135
図 87: AND	136
図 88: OR	136
図 89: NOT	137
図 90: ID によりアイテムを選択	138
図 91: 位置によるアイテムの選択	139
図 92: 集合の作成	139
図 93: 集合サイズの検出	140
図 94: 集合の交差を作成	140
図 95: 集合を文字列に変換	141
図 96: 集合の妥当性確認	141
図 97: 集合のマージ	142
図 98: パスによる文書の取得	143
図 99: 文書メタデータの取得	144
図 100: 文書のフィルター	144
図 101: 文書に HTTP リンクを作成	145











図 102: プロセス ボードへのパス	146
図 103: タイムスタンプの取得	147
図 104: 管理に存在するか確認	147
図 105: 電子メール/ログオン名でユーザーを検出	148
図 106: コミットされたリソースを取得	149
図 107: 参加者名の取得	149
図 108: 連結	150
図 109: タイムスタンプまたは日付を可読テキストに変換	151
図 110: XOR	152
図 111: 時間の計算	153
図 112: 定数	154
図 113: [集合] タイプの変数の例	156
図 114: 例 1 - 出力としての電子メール	157
図 115: 例 1 - 入力としての電子メール	157
図 116: 例 2 - 手動タスクの結果の文書化	158
図 117: 例 3 - 変数の設定	158
図 118: 例 3 - 変数の読み取り	158



1 開始コンテキスト

記号  は入ってくるデータ フローを表し、記号  は出ていくデータ フローを表します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	現在のデータベース	プロセスが開始したデータベースの名前。	<テキスト>
	現在のサーバー	プロセスが開始した ARIS Design Server の名前。	<テキスト>
	現在のユーザー	プロセスを開始したユーザーのログオン名。たとえば、このユーザーは、[手動タスク] タイプのオブジェクトに定義済みユーザーとして割り当てることができます。プロセスを起動するユーザーが、モデリング データベースにログオンします。ユーザーが匿名でログオンしたり、ARIS Publisher エクスポートにゲストとしてログオンしたり、イントラネット ページから ARIS 外部でプロセスが開始されたりする場合、ユーザーが不明である状況が発生することがあることに注意してください。開始者が不明にならないようにするには、最初のダイアログ ボックスに、ユーザーの電子メール アドレスを入力できるフィールドを追加してください。このフィールドは、[電子メール/ログオン名でユーザーを検出] 演算子を使って、[手動タスク] タイプまたは [通知] タイプのオブジェクトに（宛先や Cc などに）割り当てることができます。	<テキスト>
	現在のフィルター	プロセスが開始されるデータベースにログオンするために使用するフィルターの名前。	<テキスト>
	現在の言語	プロセスが開始されるデータベースにログオンするためにユーザーが使用した言語。	<テキスト>
	選択したアイテムの GUID	プロセスが開始されたアイテムのタイプ名（たとえば、「組織図」や「ファンクション」など）が出力されます。	
	タイプ	プロセスが開始されたアイテムのタイプ名（たとえば、「組織図」や「ファンクション」など）が出力されます。このフィールドは、[自動タスク] タイプのオブジェクト用または [手動タスク] タイプのオブジェクトの一覧用の入力データを含むことがあります。	<テキストの集合>
	選択したアイテムの名前	プロセスが開始されたアイテムの名前（たとえば、「モデル」や「オブジェクト」など）が出力されます。	
	名前	プロセスが開始されたアイテムの名前（たとえば、「モデル」や「オブジェクト」など）が出力されます。このフィールドは、[自動	<テキストの集合>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
←	現在のデータベース	プロセスが開始したデータベースの名前。	<テキスト>
		タスク] タイプのオブジェクト用または [手動タスク] タイプのオブジェクトの一覧用の入力データを含むことがあります。	
←	選択したアイテムのタイプ名	プロセスが開始されたアイテムのタイプ名 (たとえば、「組織図」や「ファンクション」など) が出力されます。	
←	タイプ	プロセスが開始されたアイテムのタイプ名 (たとえば、「組織図」や「ファンクション」など) が出力されます。このフィールドは、[自動タスク] タイプのオブジェクト用または [手動タスク] タイプのオブジェクトの一覧用の入力データを含むことがあります。	<テキストの集合>
←	選択したアイテムの API 名	プロセスが開始されたアイテムの API 名 (たとえば、組織図には MT_ORG_CHRT、ファンクションには OT_FUNC) が出力されます。	
←	API 名	プロセスが開始されたアイテムの API 名 (たとえば、組織図には MT_ORG_CHRT、ファンクションには OT_FUNC) が出力されます。このフィールドは、[自動タスク] タイプのオブジェクト用または [手動タスク] タイプのオブジェクトの一覧用の入力データを含むことがあります。	<テキストの集合>





図 1: 開始コンテキスト






2 手動タスク




2.1 一般的なデータ マッピング

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	タスク名	<p>このボックスには、タスクの表示に使用するタスク名が表示されます。データ フローで明示的な名前がモデリングされていない場合、[手動タスク] タイプの関連付けられているオブジェクトの名前が表示されます。</p> <p>必要とされる簡単なテキスト構造は、次のようにモデリングすることができます:</p> <p>たとえば、[要求元] 値を持つ定数を、[集合の作成] タイプの演算子、および現在の日付を表す追加の定数と接続します。[タスク名] ボックスで、[集合の作成] 演算子を [行の書式設定] タイプの演算子と接続します。</p>	<テキスト>
	タスクの説明	<p>このフィールドには、タスクの説明が表示されます。データ フローでモデリングされている明示的な説明がない場合は、何も表示されません。</p>	<テキスト>





イン/アウト	名前	詳細	データ型
	タスク名	<p>このボックスには、タスクの表示に使用するタスク名が表示されます。データフローで明示的な名前がモデリングされていない場合、[手動タスク] タイプの関連付けられているオブジェクトの名前が表示されます。</p> <p>必要とされる簡単なテキスト構造は、次のようにモデリングすることができます：</p> <p>たとえば、[要求元] 値を持つ定数を、[集合の作成] タイプの演算子、および現在の日付を表す追加の定数と接続します。[タスク名] ボックスで、[集合の作成] 演算子を [行の書式設定] タイプの演算子と接続します。</p>	<テキスト>
	実行者グループ (必須入力)	<p>このフィールドには、[手動タスク] タイプのオブジェクトを実行する 1 人あるいは複数の要員が表示されます。自動化に関連する組織要素が [実行する] タイプの接続線によって [手動タスク] タイプのオブジェクトに接続されている場合、定数が自動的に作成されます。(例外：接続線属性が設定されている場合)。</p> <p>定数の値には、組織要素の名前だけでなく、複雑な XML 情報も含まれます。</p> <p>入力データが異なる形で転送された XML 構造の場合、定数は削除されることがあります。たとえば以下のような場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ [手動タスク] タイプのオブジェクトが実行されている間に要員が選択されると、その要員が入力データとして接続可能になるような場合です。 ▪ 演算子 [電子メール/ログオン名でユーザーを検出] を使用してログオン名を入力データとして接続することができます。 <p>どちらのオプションも複雑な XML データを表します。</p>	<ユーザー>
	定義済み実行者のログオン (オプション)	<p>このフィールドは、実行者グループの要員 1 人のみのログオンに接続される必要があります。(要員が実行者グループでない場合は、その割り当ては無視されます)。</p> <p>必要とされる簡単なテキスト構造は、次のようにモデリングすることができます：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ ログオン情報がマニュアルで入力された [手動タスク] タイ 	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	タスク名	<p>このボックスには、タスクの表示に使用するタスク名が表示されます。データ フローで明示的な名前がモデリングされていない場合、[手動タスク] タイプの関連付けられているオブジェクトの名前が表示されます。</p> <p>必要とされる簡単なテキスト構造は、次のようにモデリングすることができます：</p> <p>たとえば、[要求元] 値を持つ定数を、[集合の作成] タイプの演算子、および現在の日付を表す追加の定数と接続します。[タスク名] ボックスで、[集合の作成] 演算子を [行の書式設定] タイプの演算子と接続します。</p>	<テキスト>
		<p>ブのオブジェクトのテキスト フィールドに接続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 初期ダイアログの現在のユーザーは、入力データとしてモデリングすることができます。 ▪ ARIS 属性からログオン情報を取り出す Web サービスを、入力データとして割り当てることができます。 	
	優先度	<p>[手動タスク] タイプのオブジェクトには、それぞれ優先度があります。優先度が指定されていない場合は、優先度「normal」が使用されます。「high」または「low」を優先度に設定する場合は、該当する値を持つ定数をこのフィールドに接続します。</p>	<テキスト>
	スループット時間	<p>このスループット時間は、タスクの実行に許可される時間を表します。(この時間を越えた場合、エスカレーション電子メールが送信されます)</p> <p>このフィールドが空の場合、[手動タスク] タイプのオブジェクトの [最大スループット時間] 属性が使用されます。</p> <p>このフィールドが期間に接続されている場合、その時間属性は無効です。</p> <p>期間の定義方法は 2 つあります：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 入力データとして定数を定義し、フィールドに接続するか、またはユーザーが期間を定義した [手動タスク] タイプのオブジェクトに接続します。 ▪ または、[手動タスク] タイプのオブジェクトが持つことができる期間は実行中に動的に定義されます。 	<期間>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	タスク名	<p>このボックスには、タスクの表示に使用するタスク名が表示されます。データフローで明示的な名前がモデリングされていない場合、[手動タスク] タイプの関連付けられているオブジェクトの名前が表示されます。</p> <p>必要とされる簡単なテキスト構造は、次のようにモデリングすることができます：</p> <p>たとえば、[要求元] 値を持つ定数を、[集合の作成] タイプの演算子、および現在の日付を表す追加の定数と接続します。[タスク名] ボックスで、[集合の作成] 演算子を [行の書式設定] タイプの演算子と接続します。</p>	<テキスト>
	タスクを指定してのエスカレーション	<p>定義済みの時間内にタスクが実行されない場合は、エスカレーション電子メールが担当者に送信されます。このフィールドが接続されていない場合、電子メールは [手動タスク] タイプの現在のオブジェクトの実行者の組織上の責任者に送信されます。このフィールドが、エスカレーション関連の組織要素に接続されている場合は、電子メールはそのロールに送信されます。</p> <p>例： 役職「品質管理者」が [手動タスク] タイプのオブジェクトを実行しなければならない場合。エスカレーション電子メールは品質管理者ではなく、代わりにプロセス担当者に送信されます。</p>	<ユーザー>

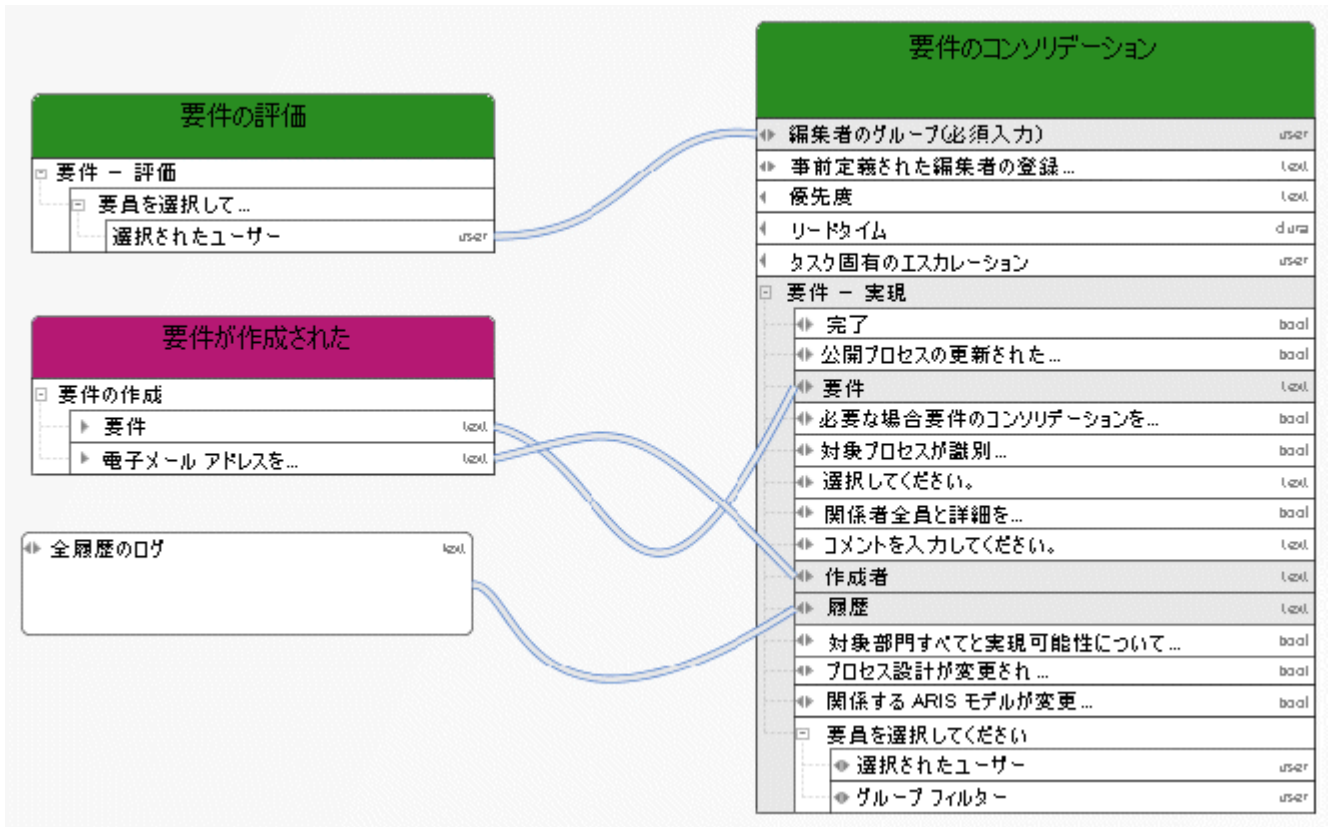


図 2: タスクの説明

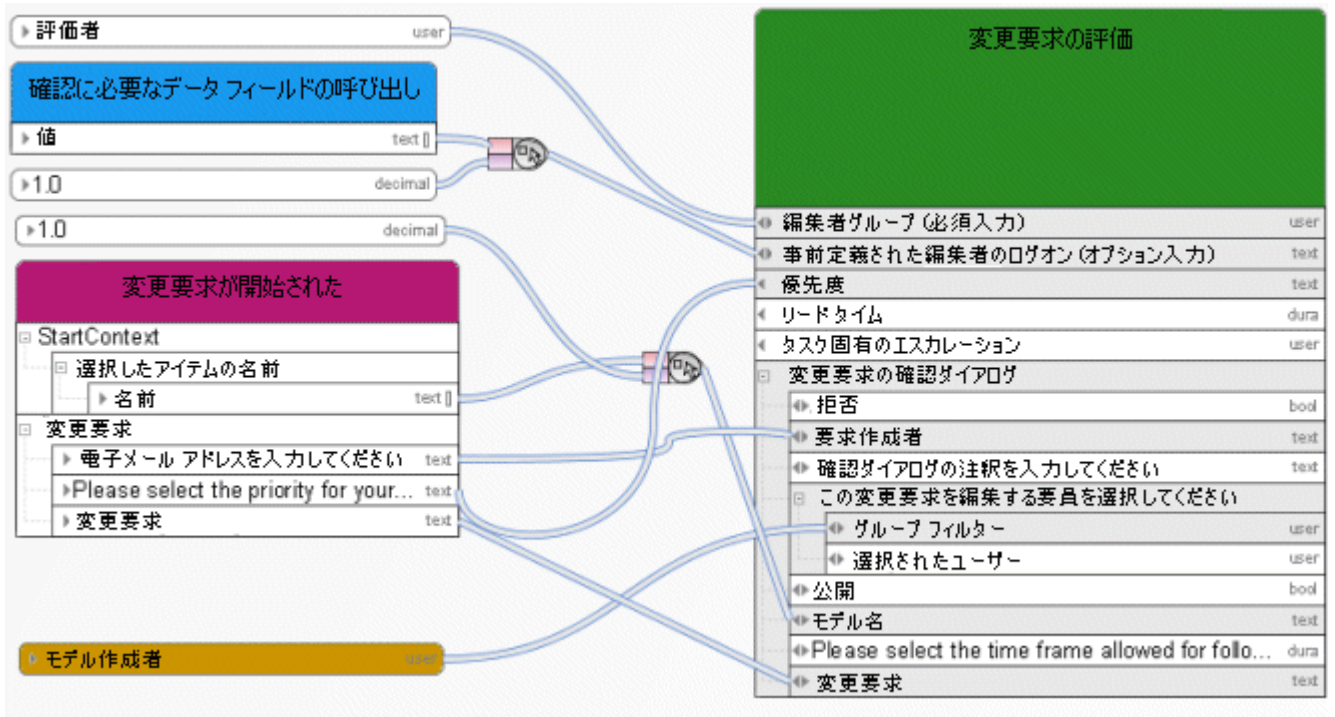


図 3: 例 1 - 一般的なデータ マッピング - ログオン

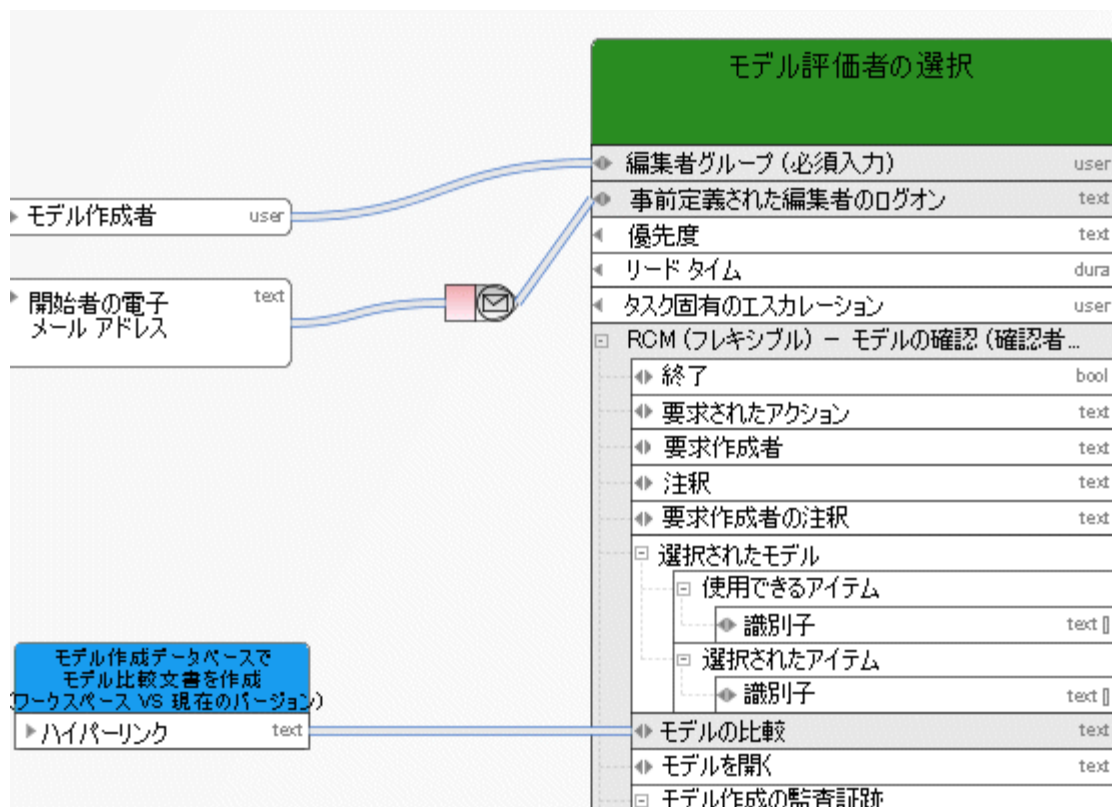


図 4: 例 2 - 一般的なデータ マッピング - ログオン



2.2 ユーザーの選択に対するデータ マッピング

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	選択したユーザー	ダイアログに実行者の選択が提示されている場合は、それらの要員は選択済みです（ユーザーがあらかじめ選択されている [手動タスク] タイプの別のオブジェクトからの入力データによる）。または、要員を選択することができます（[手動タスク] タイプの現在のオブジェクトの出力データ）。入力データがモデリングされていない場合、ダイアログ ボックスに事前選択は表示されません。（出力データは [手動タスク] タイプのオブジェクトの [実行者グループ（必須入力）] フィールドに接続することができます）。	<ユーザー>
	グループ フィルター	実行者の選択が使用されている場合、実行者が選択可能な要員リストは、組織要素のモデリングによって定義されます。組織要素がモデリングされていない場合、プロセス ボードのライセンスを持つすべての要員を利用できます。	<ユーザー>

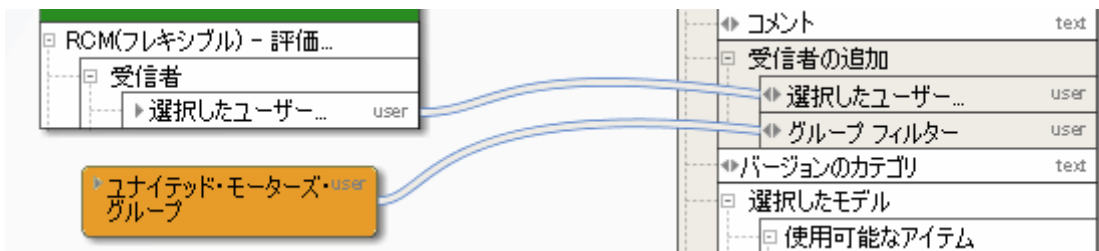


図 5: ユーザーの選択



2.3 一覧のデータ マッピング






イン/アウト	名前	詳細	データ型
	使用可能なアイテム	ダイアログ ボックスで一覧が使用されている場合は、モデルの一覧などのように値を入力できます。	
↻	識別子の割り当て	リストに値を表示するためには、あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] のいずれかのオブジェクト タイプからモデルまたはオブジェクトに接続するか、または GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	選択したアイテム	編集できる一覧がダイアログ ボックスで使用されている場合は、実行者は一覧からモデルなどのアイテムを選択できます。	
↻	識別子の割り当て	実行者は一覧からエントリを選択できます。これらのエントリは、[手動タスク] または [自動タスク] タイプの別のオブジェクト入力データとして使用できます。	<テキストの集合>



図 6: 一覧



3 通知とライブ メッセージ

イン/ アウト	名前	詳細	データ型
	宛先	通知の受信者。通知の場合のみ。	<ユーザー>
	CC	コピー、および通知の受信者。通知の場合のみ。	<ユーザー>
	BCC	ブラインド コピー、および通知の受信者。通知の場合のみ。	<ユーザー>
	件名	内容またはトピックの短い説明。	<テキスト>
	内容	通知またはライブ メッセージの内容。	<テキスト>

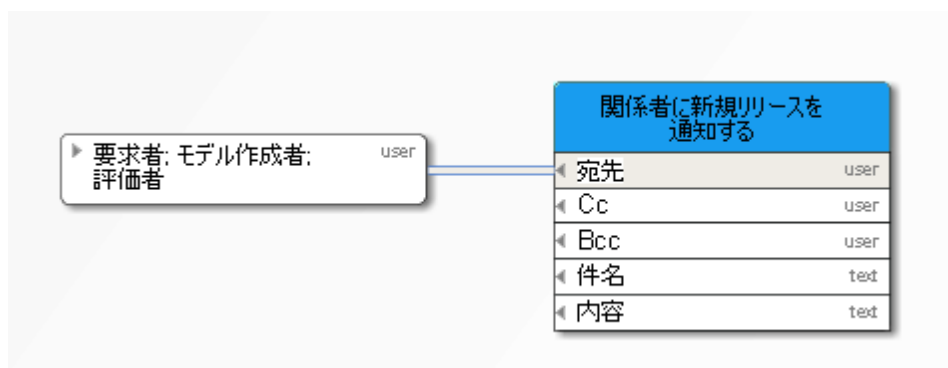


図 7: 例 1 - 通知

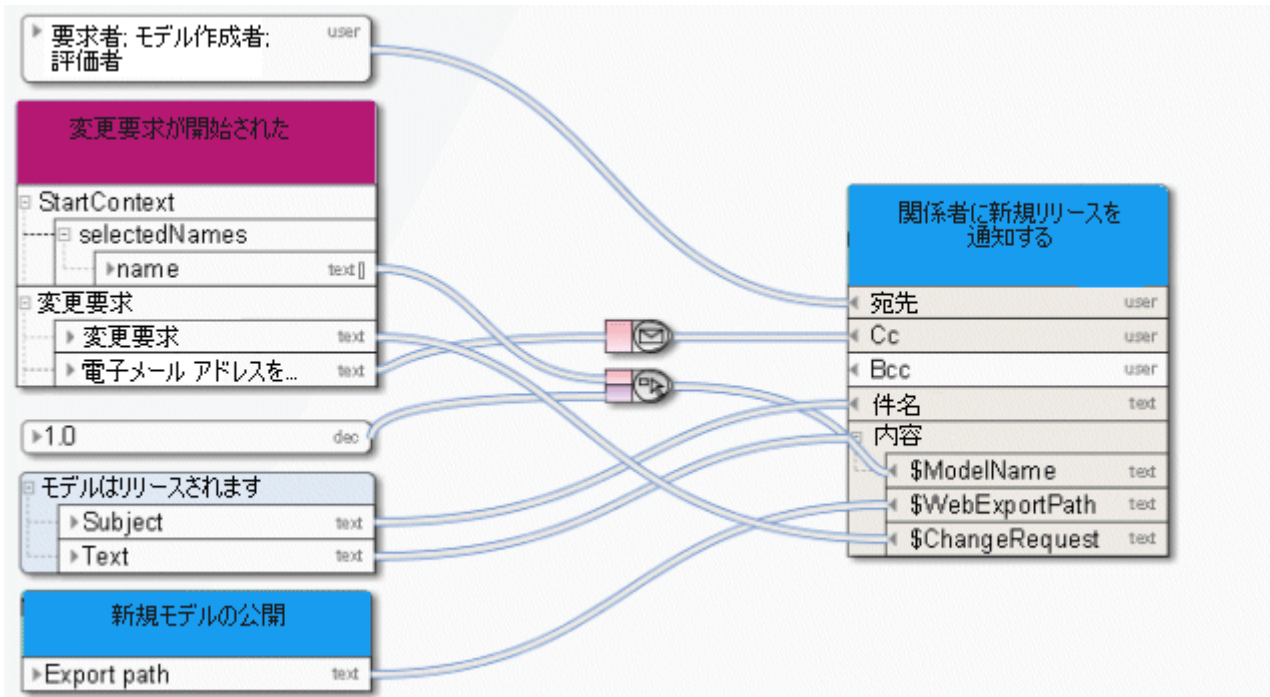


図 8: 例 2 - 通知

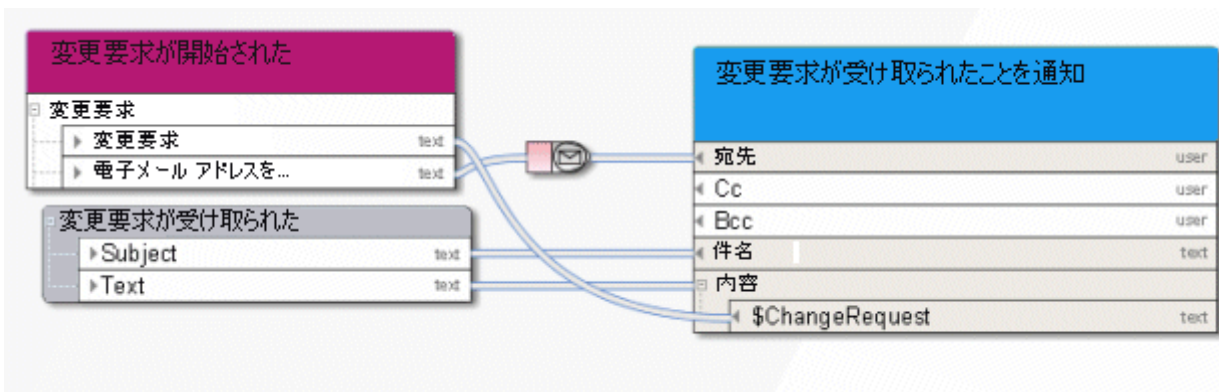


図 9: ライブ メッセージ



4 ビジネス サービス

4.1 ARIS Publisher エクスポートの作成

このサービスは、特定のモデルを読取専用で公開するための Web エクスポートを作成します。エクスポートは静的のため、電子メールなどで出力ファイルを使用することが可能です。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	公開するモデルを選択してください。	
	識別子の割り当て	[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルに接続するか、または GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	パス	エクスポートを保存するパスを指定してください (例: C:¥temp¥Export)。	<テキスト>
	内容ルート	内容ルートへのパスを指定してください。例: http://system123.me.corp.example.com:0909	<テキスト>
	オブジェクト ページの作成	情報を表示するオブジェクト タイプを指定してください。	
	オブジェクト タイプ	API 名 (例: [ファンクション] の場合 OT_FUNC) を使用してオブジェクト タイプを定義するかまたは演算子 [集合の作	<テキストの集合>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		成] を使用します。何も定義しない場合は、オブジェクト ページがすべてのオブジェクト タイプに生成されます。	
➡	アサインメント レベル	選択したモデルに詳細モデルを追加するには、ゼロよりも大きいアサインメント レベルを指定してください。	<10 進数>
➡	印刷倍率の使用	指定したサイズでモデルを印刷する場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
➡	元のサイズ	元のサイズを定義してください。例: 「100」。	<10 進数>
➡	拡大縮小	モデルの倍率を定義してください。例: 75、100、125、150。	<テキスト>
➡	白黒	モデルを白黒表示にする場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
➡	透明	モデルを透過表示にする場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	文書リンクのリスト	コピーする文書を含むリンク属性を指定してください。	
➡	属性タイプ	API 名 (例: [リンク 1] の場合、AT_EXT_1) を使用してリンク属性タイプを定義するか、GUID を入力して [集合の作成] 演算子を使用します。	<テキストの集合>
➡	レイアウト	ARIS Publisher の出力レイアウトを選択してください。例: 「defaultLayout」。	
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
➡	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
➡	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
➡	エクスポート パス	エクスポート結果の保存場所のパスと名前です。これはハイパーリンクとして使用することができます。	<テキスト>

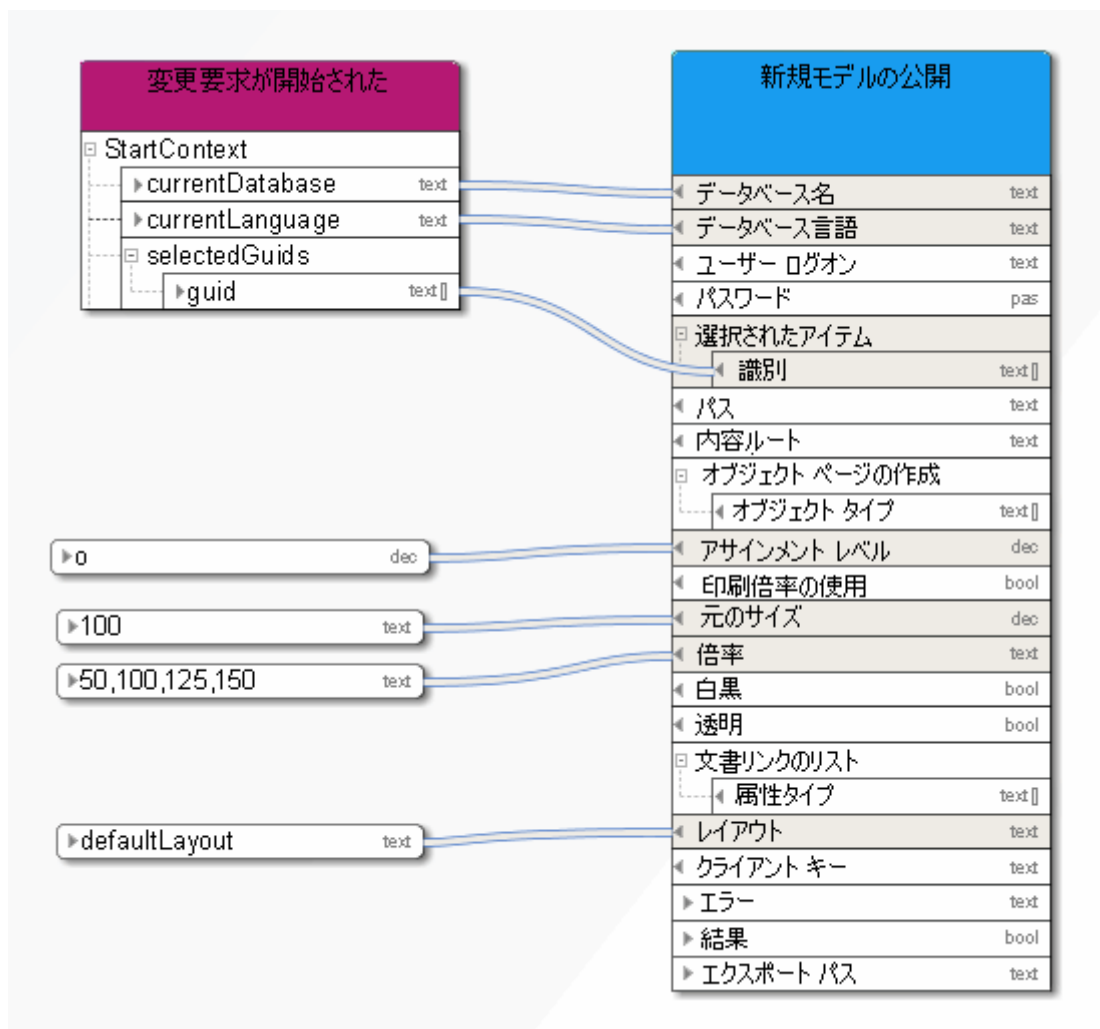


図 10: ARIS Publisher エクスポートの作成



4.2 挿入 - モデル/オブジェクト/グループ

このサービスは、ソース データベースのモデルまたはオブジェクト、あるいはその両方をターゲット データベースにマージします。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	ターゲット データベースにマージするモデル、オブジェクトまたはグループを選択してください。	
	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します (グループには GUID は存在しません)。	<テキストの集合>
	ターゲット データベース	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからターゲット データベースを接続するか、または定数を使用してターゲット データベースの名前を入力します。	<テキスト>
	属性のマージ	ソース属性とターゲット属性をマージする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	アサインメント レベル	マージ処理の対象になるアサインメント レベルを定数で指定してください。	<10 進数>
	選択外のアサインメント	マージ処理に含めるアサインメントを定義してください: 周辺項目を対象にする場合は、論理定数に TRUE を定義します。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	選択外の接続線	マージ処理に含める接続線を定義してください: 周辺項目を対象にする場合は、論理定数に TRUE を定義します。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	モデル: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合の設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	オブジェクト: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合の設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	接続線: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合の設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	フロント: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合の設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	ユーザー: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合の設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に	<論理値>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		FALSE が使用されます。	
➡	ユーザー グループ: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合の設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
➡	ユーザーのマージ	関連付けられているユーザー グループをマージする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
➡	グループ: ソースを対象にする	競合が発生した場合にソースを含むグループを選択するには、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
➡	アサインメントの同期	アサインメントを同期するには、論理定数に TRUE を定義してください。モデルに対する関係がソース データベース内に存在し、マージ処理中にこのモデルが（以前のマージによるものなど）ターゲット データベースに見つかった場合、これらの関係が再作成されます。	<論理値>
➡	パス	ログ ファイルが保存されるパス。	<テキスト>
➡	内容ルート	内容ルートへのパスの一部を指定してください。例: <code>http://system123.me.corp.example.com:0909</code>	<テキスト>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
➡	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
➡	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
➡	ハイパーリンク	生成されたログ ファイルへのハイパーリンクが出力されます。	<テキスト>

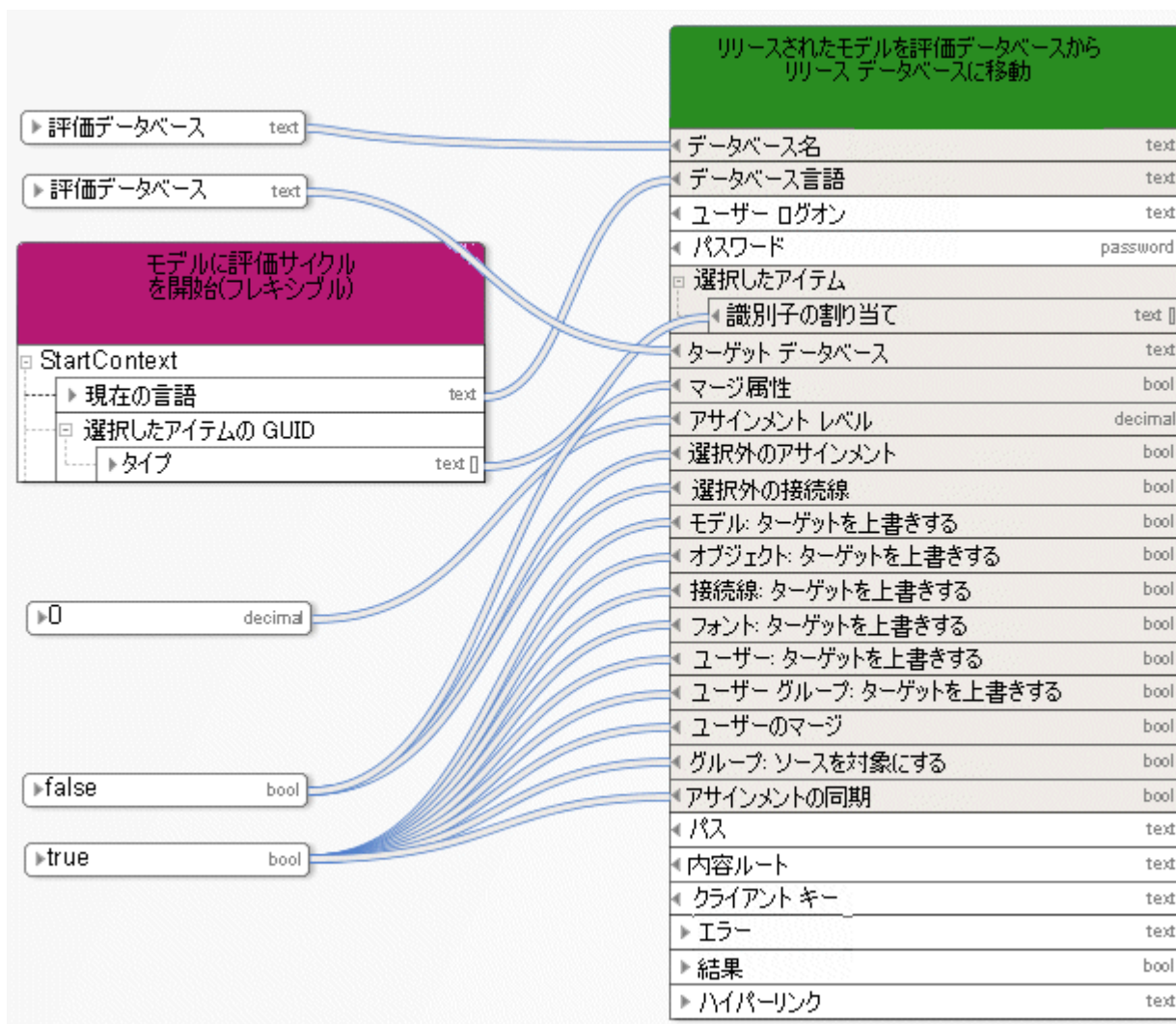


図 11: モデル/オブジェクト/グループのマージ



4.3 ロック解除 - モデル/オブジェクト

このサービスは、モデルまたはオブジェクト、あるいはその両方のロックを解除します。ロックを解除するモデルまたはオブジェクトを選択することができます。ロックの解除を強制することもできます（管理者：ロックの解除）。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例：日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	ロックを解除するモデルまたはオブジェクトを選択してください。	
	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント（プロセス インスタンスが開始された）] タイプの別のオブジェクトからモデルまたはオブジェクトを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	管理者：ロックの解除	ロックの解除を強制するには、論理定数に TRUE を定義してください。論理定数が定義されていない場合は、FALSE が使用されます 指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	現在のユーザーをロックに使用_IDS	現在のユーザーを、接続線を使ってデータ フローの該当フィールドに割り当てると、現在のユーザーが手動で行ったかのようにモデルやオブジェクトのロックが実行されます。これは、実際に	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		サービスを実行するユーザー arisservice の権限ではなく現在のユーザーの個人的な権限が反映されることを意味します。	
⬅	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラーメッセージが表示されます。	<テキスト>
⬅	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

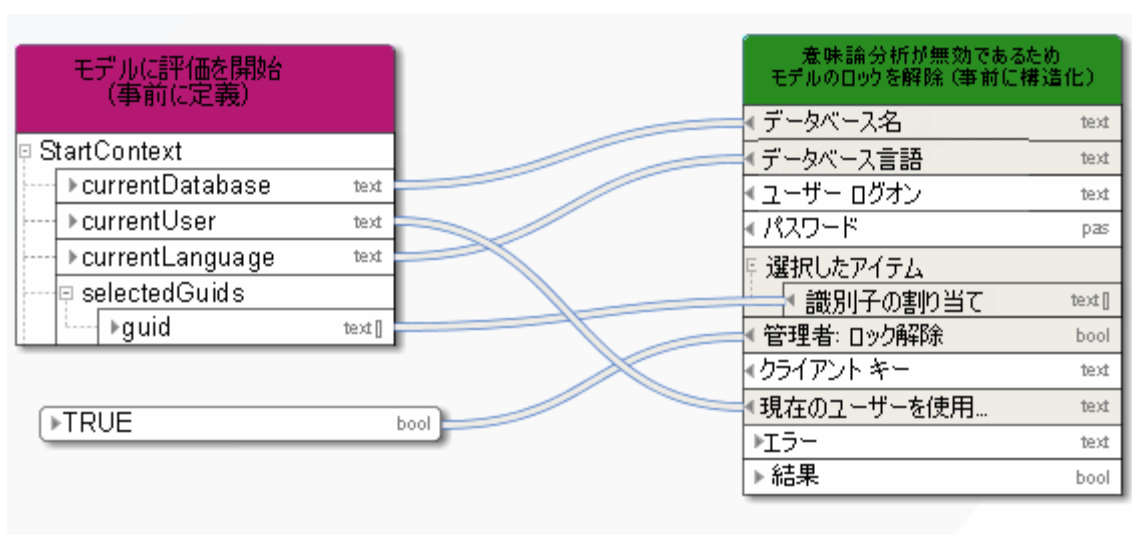


図 12: モデル/オブジェクトのロック解除

4.4 獲得 - 1 (上位) ディレクトリ属性

このサービスは、グループから属性を 1 つのみ (例: [説明]) 抽出します。指定した属性が未指定の場合は、属性に指定値が見つかるか、またはメイン グループに達するまで、このサービスは上位グループからの該当属性の抽出を続けます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	データベース名	[自動タスク] タイプのアクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
➡	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、デー	<テキスト> または <言語>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	複数のグループから、属性を 1 つのみ取り出します（例：[説明/定義] 属性）。複数のモデルまたはオブジェクトを選択して、グループを認識することもできます。この場合、それらのモデルまたはオブジェクトを含むグループが選択されます。	
	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します (グループには GUID は存在しません)。選択したアイテムを含むグループが認識されます。	<テキストの集合>
	(上位) グループ属性の抽出	選択した 1 つの属性が取り出されます (複数グループから 1 つのグループ属性のみ)。グループ属性が空の場合は、属性に指定値が見つかるか、またはメイン グループに達するまで上位のグループ属性から抽出が行われます。あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからグループ属性タイプを接続するか、API 名または GUID を入力します。	<テキスト>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
←	値	必要な属性値をリストにして返します。	<テキストの集合>

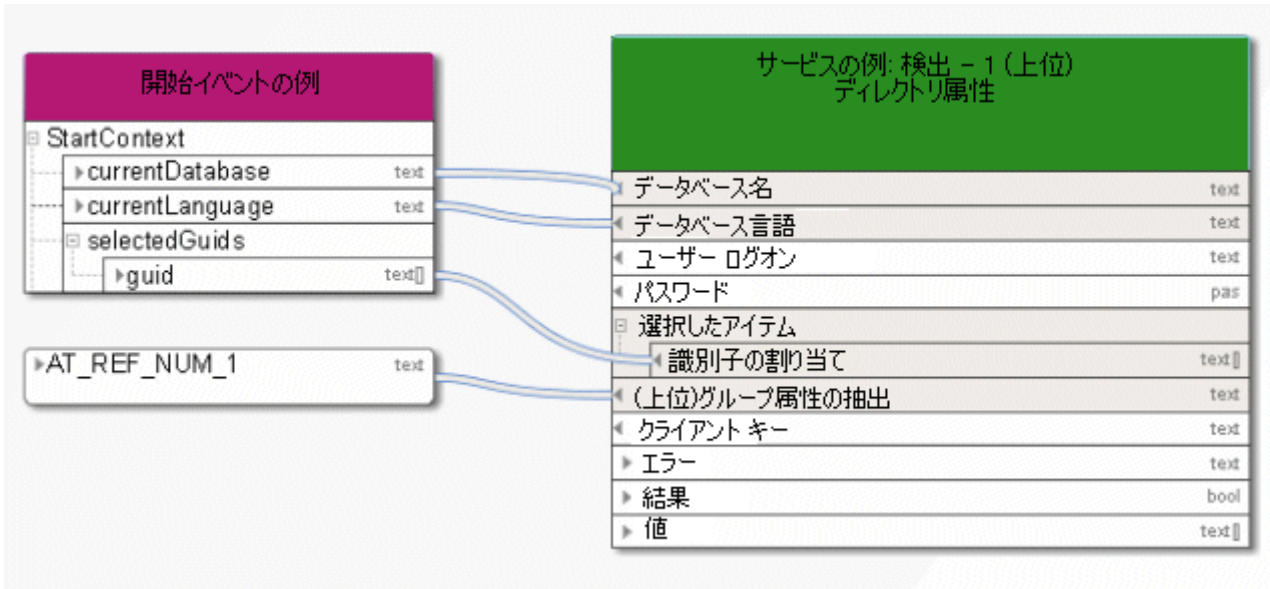


図 13: 単一 (上位) グループ属性の抽出

4.5 抽出 - 複数アイテムに対して 1 属性

このサービスは、モデル、オブジェクト、またはグループから属性を 1 つのみ (例: [説明]) 取り出します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
→	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
→	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログ	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		オン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	複数のモデル、オブジェクト、またはグループから、属性を 1 つのみ取り出します (例: [説明/定義] 属性)。	
➡	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します (グループには GUID は存在しません)。	<テキストの集合>
➡	単一属性の抽出	選択した 1 つの属性が取り出されます (モデルなどの複数のアイテムから 1 つの属性のみ)。	<テキスト>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
➡	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
➡	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
➡	値	必要な属性値をリストにして返します。	<テキストの集合>

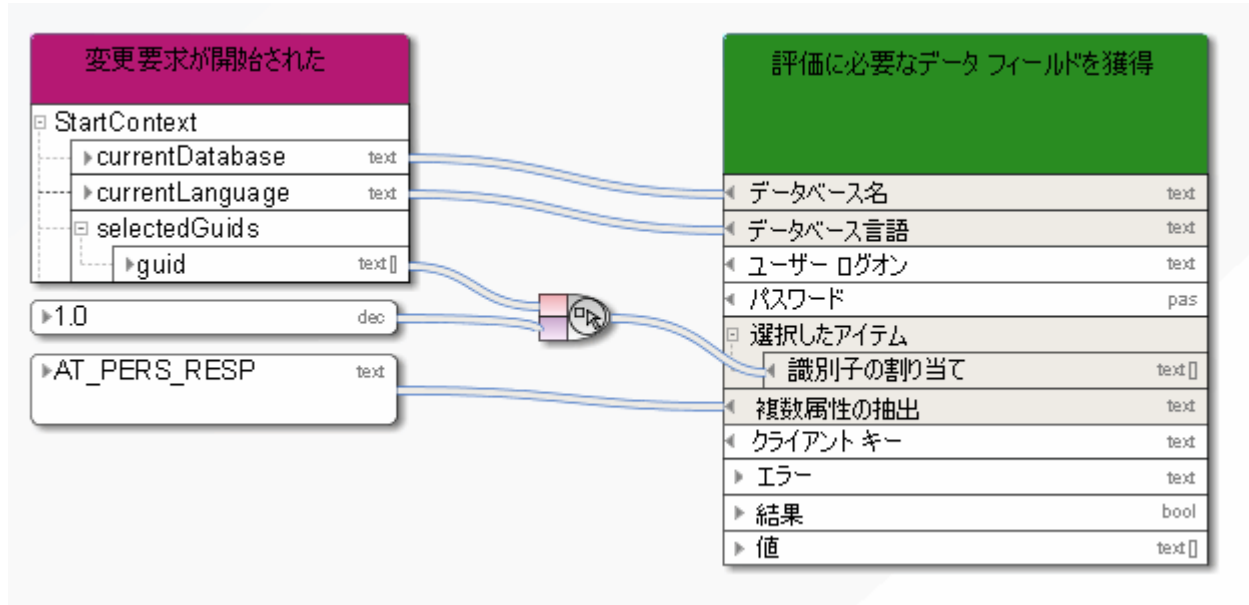


図 14: 複数アイテムから単一属性を抽出

4.6 取得 - モデルの現在の技術バージョン

このサービスは、使用可能なバージョンのリストから必要モデルに最新の変更リスト（現在のモデル）を選択します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
➡	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパス	<パスワード>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		ワード。	
	選択したアイテム	現在のバージョンが必要なモデルを選択してください。	
➡	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
➡	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
➡	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
➡	変更リスト	各モデルに、[現在のバージョン] の変更リスト番号が返されます。	<10 進数の集合>

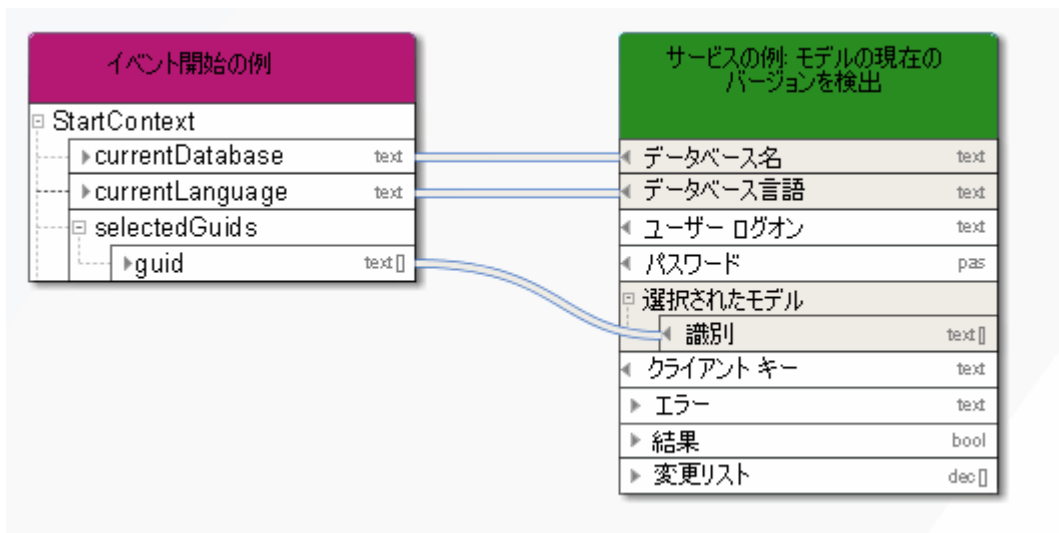


図 15: 現在のモデル バージョンの選択



4.7 取得 - ARIS ユーザー グループ属性

このサービスは、ARIS ユーザー グループを選択してユーザー グループ属性を返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
➡	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
➡	ユーザー グループの名前	属性を取り出す ARIS データベースのユーザー グループ名を入力してください。	<テキスト>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
⬅	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
⬅	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
⬅	値	ARIS データベースのユーザー グループの属性値リストが出力されます。	<テキストの集合>

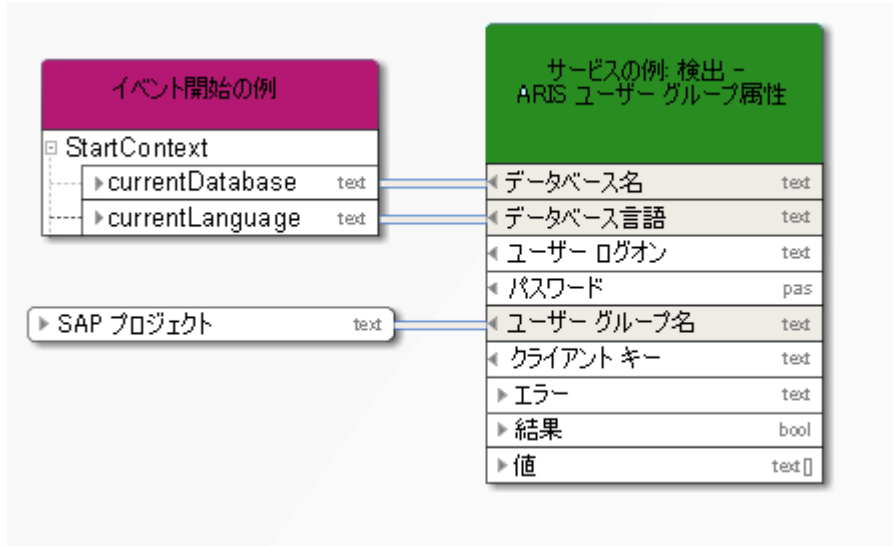


図 16: ARIS ユーザー グループからの属性の抽出

4.8 取得 - GUID から要素

このサービスは、所定の GUID リストにしたがってモデルなどのアイテムを検索します。これらのアイテムは、その後の処理に使用することができます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
➡	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	選択したアイテム	検索するモデルまたはオブジェクトを選択してください。	
➡	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
⬅	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
⬅	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	検索されたアイテム	見つかったすべてのアイテムの一覧を返します (モデルなど)。	
⬅	GUID	検索で見つかったアイテムに出力された GUID のリストです。	<テキストの集合>
	検索されなかったアイテム	見つからなかったアイテムの一覧を返します (モデルなど)。	
⬅	GUID	検索で見つからなかったアイテムに出力された GUID のリストです。	<テキストの集合>

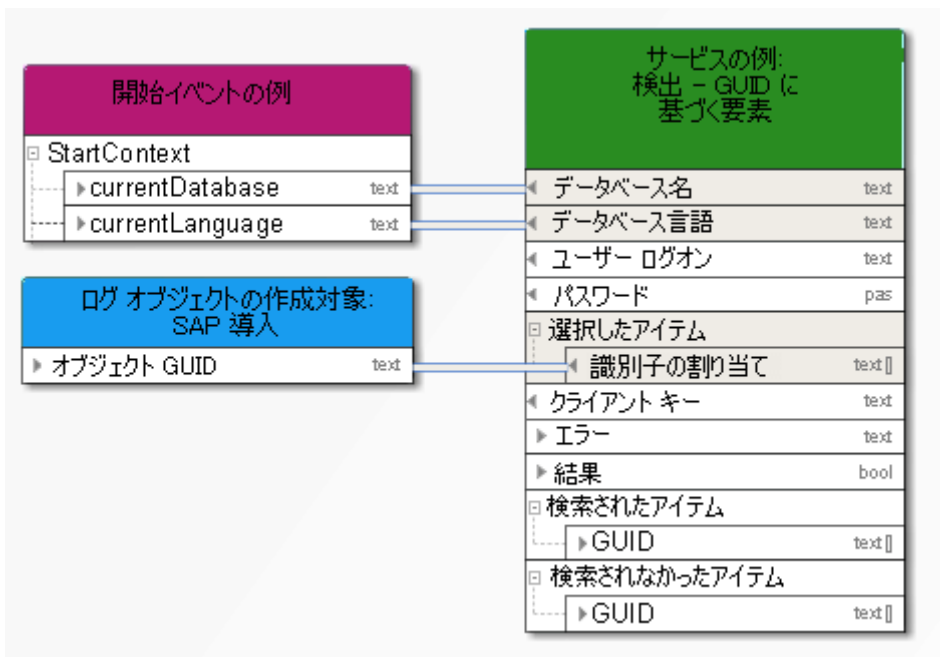


図 17: GUID によるアイテムの検索



4.9 検出 - モデルとオブジェクトのグループ パス

このサービスは、モデルおよびオブジェクトのグループ パスを検出します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	GUID	モデルおよびオブジェクトの GUID の一覧です。	<テキストの集合>
	結果	それぞれのモデルまたはオブジェクトのパスです。	<テキストの集合>

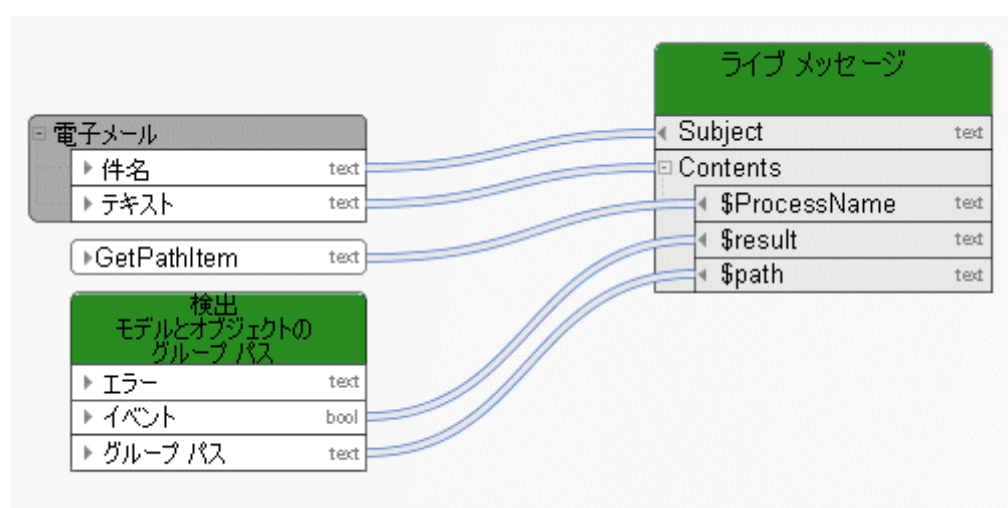


図 18: 検出 - モデルとオブジェクトのグループ パス

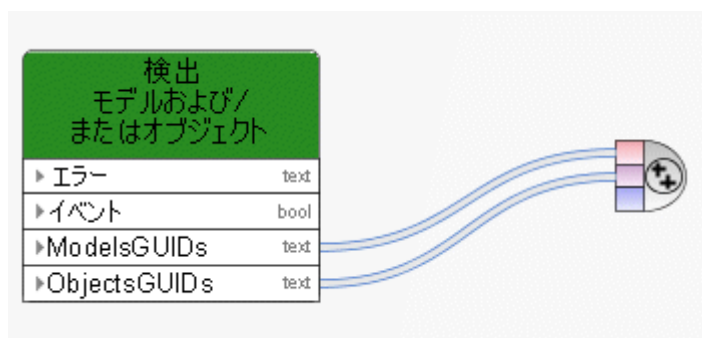
4.10 検出 - モデルおよび/またはオブジェクト

このサービスは、モデルまたはオブジェクト、あるいはその両方から構成される入力を並べ替え、GUID に従って並べ替えられた一覧を 2 つ (モデルに 1 つ、オブジェクトに 1 つ) 出力します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定すること	<テキスト> または <言語>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		<p>もできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。</p> <p>国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。</p>	
	選択したアイテム	モデルまたはオブジェクト、あるいはその両方から構成される並べ替えられていない入力です。	<複合>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE（論理値）のいずれかになります。	<論理値>
	モデルの GUID	入力データの中から見つかった、GUID に従って並べ替えられたモデルの一覧です。	<テキスト>
	オブジェクトの GUID	入力データの中から見つかった、GUID に従って並べ替えられたオブジェクトの一覧です。	<テキスト>



4.11 検出 - ロック ステータス (モデル/オブジェクト)

このサービスは、モデルおよびオブジェクトのロック ステータスを検出します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語	<テキスト> または <言語>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		(オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	確認するモデルまたはオブジェクトを選択してください。モデルチェックはモデルのステータスを返しますが、モデルにオカレンスを持つオブジェクトのステータスは返しません。	
➡	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
➡	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
➡	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
➡	アイテムがロックされていない	ロックされているアイテムがない場合は、TRUE (論理値) を返します。少なくとも 1 つのアイテムがロックされている場合は、FALSE (論理値) を返します。	<論理値>
➡	少なくとも 1 つのアイテムがロックされている	少なくとも 1 つのアイテムがロックされている場合は、TRUE (論理値) を返します。ロックされているアイテムがない場合は、FALSE (論理値) を返します。	<論理値>
➡	すべてのアイテムがロックされている	すべてのアイテムがロックされている場合は、TRUE (論理値) を返します。少なくとも 1 つのアイテムがロックされていない場合は、FALSE (論理値) を返します。	<論理値>
➡	名前	確認されたアイテムに返された名前のリストです。	<テキストの集合>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
↻	GUID	確認されたアイテムに返された GUID のリストです。	<テキストの集合>
↻	アイテム所有者	アイテムをロックした所有者の一覧が出力されます。	<テキストの集合>

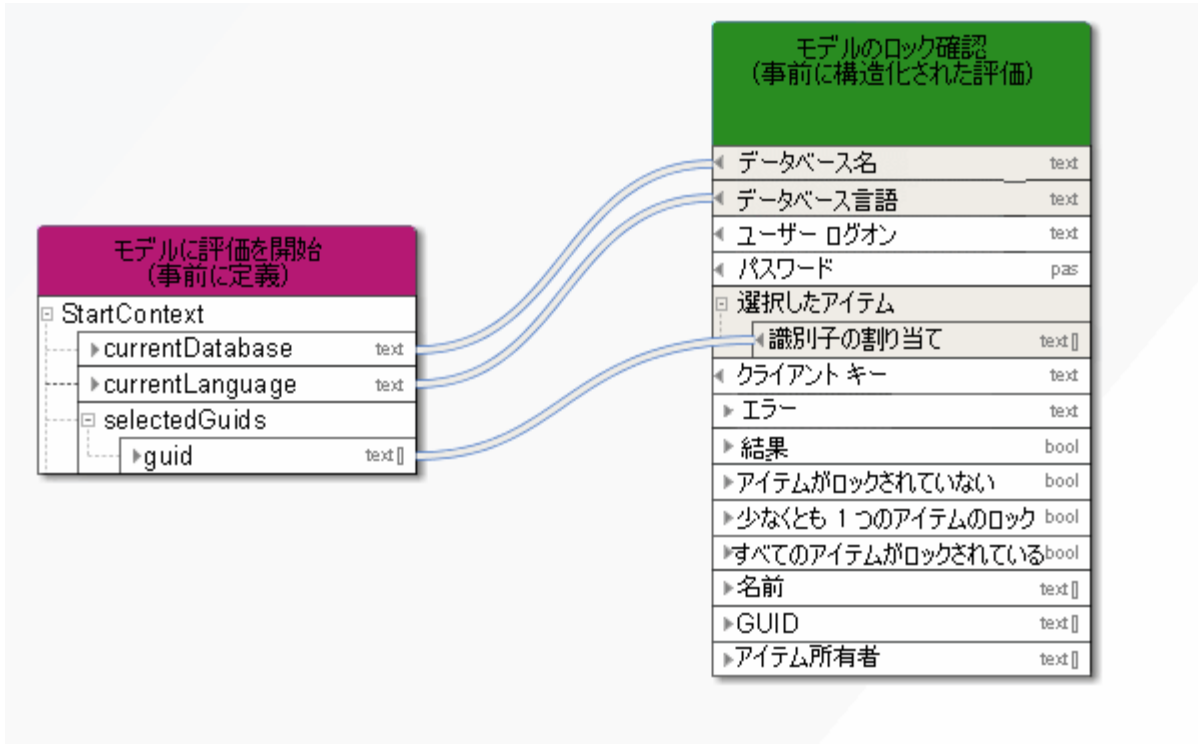


図 19: モデルまたはオブジェクトのロック確認

4.12 抽出 - 単一アイテムに対して複数属性

このサービスは、1 つのアイテム（モデル、オブジェクト、またはグループ）から複数の属性（[モデル ステータス]、[バージョン番号]、および [リリース] など）を検出します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
➡	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として	<テキスト> または <言語>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
➡	選択したアイテム	このサービスは、1 つのモデル、オブジェクト、またはグループから複数の属性（[説明] および [著者] など）を取得します。あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント（プロセス インスタンスが開始された）] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクトまたはグループを接続するか、または GUID を入力します。（グループには GUID は存在しません）。	<テキスト>
	複数属性の抽出	選択した複数の属性を取り出します（1 つのアイテムから複数の属性。例：1 つのモデルから [モデル ステータス]、[バージョン番号] および [リリース] 属性を取り出す）。	
➡	タイプ	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント（プロセス インスタンスが開始された）] タイプの別のオブジェクトから複数の属性タイプを接続するか、または API 名あるいは GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
➡	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
➡	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE（論理値）のいずれかになります。	<論理値>
	属性	属性を該当値とともにリストにして返します。	



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	属性と値	関連属性とその該当値が返されたリスト。	
←	属性タイプ	必要な属性タイプのリストが返されます。	<テキスト>
←	属性値	必要な属性タイプに属性値のリストが返されます。	<テキスト>

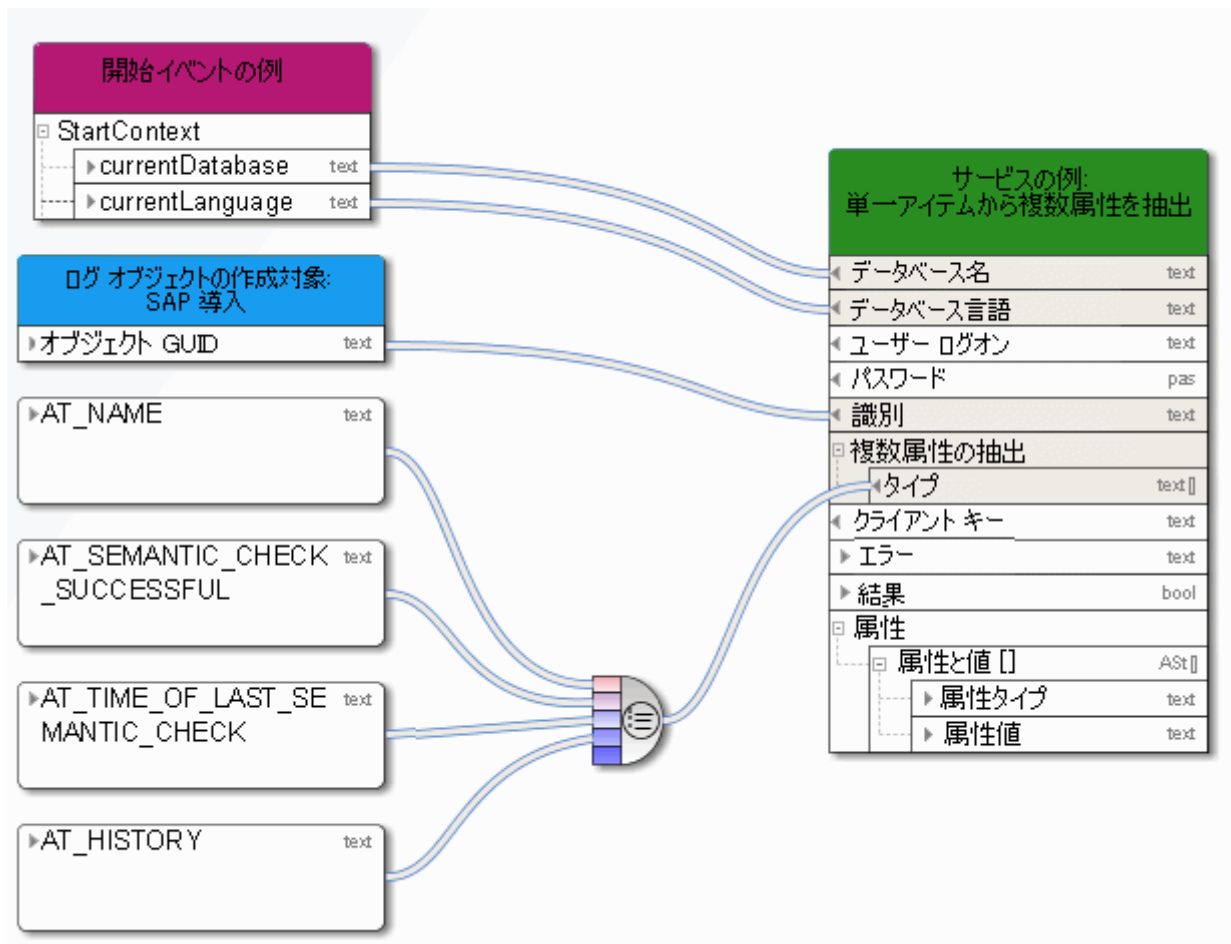


図 20: 単一アイテムから複数属性を抽出



4.13 作成 - 1 モデル

このサービスは必要なタイプのモデルを 1 つのみ作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	モデル名	新規モデルの名前を入力します。	<テキスト>
	モデル タイプ	API 名 (例: EPC の場合、MT_EPC) を使用してモデルタイプを定義します。	<テキスト>
	パス	正しいデータベース言語を使用して、関連するデータベースに新規モデルを保存するパスを入力してください (例: メイン グループ¥プロセス¥販売プロセス)。	<テキスト>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	モデル GUID	新しく作成されたモデルの GUID を返します。	<テキスト>

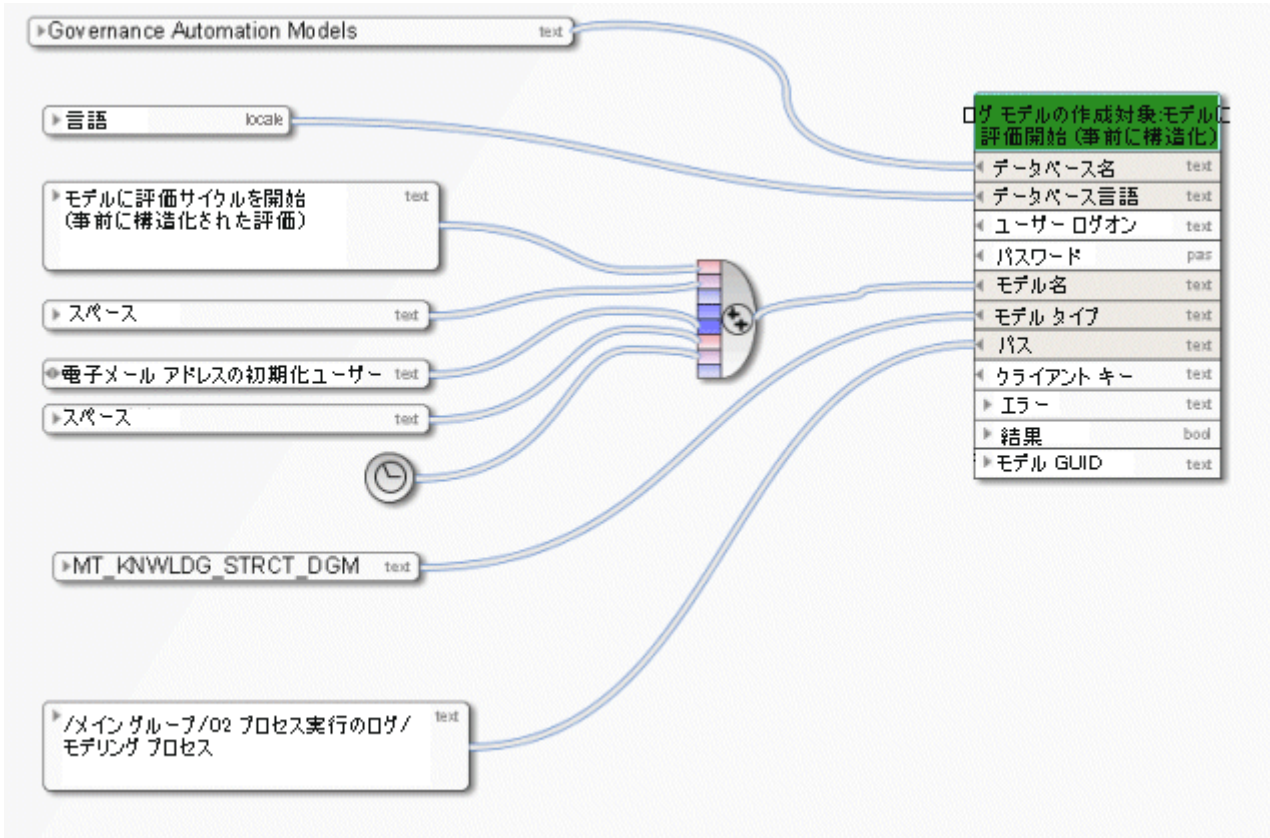




図 21: モデルを 1 つのみ作成

4.14 作成 - 1 オブジェクト








このサービスは必要なタイプのオブジェクトを 1 つのみ作成します。既存オブジェクトに接続線を作成して、既存モデルにアサインすることもできます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言	<テキスト> または <言語>



		語としてモデリングする必要があります。	
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisserviceが使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
➡	オブジェクト名	新規オブジェクトの名前を入力します。	<テキスト>
➡	オブジェクト タイプ	オブジェクト タイプを、API 名(例: ファンクションの場合、OT_FUNC) を使用して定義します。	<テキスト>
	モデルのおカレンス	新規オブジェクトがおカレンスを持つモデルを指定します。	
➡	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
➡	おカレンス シンボル	新規オブジェクトの表示に使用されるシンボルを指定します。このためには API 名を使用します。例: [プロセス インターフェイス] の場合 ST_PRCS_IF。シンボルが定義されていない場合、またはそのシンボルがモデル タイプで許可されていない場合は、デフォルト シンボルが使用されます。	<テキスト>
	モデルのアサインメント	既存モデルをオブジェクトにアサインできます。	
➡	識別子の割り当て	アサインされるモデルを指定します。これを実行するには、あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	ソース オブジェクト	既存ソース オブジェクトへの接続線を定義できます。	
➡	識別子の割り当て	作成される接続線のソース オブジェクトを定義します。これを実行するには、あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	入力接続線の接続線タイプ	既存オブジェクトからこの新規オブジェクトまで引くために作成する接続線のタイプを定義します。	



	タイプ	演算子 [集合の作成] および API 名 (例: [入力である] の場合、CT_IS_INP_FOR) を使用して接続線タイプを定義します。演算子 [集合の作成] を使用して複数のソースオブジェクトを定義した場合は、複数の接続線タイプを指定することができます。この場合、接続線がどのオブジェクトへと作成されるかの順序が決定されます (最初のソース オブジェクトが最初の接続線タイプに割り当てられます)。	<テキストの集合>
	ターゲット オブジェクト	既存オブジェクトの接続線を定義します。	
	識別子の割り当て	作成される接続線のターゲット オブジェクトを定義します。これを実行するには、あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	出力接続線の接続線タイプ	新規オブジェクトから既存オブジェクトまで引くために作成する接続線のタイプを定義します。	
	タイプ	演算子 [集合の作成] および API 名 (例: [出力として持つ] の場合、CT_HAS_OUT) を使用して接続線タイプを定義します。演算子 [集合の作成] を使用して複数のターゲット オブジェクトを定義した場合は、複数の接続線タイプを指定することができます。この場合、接続線がどのオブジェクトへと作成されるかの順序が決定されます (最初の接続線タイプに割り当てられたターゲット オブジェクトが最初になります)。	<テキストの集合>
	パス	正しいデータベース言語を使用して、関連するデータベースに新規グループを保存するパスを入力してください (例: メイングループ¥プロセス¥販売プロセス)。	<テキスト>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	オブジェクト GUID	新しく作成されたオブジェクトの GUID を返します。	<テキスト>

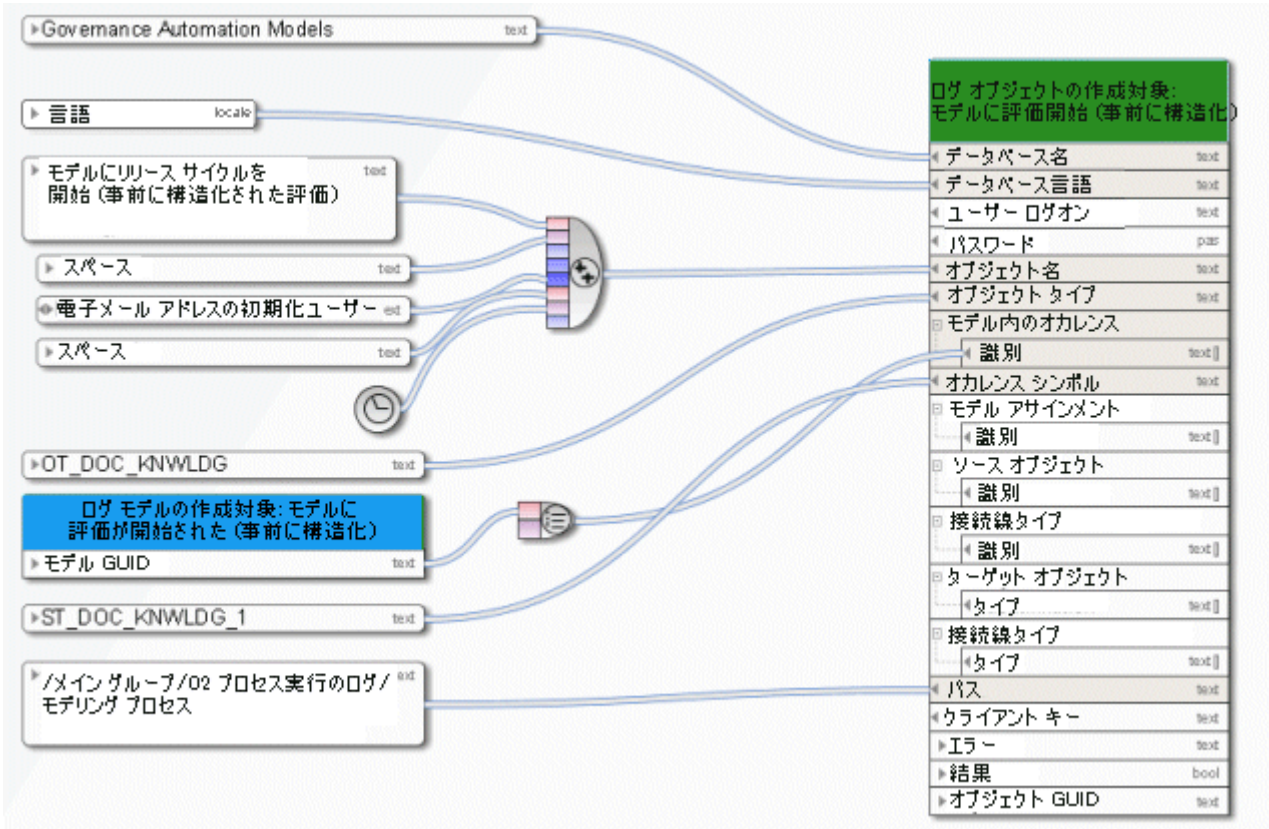


図 22: オブジェクトを 1 つのみ作成

4.15 作成 - 1 グループ/フォルダー

このサービスはグループを 1 つのみ作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログインに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisserviceが使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
➡	パス	正しいデータベース言語を使用して、関連するデータベースに新規グループを保存するパスを入力してください (例: メイングループ¥プロセス¥販売プロセス)。	<テキスト>
➡	グループ名	新規グループに「プロセス」などの名前を入力してください。	<テキスト>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
➡	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
➡	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
➡	作成されたパス	作成されたグループへのパス。	<テキスト>
➡	グループ GUID	作成されたグループの GUID。	<テキスト>

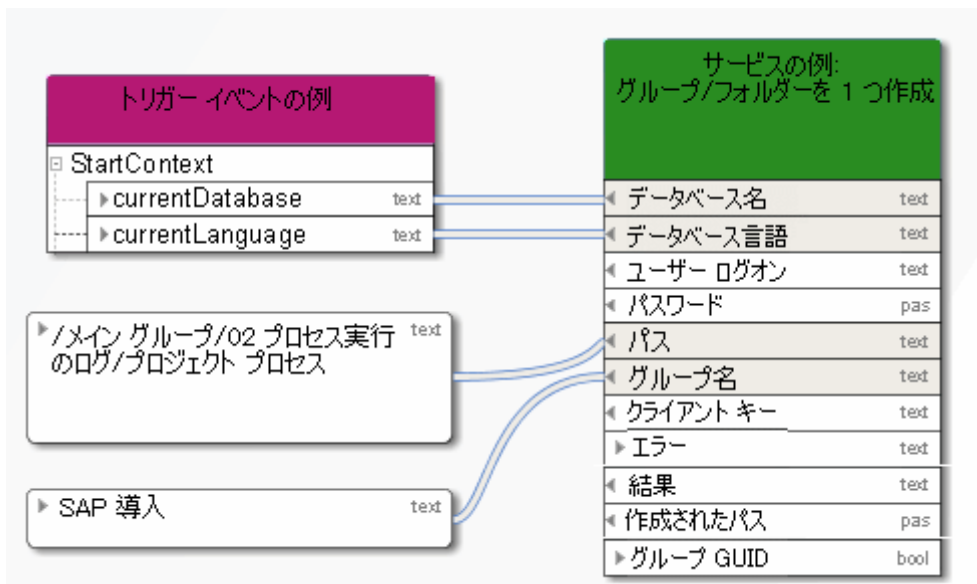


図 23: グループ/フォルダーを 1 つのみ作成



4.16 作成 - データベース

このサービスは、データベースを作成します。この際、データベースの名前は入力の日付になります。同じ名前のデータベースが既に存在する場合、新しいデータベースの名前の後ろに番号が付けられます（例: <名前>(1)）。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。これは、「英語（オーストラリア）」がデータベースに設定されているが、「英語（アメリカ合衆国）」が設定されていない場合などに便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	新規データベースの名前	新規データベースがこの名前で作成されます。特殊文字は使用できません。名前に特殊文字が含まれる場合、エラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	バージョン管理可能	入力が TRUE である場合、新しいデータベースがバージョン管理可能なデータベースとして作成されます。FALSE の場合、データベースはバージョン管理可能できません。	<論理値>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE（論理値）のいずれかになります。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>

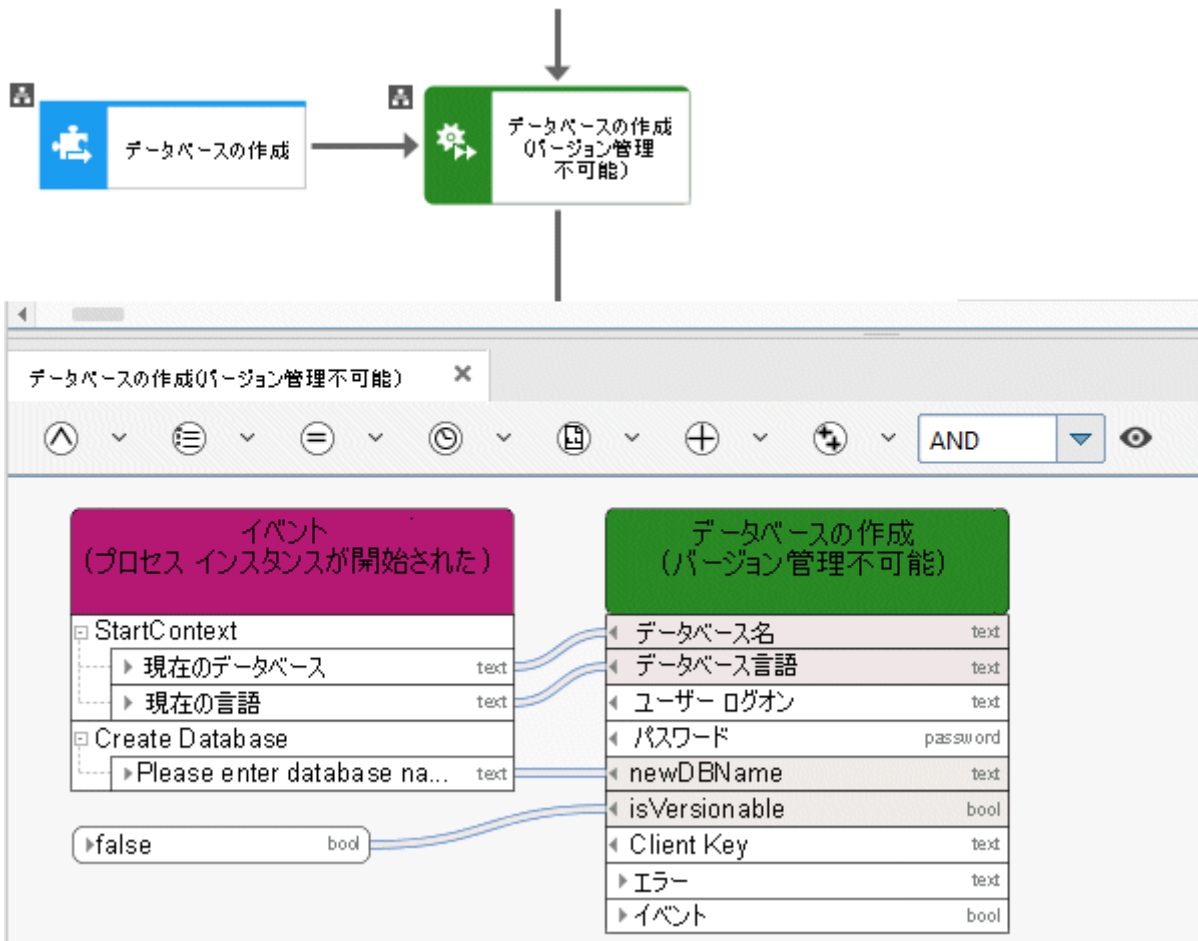


図 24: データベースの作成

4.17 作成 - ARIS Publisher 動的エクスポート

このサービスは、特定のモデルを読み取り専用で公開するための Web エクスポートを作成します。エクスポートは動的であるため、ビューの生成なども含めてアクセス権が反映されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのアクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。	<テキスト> または <言語>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
➡	ARIS Publisher Server	データベースが存在する ARIS Publisher Server の名前。	<テキスト>
➡	エクスポート名	エクスポートを開くとリストに表示される名前です。	<テキスト>
➡	エクスポートの説明	エクスポートを開くとリストに表示される説明です。	<テキスト>
➡	変更リスト	バージョン管理された内容をエクスポートする変更リスト番号を定義します。(たとえば、バージョンを生成し、変更リスト番号を出力する) [自動タスク]、[手動タスク] または (変更リスト番号が入力された) [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトを接続してください。または、変更リスト番号のある定数を接続してください。	<10 進数>
➡	参照エクスポート	あるエクスポートからほかのエクスポートに (たとえば、現在のエクスポートから古いバージョンのエクスポートに) 移動するために、現在のエクスポートが参照するエクスポートの名前を指定します。	<テキスト>
➡	テンプレート	エクスポートの実行時に適用するテンプレートの GUID (プロパティ参照) を入力してください。	<テキスト>
➡	エクスポート言語	複数言語でデータベースをエクスポートします。	
➡	言語	言語コードを次のように指定します: 「ja-JP, ja-JP, ja-JP; en-US, en-US, en-US」 ((ISO 639 言語コードが使用されます)。単一言語の場合は、[言語 『154ページ 』] タイプの定数を使用できます。	<テキストの集合>
➡	デフォルト言語 ID	選択した言語で内容が未指定の場合に使用する言語の ID を入力します (英語の場合は 1033)。	<テキスト>
➡	プロファイル名	エクスポートの実行時に使用するプロファイルの名前を入力して	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		ください。	
	プロフィールの説明	エクスポートの実行時に使用するプロフィールの説明を入力してください。	<テキスト>
	コピー文書へのパス	リンク文書をコピーするパスを指定してください。	<論理値>
	印刷倍率の使用	指定したサイズでモデルを印刷する場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	元のサイズ	元のサイズを定義してください。例: 「100」。	<10 進数>
	拡大縮小	モデルの倍率を定義してください。例: 75、100、125、150。	<テキスト>
	白黒	モデルを白黒表示にする場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	透明	モデルを透過表示にする場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	文書リンクのリスト	コピーする文書を含むリンク属性を指定してください。	
	属性タイプ	API 名 (例: [リンク 1] の場合、AT_EXT_1) を使用してリンク属性タイプを定義するか、GUID を入力して [集合の作成] 演算子を使用します。	<テキストの集合>
	レイアウト	ARIS Publisher の出力レイアウトを選択してください。例: 「defaultLayout」。	
	ユーザー名	ダイアログ ボックスのハイパーリンクをクリックすると生成されたエクスポートが自動的に開くようにするには、デフォルト ログオン名を入力してください。ここでログオン名を入力しない場合、ハイパーリンク経由でエクスポートを開く際に、ユーザーがログオン名を入力する必要があります。	<テキスト>
	パスワード	ダイアログ ボックスのハイパーリンクをクリックすると生成されたエクスポートが自動的に開くようにするには、ログオン名のパスワードを入力してください。ここでパスワードを入力しない場合、ハイパーリンク経由でエクスポートを開く際に、ユーザーがパスワードを入力する必要があります。	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	匿名	誰もがエクスポートにアクセスできるようにする場合はこの論理定数を TRUE、そうでない場合は FALSE と定義します。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	エクスポート パス	エクスポート結果が格納されるパスです。これはハイパーリンクとして使用することができます。	<テキスト>

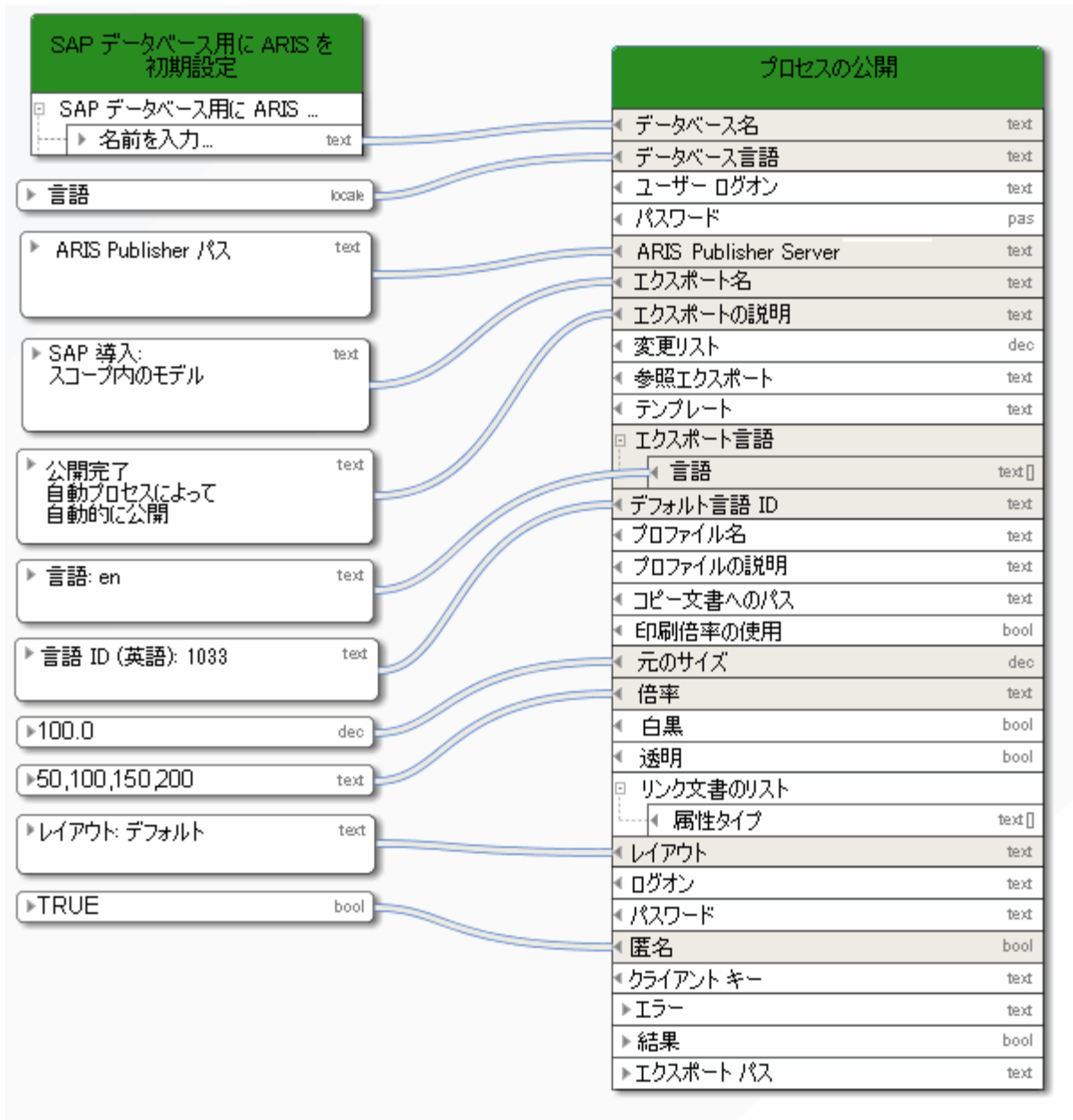


図 25: ARIS Publisher 動的エクスポートの作成



4.18 作成 - レポート

このサービスはレポートを開始します。ユーザーがユーザー定義の設定を必要とする場合は、設定してください。データフローで設定を定義するには、レポート スクリプトの自動開始を許可する必要があります。これにはレポート スクリプトの変更が必要になることがあります。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	スクリプト ID	実行するスクリプトの ID (プロパティ参照) を入力してください。	<テキスト>
	選択したアイテム	データベース、モデル、オブジェクト、またはグループなどさまざまな内容にスクリプトを開始してください。	
	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します (グループには GUID は存在しません。データベースは、常に上のフィールドで定義したもの (データベース名) です)。	<テキストの集合>
	メソッド フィルターの GUID	スクリプトの実行時に使用するメソッド フィルターの GUID (プロパティ参照) を入力してください。	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	評価フィルターの GUID	スクリプトの実行時に使用する評価フィルターの GUID (プロパティ参照) を入力してください。	<テキスト>
	スクリプト言語	目次などの定義済みテキストを出力するには、スクリプトを使用します。テキスト出力に使用する言語を指定してください。(ISO 639 言語コードを使用します。日本語の場合「ja」)言語を指定しない場合、あるいは、指定した言語が使用できない場合は、最初に検出された言語が使用されます。	<テキスト>
	出力ファイル形式	作成する出力形式 (doc、xls、pdf など) を入力します。(RTF = 0、テキスト = 2、HTML = 3、WORD = 4、EXCEL = 5、テーブル = 6、そのほか = 7、XML = 8、PDF = 9、SVG = 10、出力なし = -1)	<10 進数>
	内容ルート	内容ルートへのパスを指定してください。例: http://system123.me.corp.example.com:0909	<テキスト>
	パス	レポート出力を保存するパスを指定してください (例: C:¥temp¥Report)。	<テキスト>
	出力ファイル	[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトの名前を使用するか、または定数で指定することによって、ファイル名を入力してください。	<テキスト>
	ユーザー プロパティ名	レポートを実行するには、入力パラメーターの入力が必要です。注: 設定を定義するには、レポート スクリプトの自動開始を許可する必要があります。これにはレポート スクリプトの変更が必要になることがあります。	
	タイプ	レポートのソース コードで定義されている該当プロパティ名を入力してください。注: 設定を定義するには、レポート スクリプトの自動開始を許可する必要があります。これにはレポート スクリプトの変更が必要になることがあります。	<テキストの集合>
	ユーザー入力値	レポートを実行するには、入力パラメーターの入力が必要です。注: 設定を定義するには、レポート スクリプトの自動開始を許可する必要があります。これにはレポート スクリプトの変更が必要になることがあります。	
	タイプ	レポートのソース コードで定義されている該当値を入力してください。注: 設定を定義するには、レポート スクリプトの自動	<テキストの集合>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		開始を許可する必要があります。これにはレポート スクリプトの変更が必要になることがあります。	
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	出力パス	エクスポート パスとレポート名 (パスがプロパティ名およびプロパティ値として入力された場合にのみ出力されます)。	<テキスト>
	出力データ	レポート スクリプトのプログラミングによっては、データで渡すことが必要になります。ここでデータを定義した場合、その出力データを [手動タスク] または [自動タスク] タイプのオブジェクト用、あるいは [通知] タイプのオブジェクト用の入力データとして使用することができます。	
	データの組み合わせ	データは、データ キーとデータ値から構成されます。最初のデータ キーに最初のデータ値などが含まれます。	
	キー	レポートのソース コードで定数として定義されている有効なデータ キーを入力してください。このためには、演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキスト>
	値	すべての有効なデータ キーに、出力として使用するデータ値を入力します。このためには、演算子 [集合の作成] を使用します。キーと値は合致しなければならないことに注意してください。最初のデータ キーに最初のデータ値などが含まれます。	<テキスト>

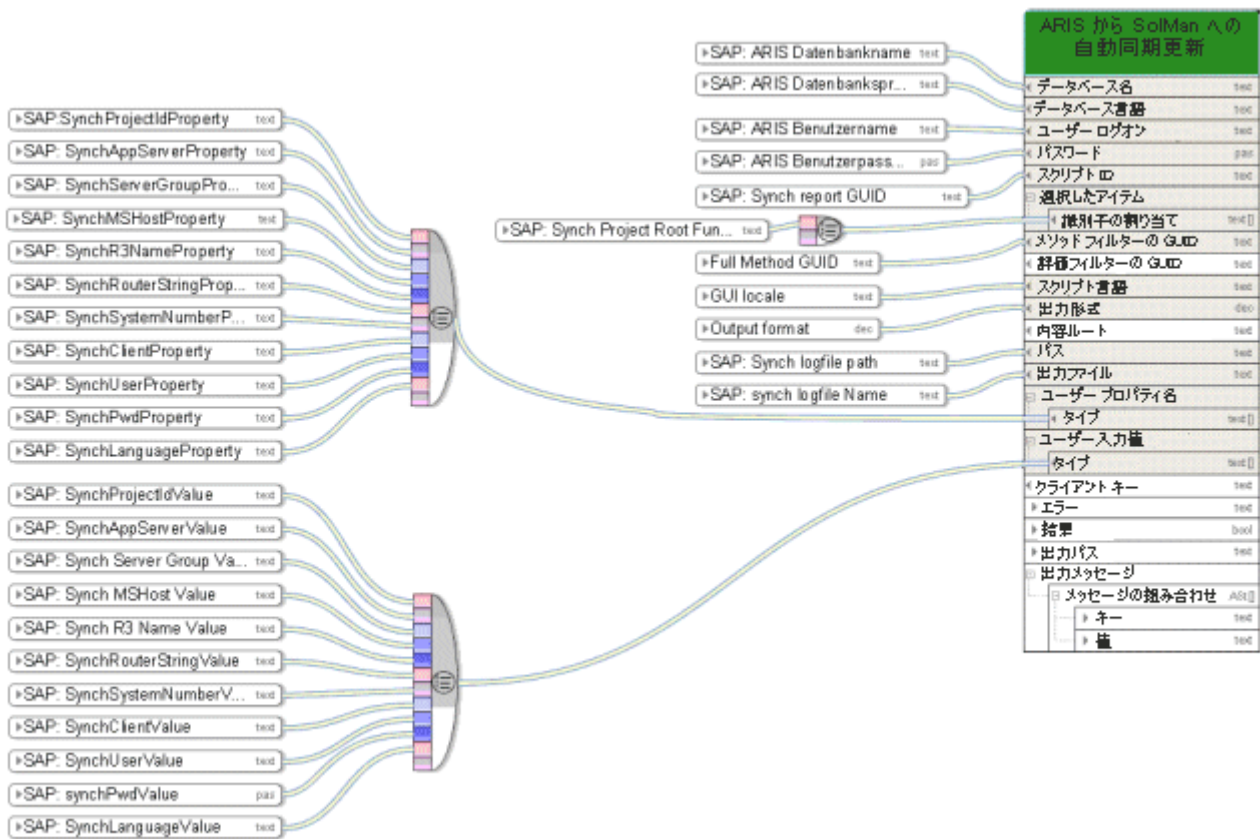


図 26: SAP ソリューション マネージャと同期

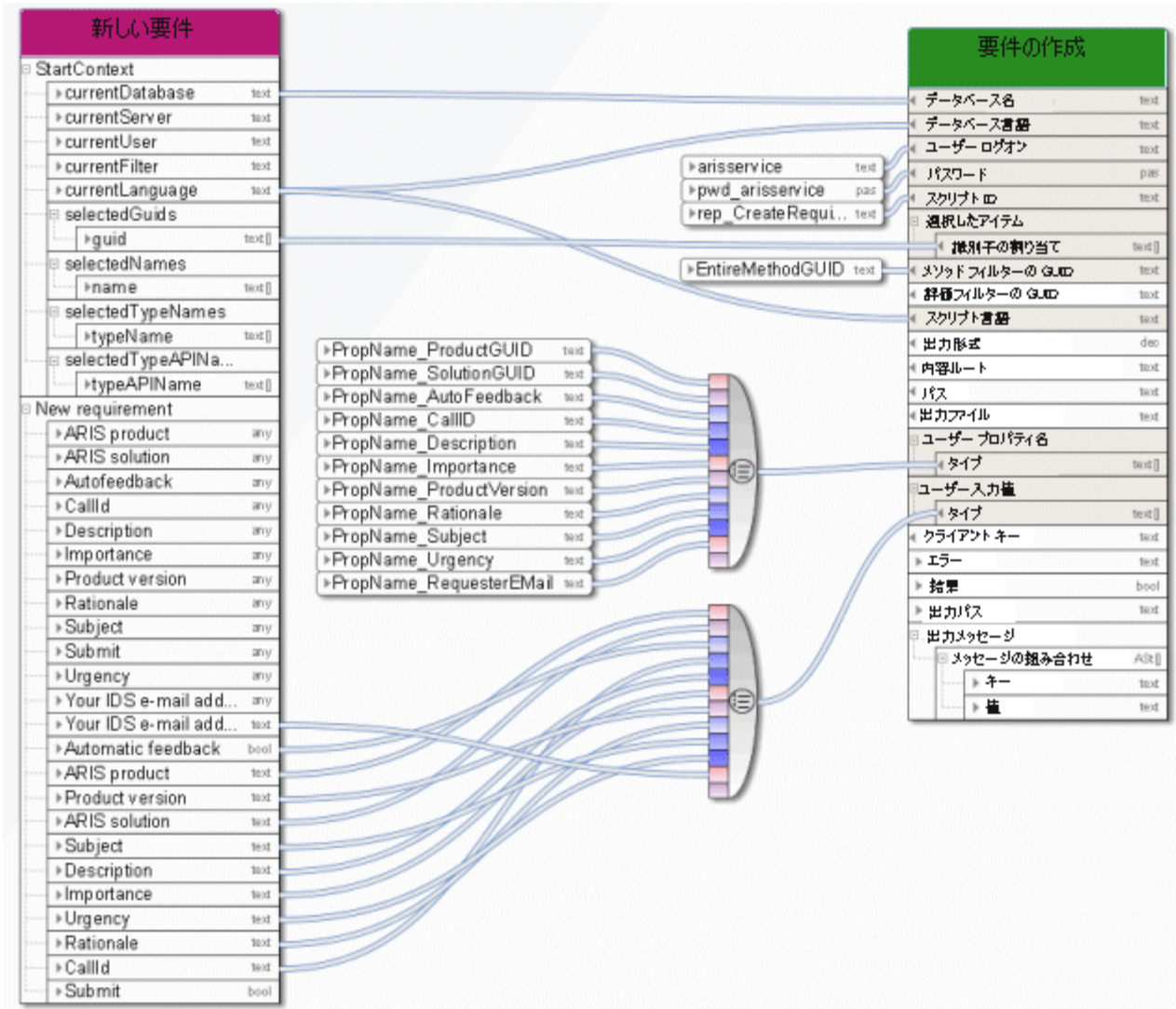


図 27: 個々のレポートの例

4.19 作成 - ARIS Publisher 静的エクスポート

このサービスは、特定のモデルを読み取専用で公開するための Web エクスポートを作成します。このエクスポートは静的です。分配システムが使用される場合は、エクスポートは ZIP ファイルとして ARIS 文書格納 に保存され、リンクが生成されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例:	<テキスト> または



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<言語>
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
➡	プロファイル	ARIS Publisher 静的エクスポートに使用するプロファイルを選択します。	<テキスト>
➡	ナビゲーション ツリー	Publisher エクスポートのナビゲーション ツリー構造を定義します。モデルのグループ構造または階層を表示できます。	<テキスト>
	選択したアイテム	ARIS Publisher 静的エクスポートを作成するモデルまたはオブジェクトを選択します。	
➡	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント（プロセス インスタンスが開始された）] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
➡	パス	エクスポートを保存する場所へのパスです。	<テキスト>
➡	内容ルート	エクスポートの開始点を表すオブジェクト/モデルまたはグループです。	<テキスト>
	オブジェクト ページの作成	各オブジェクトに関する HTML ページが作成されます。	
➡	オブジェクト タイプ	ページを作成するオブジェクトの API 名を定義します。たとえば、ファンクションの場合は OT_Func を指定します。	<テキスト>
➡	アサインメント レベル	アサインされているオブジェクトおよびモデルがエクスポートされるアサインメント レベルです。	<10 進数>
➡	印刷倍率の使用	指定したサイズでモデルを印刷する場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。	<論理値>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	
↻	元のサイズ	元のサイズを定義してください。例: 「100」。	<10 進数>
↻	拡大縮小	モデルの倍率を定義してください。例: 75、100、125、150。	<テキスト>
↻	白黒	モデルを白黒表示にする場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
↻	透明	モデルを透過表示にする場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	文書リンクのリスト	コピーする文書を含むリンク属性を指定してください。	
↻	属性タイプ	API 名 (例: [リンク 1] の場合、AT_EXT_1) を使用してリンク属性タイプを定義するか、GUID を入力して [集合の作成] 演算子を使用します。	<テキストの集合>
↻	レイアウト	ARIS Publisher の出力レイアウトを選択してください。例: 「defaultLayout」。	
↻	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
↻	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
↻	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
↻	エクスポート パス	エクスポート結果が格納されるパスです。これはハイパーリンクとして使用することができます。	<テキスト>

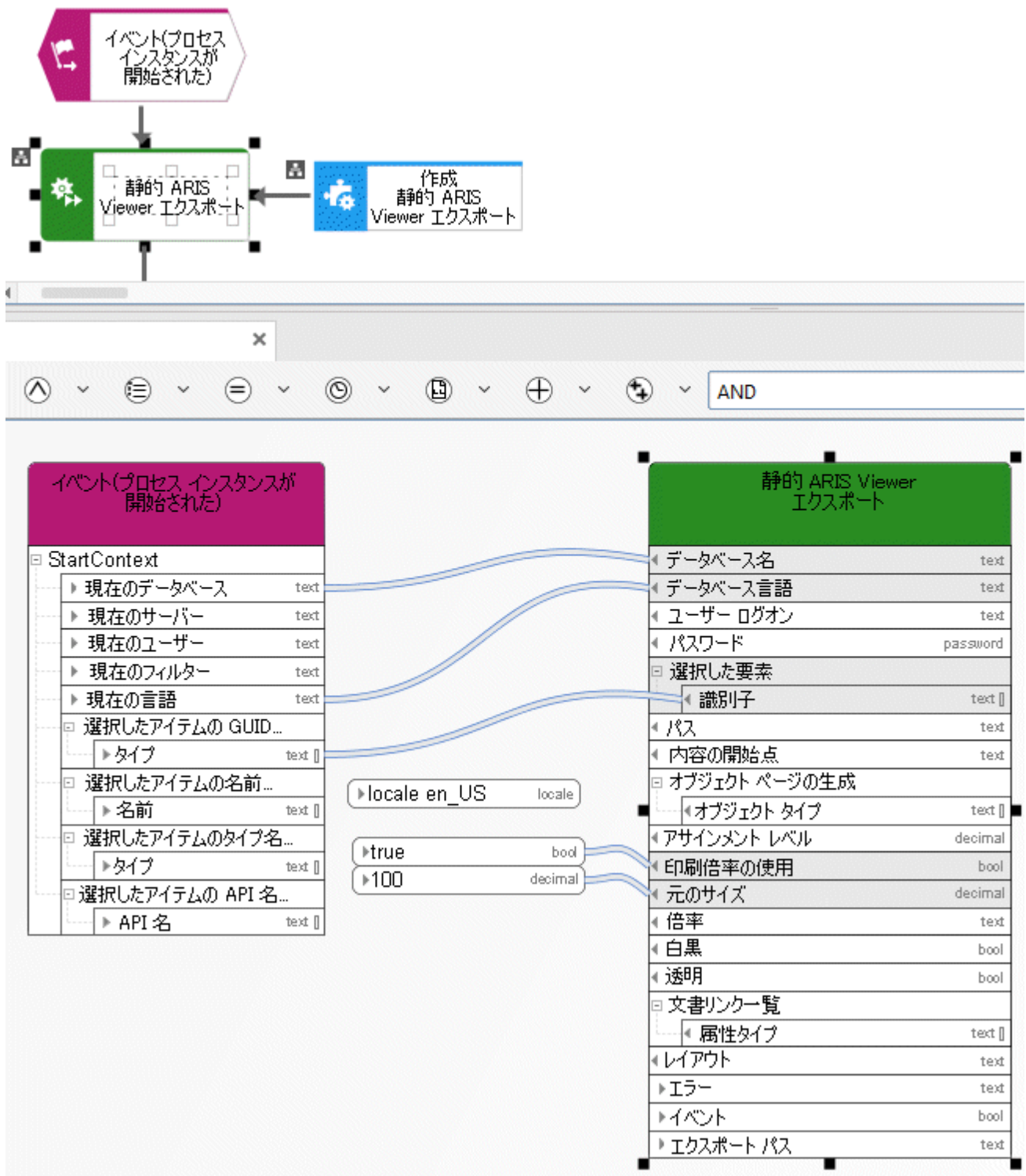


図 28: ARIS Publisher 静的エクスポートの作成



4.20 作成 - ショートカット

このサービスは、既存のモデルまたはオブジェクトへのショートカットを作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	ショートカットを作成するモデルまたはオブジェクトを選択してください。	
	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	パス	正しいデータベース言語を使用して、関連するデータベースに新規グループを保存するパスを入力してください (例: メイングループ¥プロセス¥販売プロセス)。	<テキスト>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

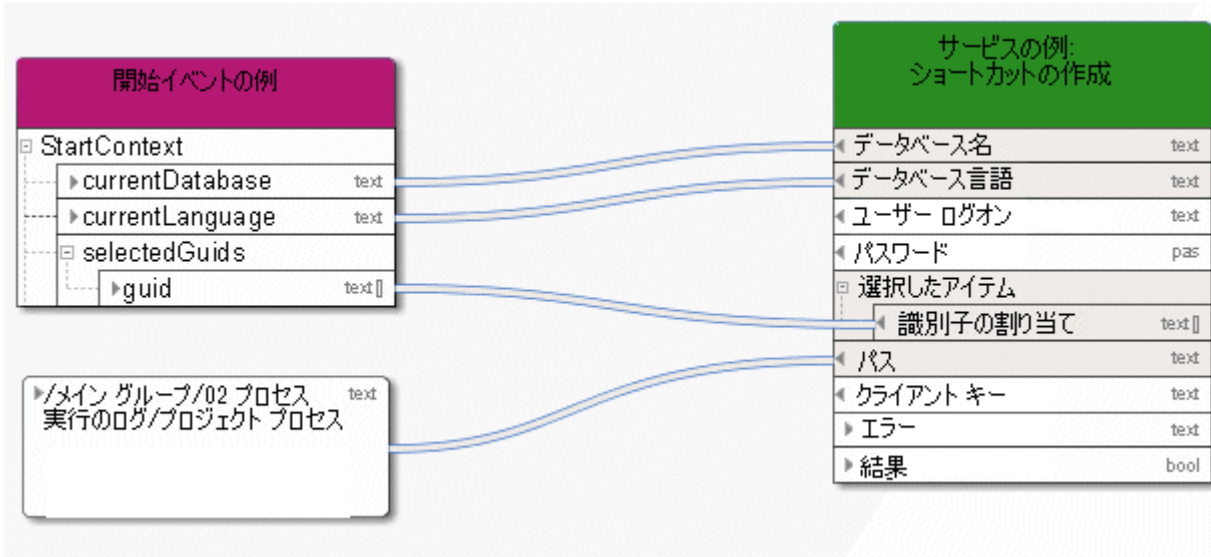


図 29: ショートカットの作成

4.21 作成 - バージョン

プロセス実行中のバージョン管理: 実行されたサービス [バージョンの作成]。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
➡	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト>
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	選択したモデル	バージョンを作成するモデルを選択してください。	<テキスト>
➡	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルに接続するか、または GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します (グループには GUID は存在しません)。	<テキストの集合>
➡	説明 - 必須入力	バージョンが作成されたすべてのモデルに適用するバージョンの説明を入力します (必須入力)。	<テキスト>
➡	アサインメント: 周辺項目を含める	アサインメントに周辺項目を含める (論理定数 = TRUE) か選択のみ (論理定数 = FALSE) かを指定します 指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
➡	接続線: 周辺項目を含める	周辺項目を含める (論理定数 = TRUE) か、選択のみ (論理定数 = FALSE) かを指定します (指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます)。	<論理値>
➡	アサインメント レベル	あるバージョンに含まれるアサイン モデルのアサインメント レベルを定義してください。例: 「1」。	<10 進数>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
⬅	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
⬅	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
⬅	バージョン番号	作成されたバージョン番号が出力されます。	<10 進数>

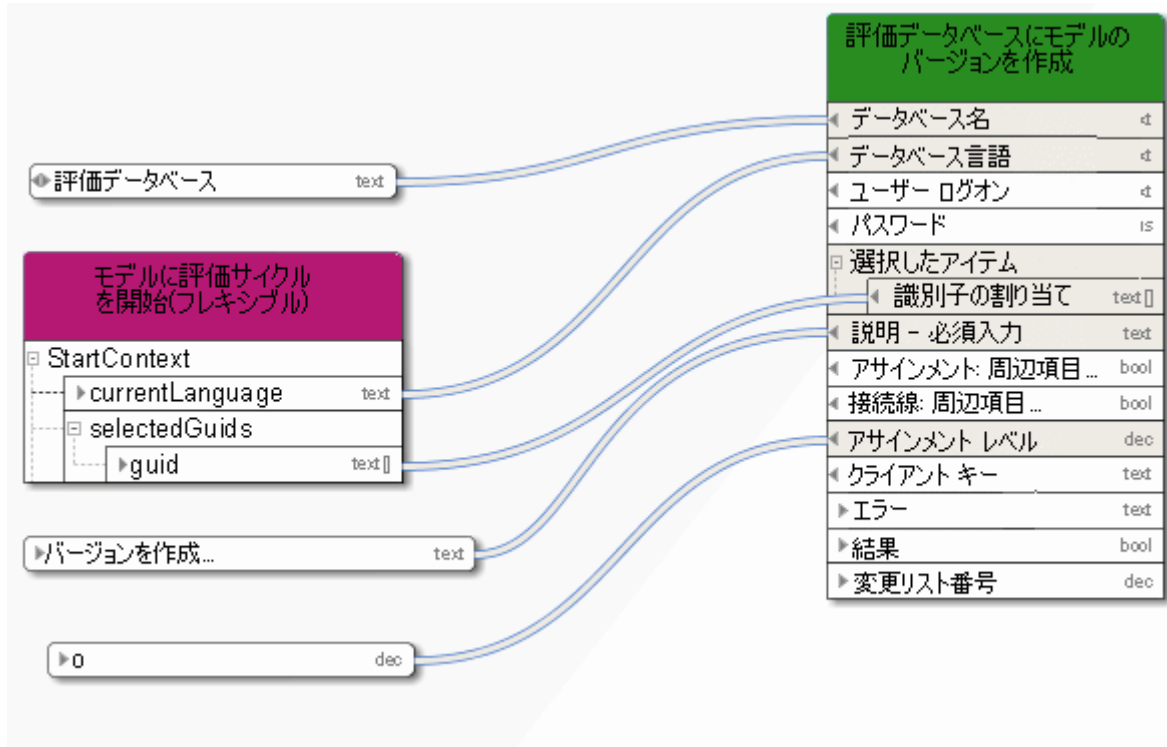


図 30: バージョンの作成

4.22 コピー - データベース

このサービスは、既存のデータベースをコピーし、必要に応じて新規データベースの名前を変更します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		が使用されます。	
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
➡	新規データベースの名前	新規データベースがこの名前で作成されます。	<テキスト>
➡	DBADMIN パスワード	[手動タスク]、[自動タスク]、[イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクト、または定数からテキストを接続して、該当サーバーのデータベース管理者のパスワードを入力します。	<テキスト>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
⬅	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
⬅	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>

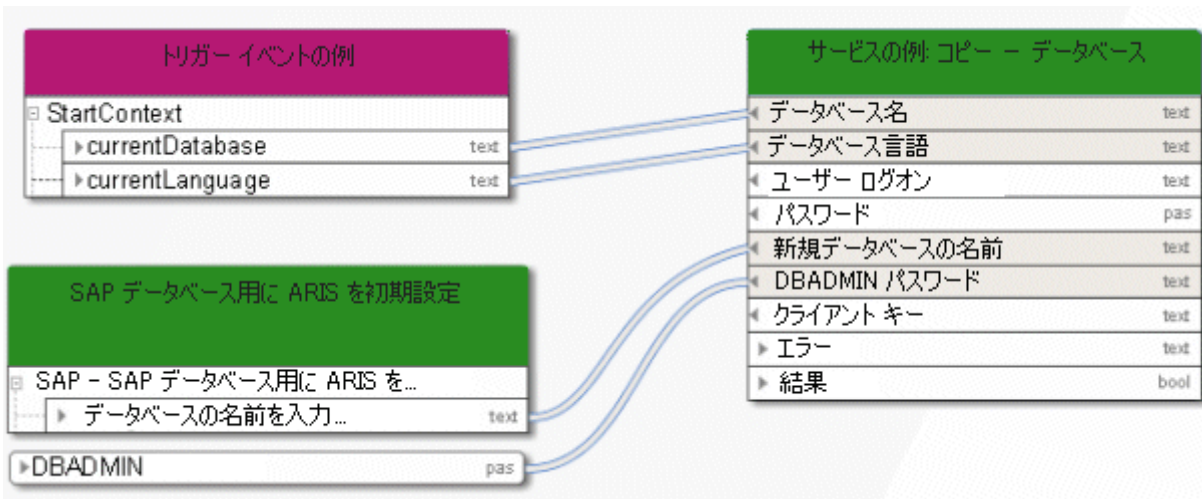


図 31: データベースのコピー



4.23 削除 - データベース

このサービスは、データベースを削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。これは、「英語 (オーストラリア)」がデータベースに設定されているが、「英語 (アメリカ合衆国)」が設定されていない場合などに便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	削除するデータベースの名前。	[データベースの削除] サービスによって削除されるデータベースの名前。	<テキスト>
	サーバーの管理者パスワード	サーバー管理者パスワードです。	<テキスト>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>

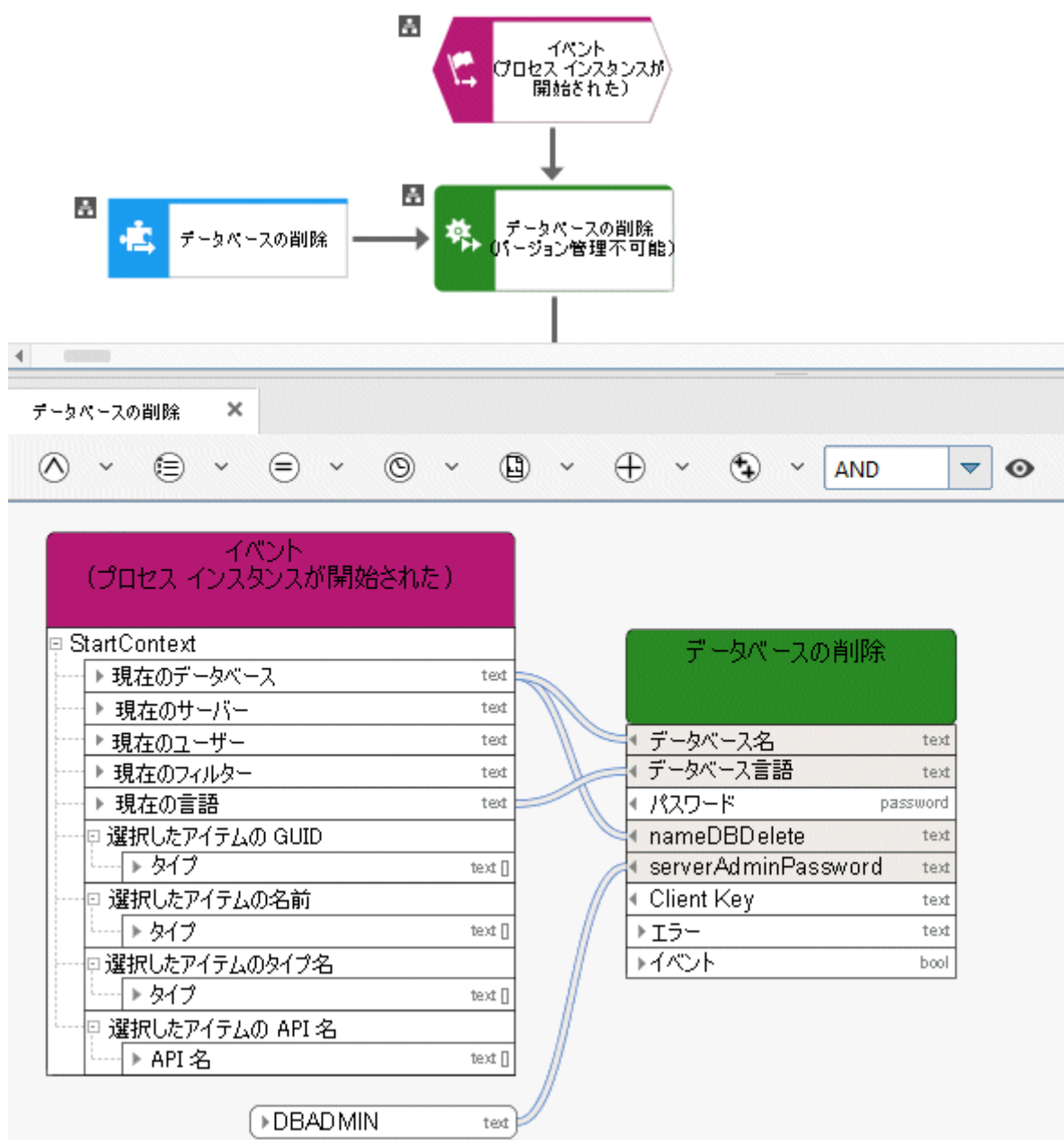


図 32: データベースの削除



4.24 削除 - ARIS Publisher 動的エクスポート

このサービスは、ARIS Publisher 動的エクスポートを削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	ARIS Publisher Server	データベースが存在する ARIS Publisher Server の名前。	<テキスト>
	エクスポート名	エクスポートを開くとリストに表示される名前です。	<テキスト>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

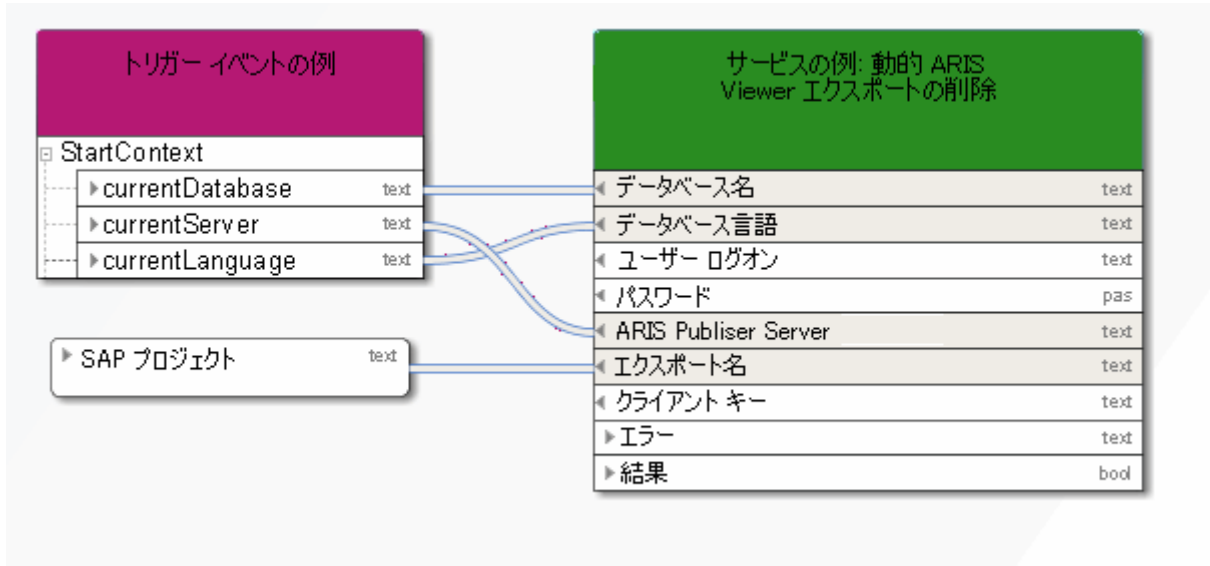


図 33: ARIS Publisher 動的エクスポートの削除

4.25 削除 - グループ

このサービスは、1 つまたは複数のグループを削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
➡	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。これは、「英語 (オーストラリア)」がデータベースに設定されているが、「英語 (アメリカ合衆国)」が設定されていない場合などに便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
➡	識別子の割り当て	削除する 1 つまたは複数のグループの GUID です。	<テキスト>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラーメッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

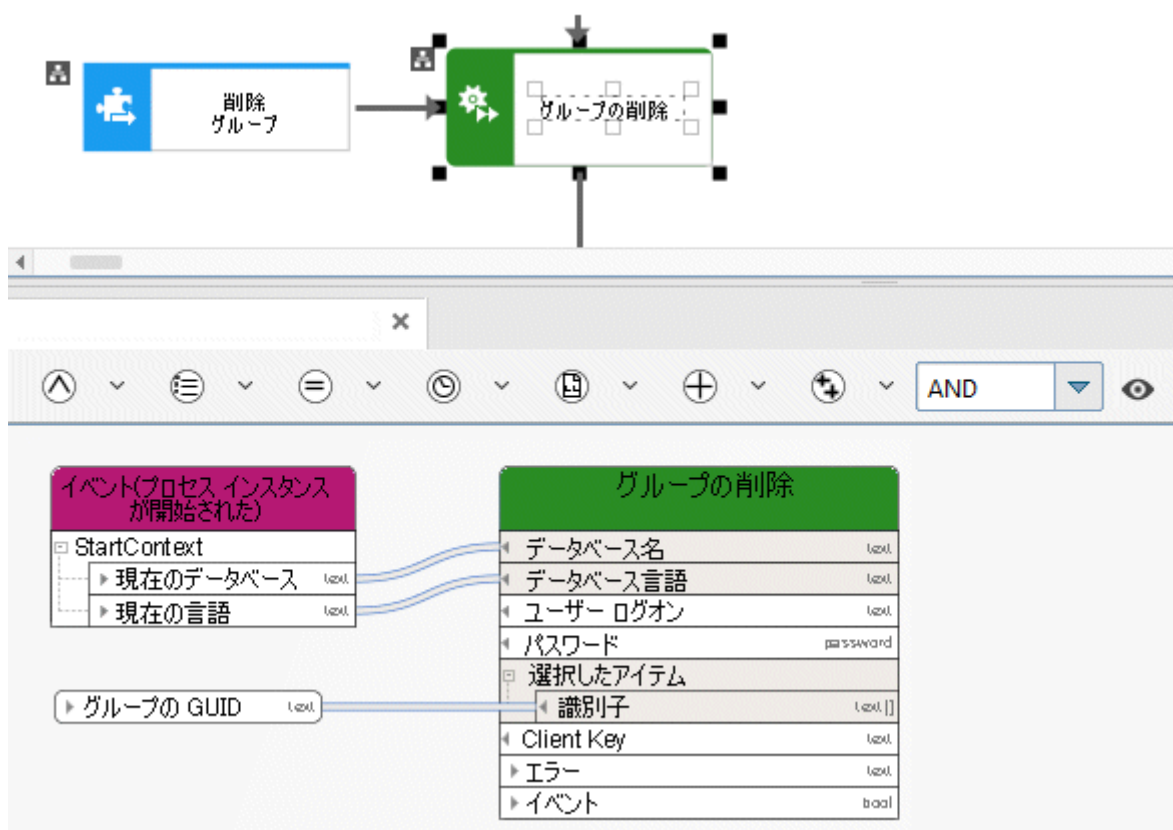


図 34: グループの削除



4.26 削除 - モデル

このサービスは、既存モデルをそのオブジェクトとともに削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したモデル	削除するモデルを選択してください。	
	識別子の割り当て	[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルに接続するか、または GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

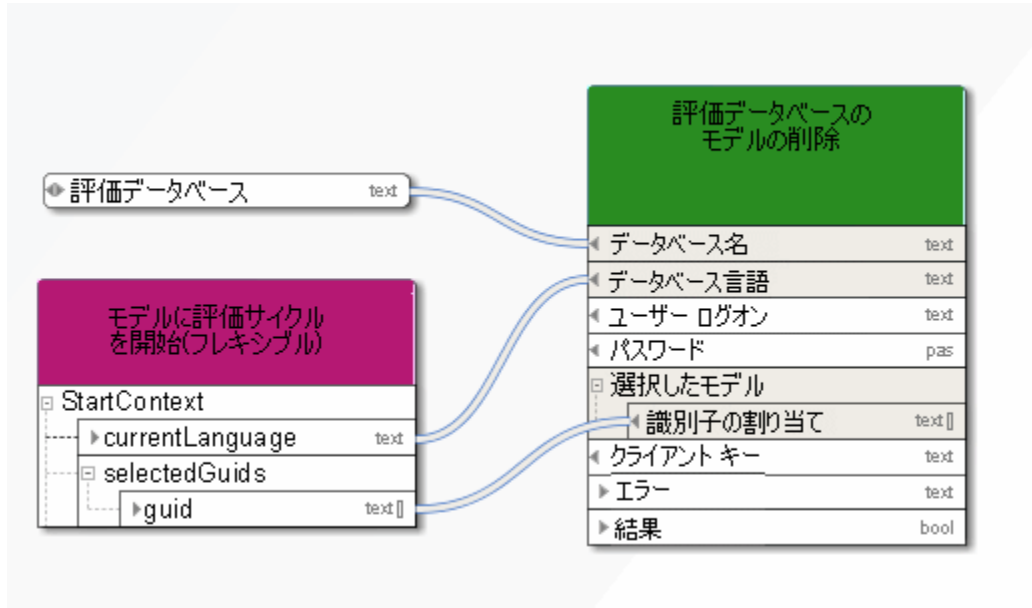


図 35: モデルの削除

4.27 削除 - オブジェクト

このサービスは既存オブジェクトを削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパス	<パスワード>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		ワード。	
	選択したオブジェクト	削除するオブジェクトを選択してください。	
➡	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトのモデルを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
➡	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
➡	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

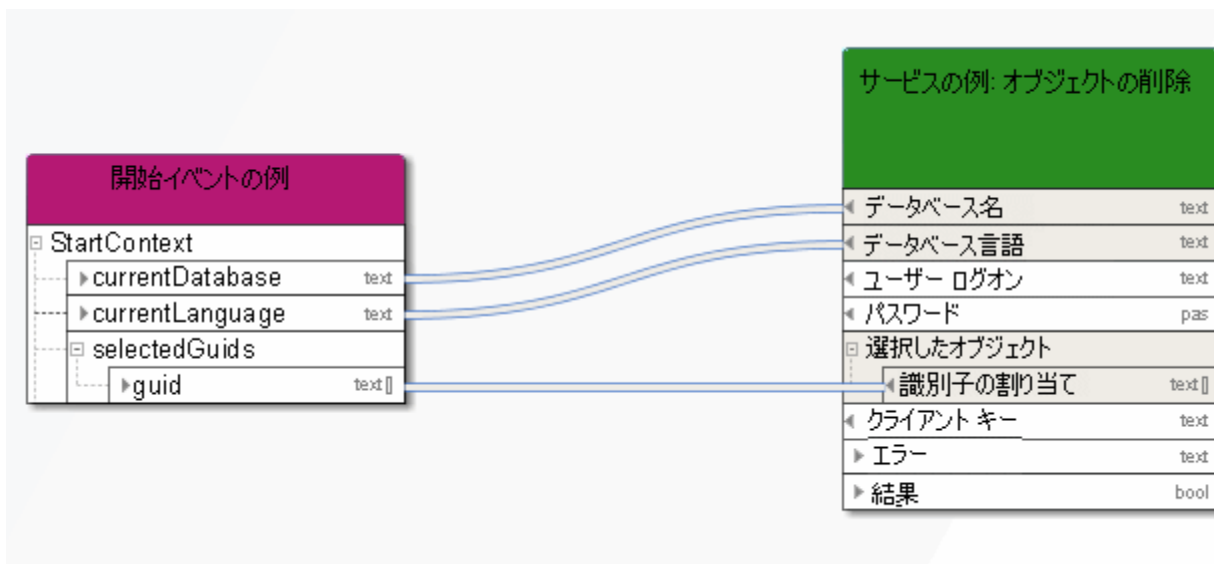






図 36: オブジェクトの削除



4.28 整理 - データベース

このサービスは、モデルまたはデータフローにオカレンスがないすべてのオブジェクトと接続線を削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	結果	結果は、削除するすべてのオブジェクトと接続線を含む一覧です。	<テキスト>

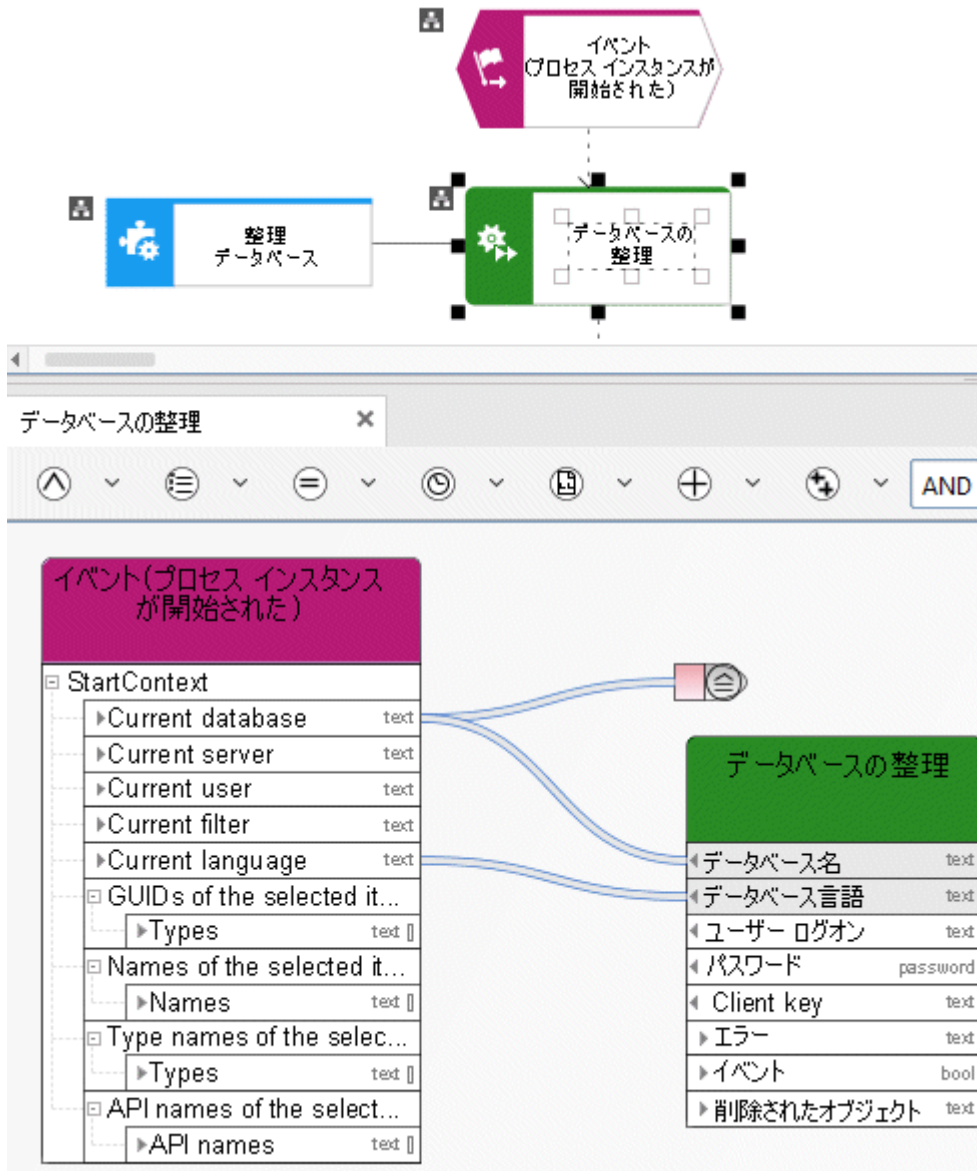


図 37: データベースの整理

4.29 設定 - 複数アイテムに単一属性

このサービスは、モデル、オブジェクト、またはグループに属性を 1 つのみ (例: [説明]) 指定します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できません (英	<テキスト> または <言語>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	複数のモデル、オブジェクト、またはグループに属性を 1 つのみ（例: [説明]）設定します。	
➡	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント（プロセス インスタンスが開始された）] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します（グループには GUID は存在しません）。	<テキストの集合>
➡	単一属性の設定	API 名（例: [名前] の場合 AT_NAME）を使用するか、API 名が存在しない場合は識別子を使用して指定する属性を定義してください。	<テキスト>
	属性値	属性に指定する値を入力してください。	
➡	値	定数を定義済みの値として入力するか、[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント（プロセス インスタンスが開始された）] タイプの別のオブジェクトからデータを入力データとして使用します。	<テキストの集合>
➡	値の上書き	既存の属性内容を削除して新しい内容で上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。新しい内容を追加するけれども既存内容を保持する場合（例: モデル属性 [変更履歴]）は、論理定数に FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
🔄	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラーメッセージが表示されます。	<テキスト>
🔄	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

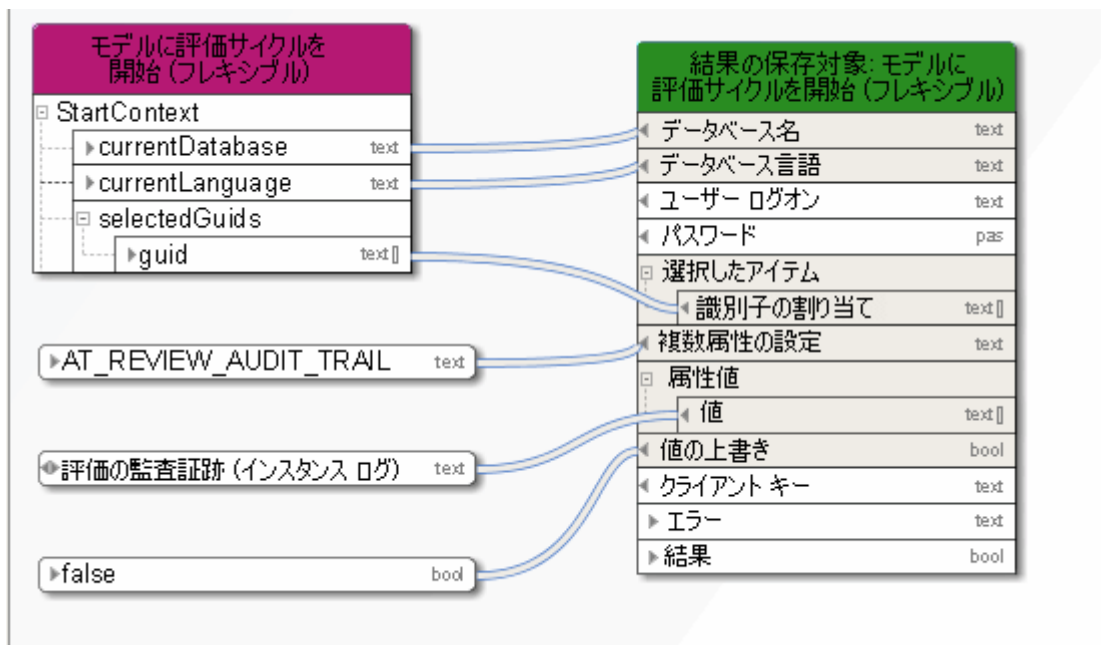


図 38: 複数アイテムに単一属性を設定

4.30 設定 - 単一アイテムに複数属性

このサービスは、1 つのアイテム (モデル、オブジェクト、またはグループ) に複数の属性 ([モデル ステータス]、[バージョン番号]、および [リリース] など) を指定します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
🔄	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
🔄	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、デー	<テキスト> または <言語>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		<p>データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。</p> <p>国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。</p>	
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
➡	選択したアイテム	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します (グループには GUID は存在しません)。	<テキストの集合>
	複数属性の設定	選択した複数の属性を指定するために使用されます (1 つのアイテムに対して複数の属性。例: 1 つのモデルに対して [モデル ステータス]、[バージョン番号] および [リリース] 属性を設定)。	
➡	タイプ	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトから複数の属性タイプを接続するか、または API 名あるいは GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	属性値	属性に指定する値を定義してください。例: 先行する自動タスクで自動定義された、1 つのモデルの [モデル ステータス] 属性と [バージョン番号] 属性。	
➡	値	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトから複数の属性タイプを接続するか、または API 名あるいは GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
➡	値の上書き	既存の属性内容を削除して新しい内容で上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。新しい内容を追加するけれども既存内容を保持する場合 (例: モデル属	<論理値>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		性 [変更履歴]) は、論理定数に FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	
➡	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
⬅	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
⬅	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

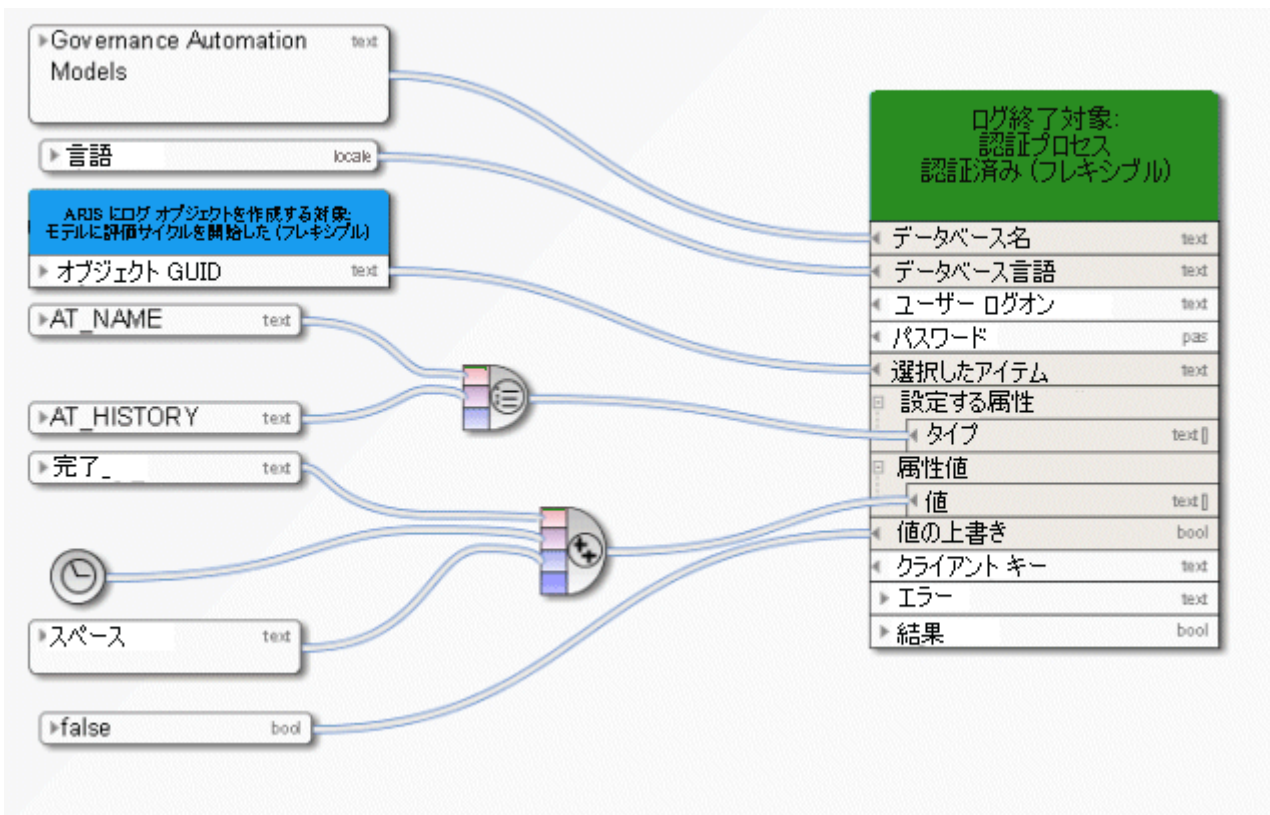


図 39: 単一アイテムに複数属性を設定



4.31 ロック - モデル/オブジェクト

このサービスは、モデルまたはオブジェクト、あるいはその両方をロックします。ロックするモデルまたはオブジェクトを選択することができます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	選択した、ロックするモデルまたはオブジェクト。	
	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルまたはオブジェクトを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	オブジェクトを含める	モデルのロック時に関連オブジェクトを対象にします。これを実行するには、論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義します 指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	現在のユーザーをロックに使用_IDS	現在のユーザーを、接続線を使ってデータ フローの該当フィールドに割り当てると、現在のユーザーが手動で行ったかのようにモデルやオブジェクトのロックが実行されます。これは、実際に	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
		サービスを実行するユーザー arisservice の権限ではなく現在のユーザーの個人的な権限が反映されることを意味します。	
⬅	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラーメッセージが表示されます。	<テキスト>
⬅	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

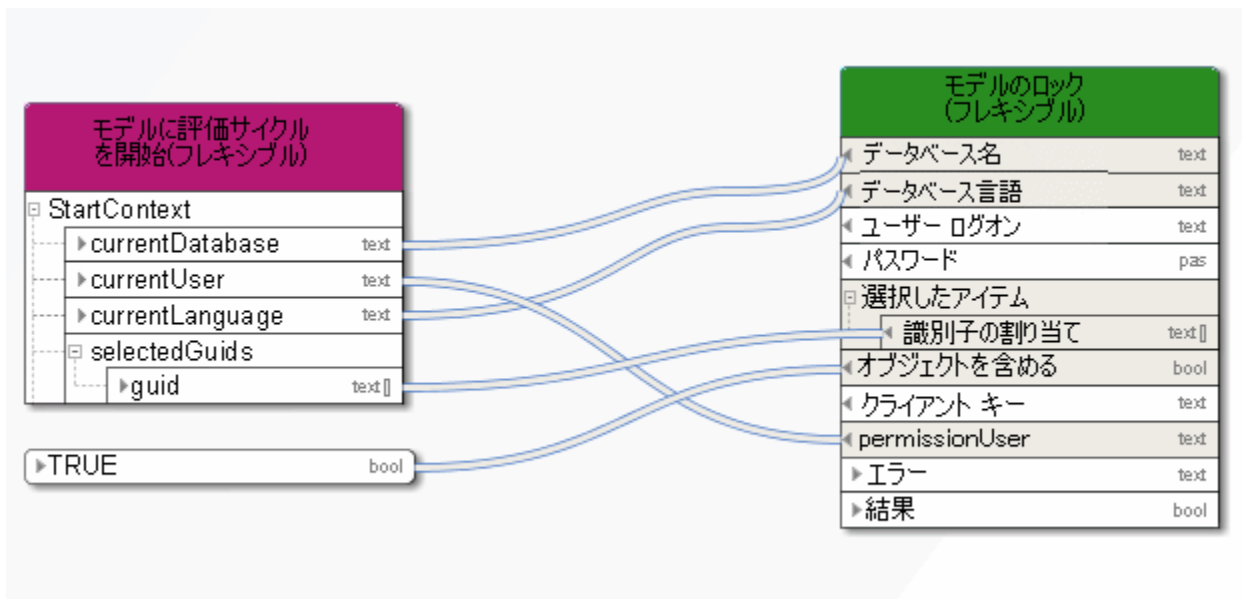


図 40: モデルとオブジェクトのロック

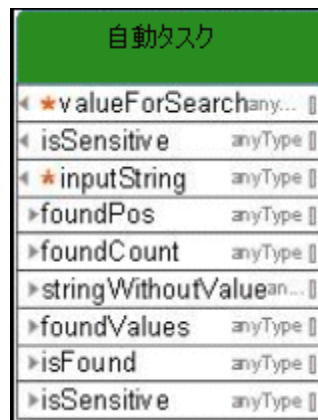
4.32 検索 - 文字列内の値

このサービスは、ARIS ユーザー グループを選択してユーザー グループ属性を返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	検索値	別の文字列に含まれている文字列です。	<テキスト>
➡	大文字と小文字を区別する	大文字と小文字を区別するかどうかを指定します。	<論理値>
➡	入力文字列	検索する文字列です。	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	見つかった位置	検索値が見つかった、入力文字列内の位置です。	<テキスト>
	見つかった数	検索値が入力文字列で使用されている回数です。	<テキスト>
	検索値がない場合の文字列	すべての検索値が削除されたときの新規文字列です。	<テキスト>
	検索値	入力文字列に見つかったすべての検索値です。	<テキスト>
	見つかりました	入力文字列にこの検索値が含まれているかどうかを示します。	<テキスト>
	大文字と小文字の区別	大文字と小文字を区別するかが指定されます。	<テキスト>



4.33 一時ファイルの削除

[一時ファイルの削除] サービスは、Process Governance を使用する際に累積される一時ファイルを削除します。このサービスの使用方法は、[管理] で設定されます。ARIS Publisher の静的エクスポートに定義されたディレクトリからファイルが削除されます。これは、すべてがシングル サーバーにインストールされている、非分散シナリオにおいてのみ機能します。これらのパスがデフォルト パスと異なる場合は、[管理] で設定できます (プロパティ

com.idsscheer.age.serviceenabling.staticExport.exportDir)。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	エラー	すべての一時ファイルを削除できなかった場合、対応するエラーメッセージが表示されます。	<テキスト>

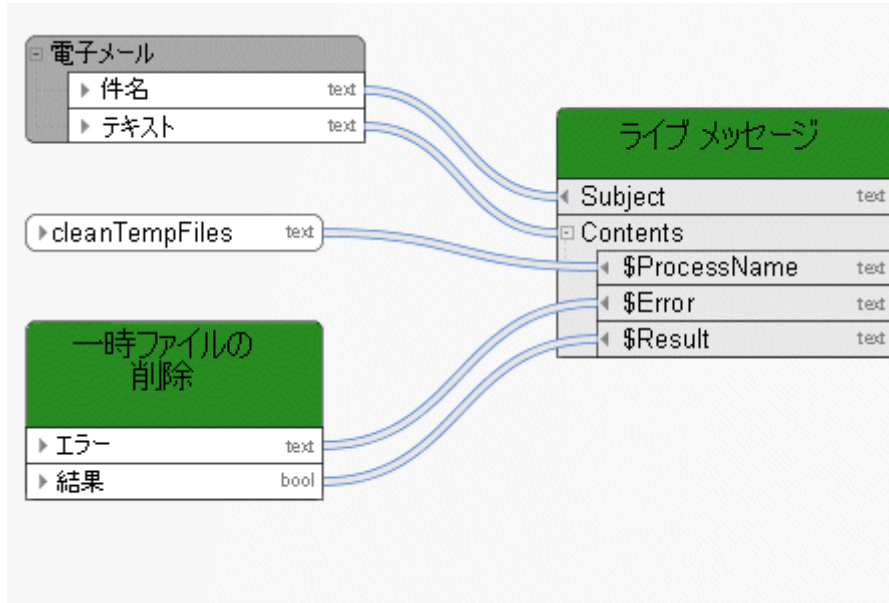


図 41: 一時ファイルの削除

4.34 比較 - モデル バージョン

このサービスは、モデルの 2 つのバージョンを比較します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
➡	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。これは、「英語 (オーストラリア)」がデータベースに設定されているが、「英語 (アメリカ合衆国)」が設定されていない場合などに便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
➡	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	選択したモデル	比較するモデルを指定します。	
➡	モデル GUID	バージョンを比較するモデルの GUID です。	<テキスト>
➡	変更リスト	最新バージョンのモデルの変更リスト番号です。	<10 進数>
➡	モデル プロパティの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのモデル プロパティが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
➡	ソース モデルのみに存在するアイテムの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、ソース モデルにのみ存在するアイテムが比較するバージョンで異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
➡	ターゲット モデルのみに存在するアイテムの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、ターゲット モデルにのみ存在するアイテムが比較するバージョンで異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
➡	両方のモデルのアイテムを比較	入力が TRUE である場合、サービスは、ソース モデルとターゲット モデルに存在するアイテムが比較するバージョンで異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
➡	オブジェクト定義の比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのオブジェクト定義が異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
➡	オブジェクト オカレンスの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのオブジェクト オカレンスが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
➡	オブジェクト オカレンスの比較: 表示設定	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのオブジェクト オカレンスの表示設定が異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
➡	オブジェクト オカレンスの比較: 位置/サイズ	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのオブジェクト オカレンスの位置またはサイズ、あるいはその両方が異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	オブジェクト オカレンスの比較: 属性の表示設定	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのオブジェクト オカレンスの属性の表示設定が異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	接続線定義の比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの接続線定義が異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	接続線の表示設定の比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの接続線オカレンスが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	接続線の表示設定	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの接続線の表示設定が異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	変曲点	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの変曲点が異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	接続線の属性表示設定	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの接続線の属性表示設定が異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	グラフィック オブジェクトの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのグラフィック オブジェクトが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	OLE オブジェクトの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの OLE オブジェクトが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	フリー テキストの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのフリー テキストが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	パス	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのパスが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
	内容ルート	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの内容ルートが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	ハイパーリンク	モデル バージョン比較の結果へのハイパーリンクです。	<テキスト>

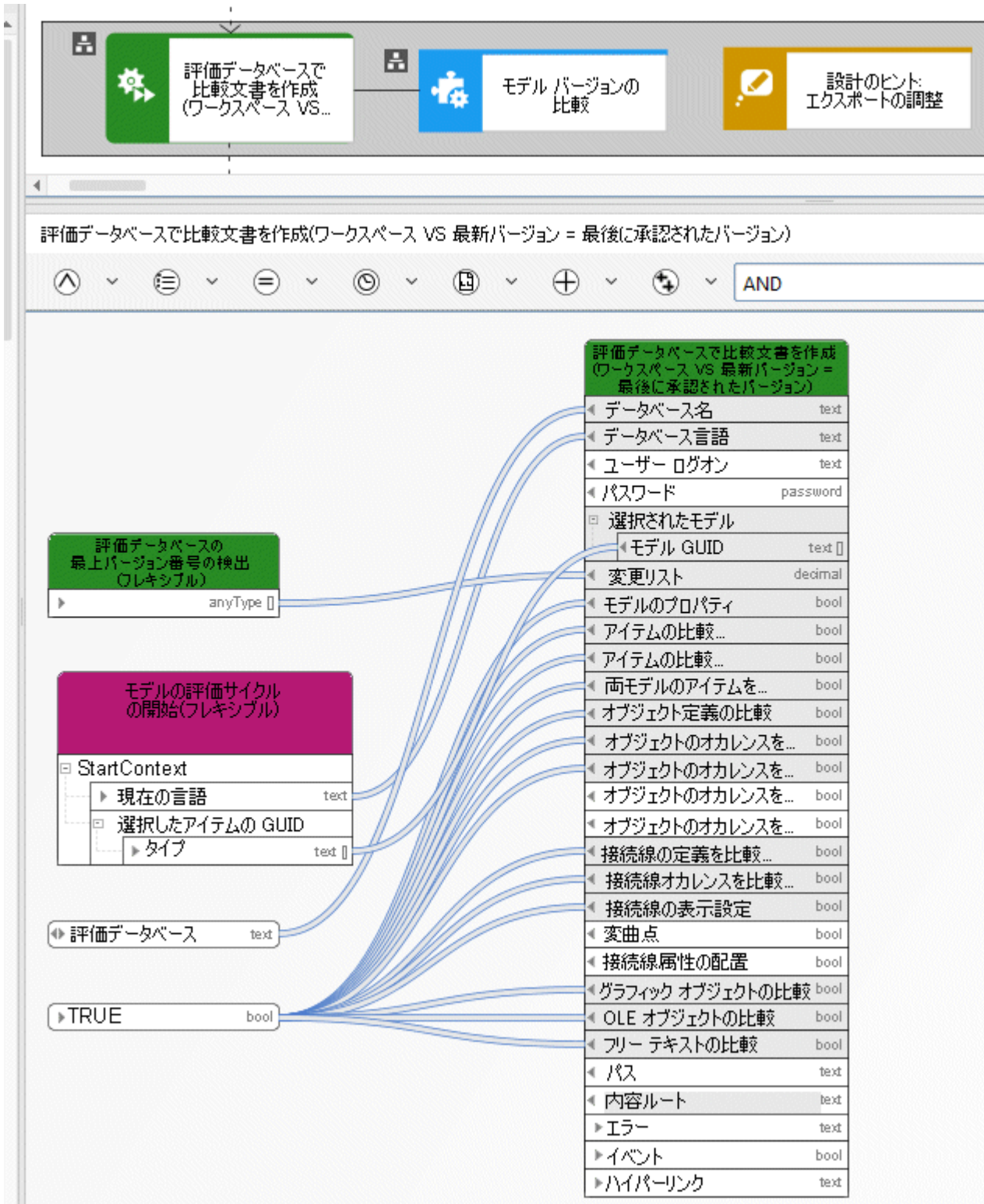











図 42: 比較 - モデル バージョン



4.35 移動 - モデル/オブジェクト (データベース内)

このサービスは、データベース内のモデルまたはオブジェクトを移動します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	移動するモデルまたはオブジェクトを選択してください。	
	識別子の割り当て	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルまたはオブジェクトを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	ターゲット パス	正しいデータベース言語を使用して、モデルまたはオブジェクトを移動するパスを入力してください (例: メイン グループ¥プロセス¥販売プロセス)。	<テキスト>
	関連オブジェクトの移動	モデルの移動時にそのオブジェクトも移動する場合は、論理定数に TRUE を定義します。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	クライアント キー	バックグラウンドとなる技術情報のみです - 無視してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Design Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>



イン/アウト	名前	詳細	データ型
←	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

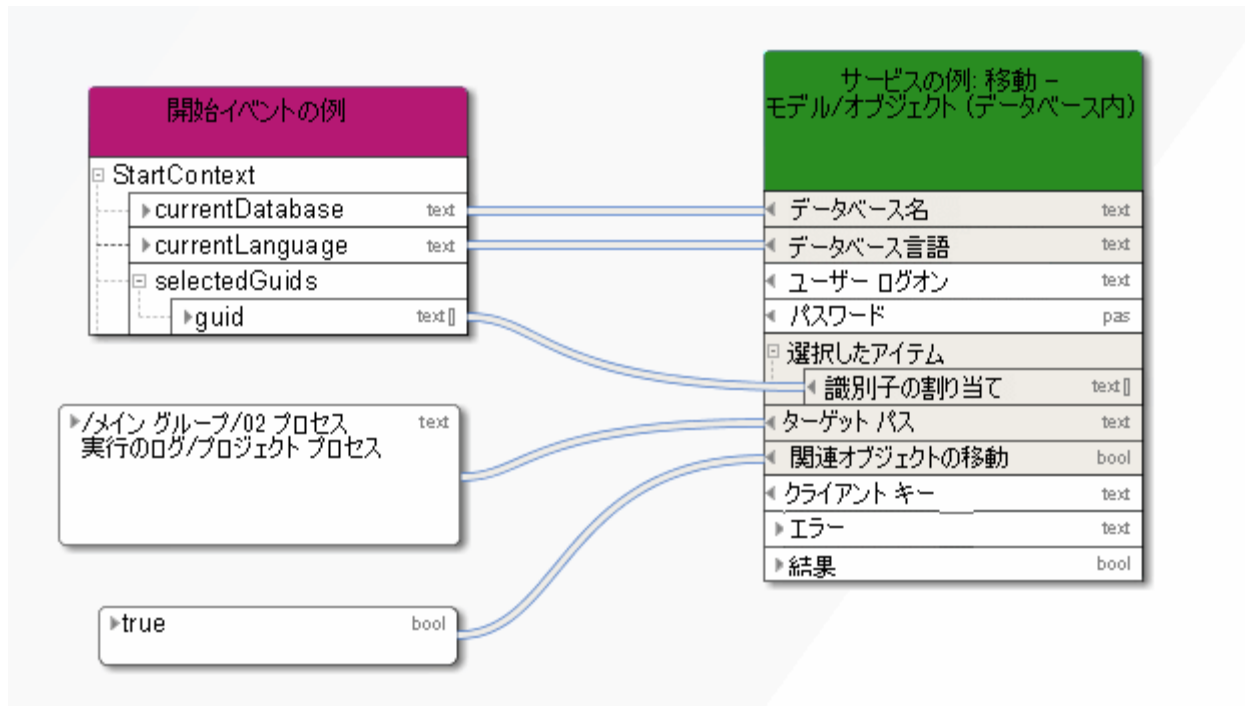


図 43: データベース内のモデル/オブジェクトの移動



5 ARIS Connect でサービスを公開

5.1 取得 - ARIS Connect のリンク

このサービスでは、たとえば ARIS Architect で作業を行わないユーザーが利用できるように、モデルへのリンク一覧を ARIS Connect に提供されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	現在のデータベースの名前	<テキスト>
	データベースのバージョン	たとえば [作成 - バージョン 『57ページ 』] サービスによって返されるデータベースのバージョン。	<少数>
選択したアイテム		ARIS Connect でリンクを作成するモデルを選択します。	
	識別子	ARIS Connect で取得されるリンクのモデルの GUID です。	<テキスト>
	ロケール	標準データベース言語。必須フィールドです。	<テキスト>
	リンク リスト	すべての関連モデルにリンク リストが用意されます。ダイアログの 1 つのリンク フィールドに許可されるリンク数は 1 つのみです。このサービスは、モデルにアクセスするためのリンク設定が複数ある場合に、リンクのリストを提供します。ダイアログのデータ フローで、選択を決定する演算子を使用してすべての単一リンクをモデリングしてください。	<テキストの集合>

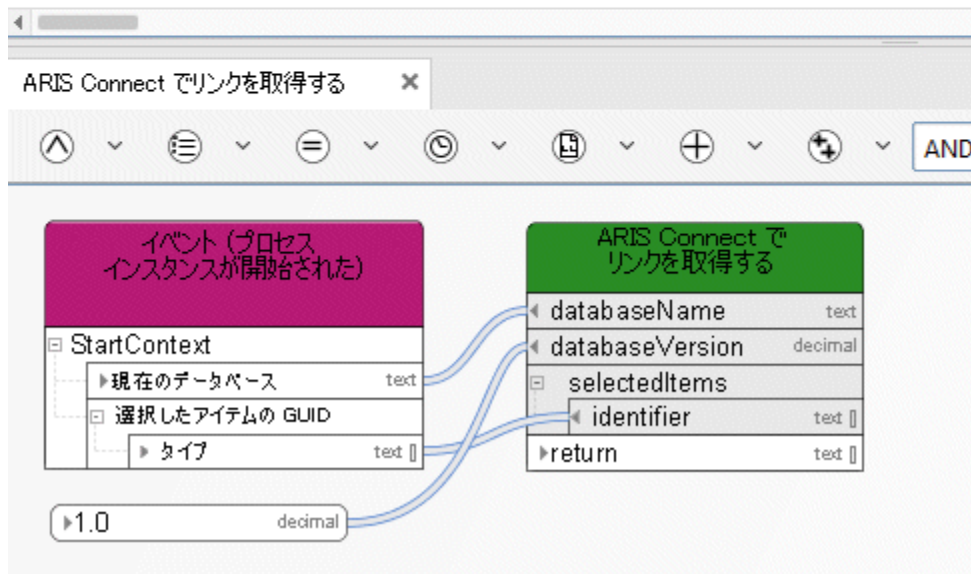
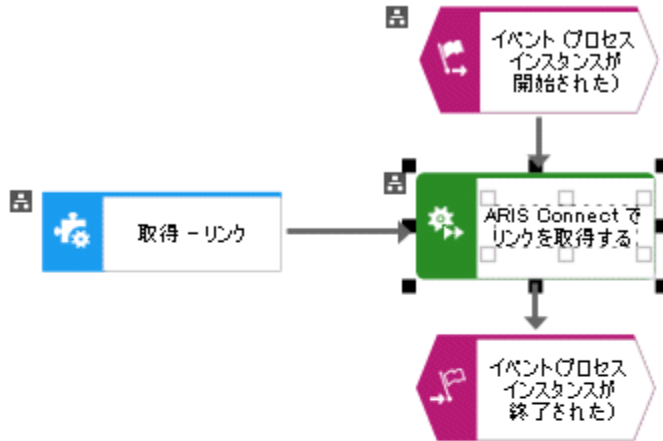


図 44: 取得 - リンク

5.2 公開 - データベース

このサービスにより、ARIS Architect で作業を行えないユーザーが利用できるように、ARIS Connect でデータベース、またはデータベースの特定のバージョンが公開されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	公開するデータベースの名前。必須フィールドです。	<テキスト>
	データベースのバージョン	たとえば [作成 - バージョン 『57ページ』] サービスによって返されるデータベースのバージョン。	<少数>
	ロケール	標準データベース言語。必須フィールドです。	<テキスト>



	結果	データベースが ARIS Connect で正常に公開された場合は TRUE、公開されなかった場合は FALSE です。	<論理値>
--	----	--	-------

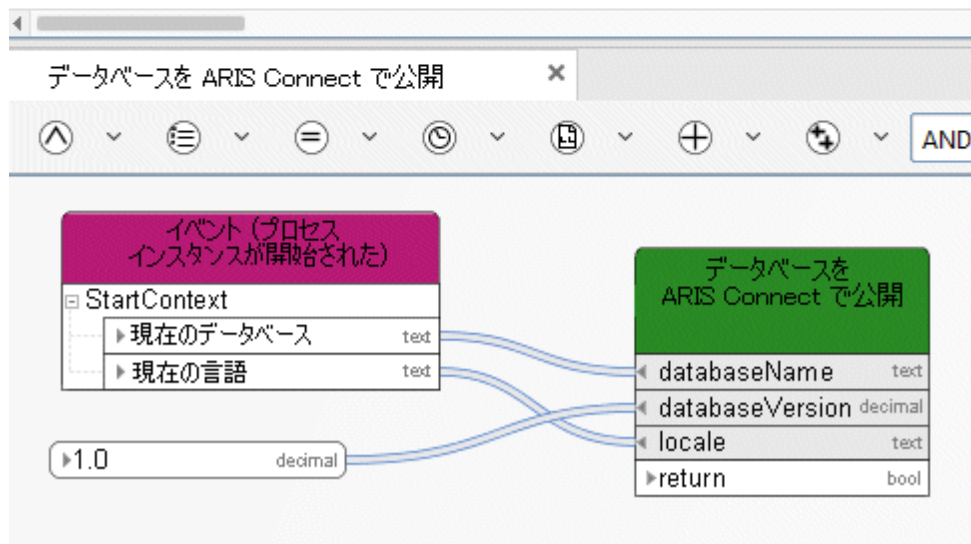
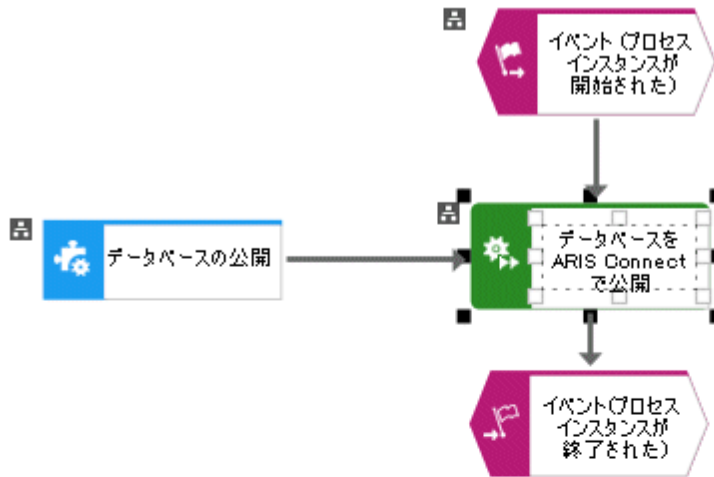


図 45: ARIS Connect でデータベースを公開



6 ユーザー管理

6.1 更新 - ユーザー情報

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理からユーザーに関する情報が更新されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	情報を更新するユーザー。	<ユーザー>
	名	ユーザーの名前。	<テキスト>
	姓	ユーザーの新しい姓。	<テキスト>
	電子メール	ユーザーの新しい電子メール アドレス。	<テキスト>
	ユーザー	更新されたユーザーのログオン名。	<テキスト>

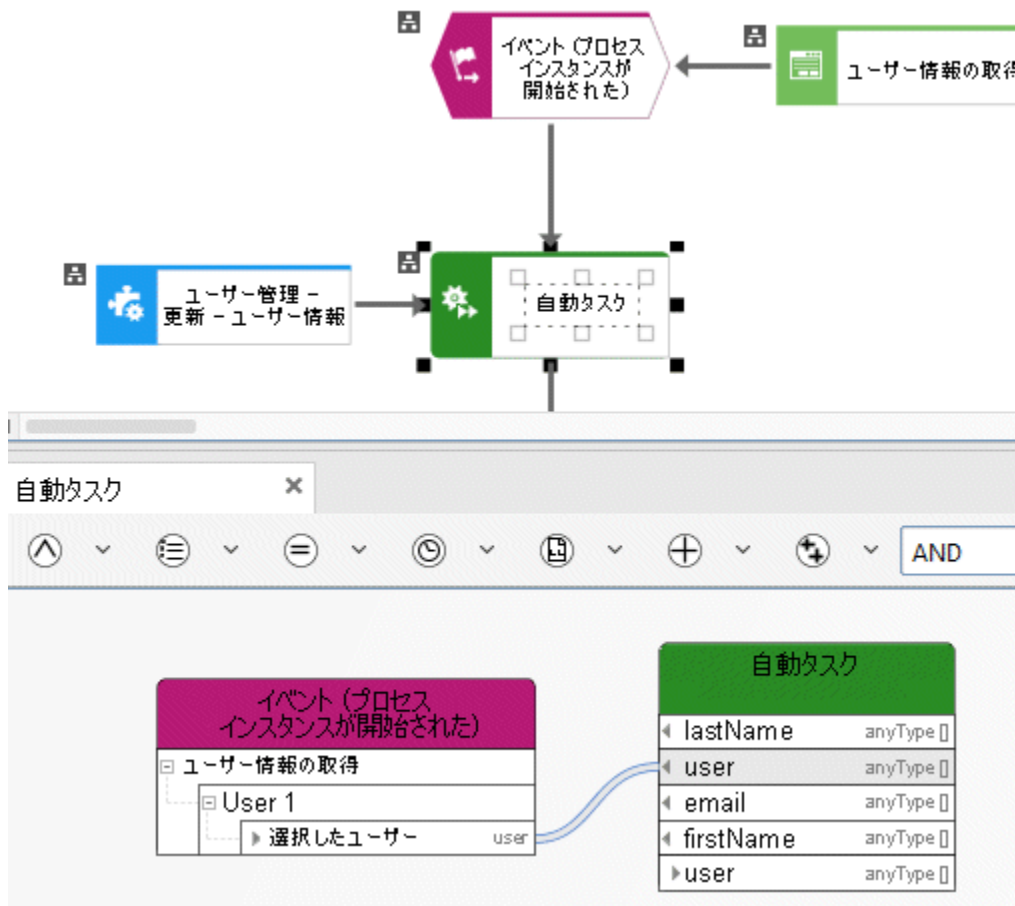




図 46: ユーザー管理 - 更新 - ユーザー情報





6.2 取得 - プロセス ボード ユーザー

このサービスでは、ユーザーが プロセス ボード ライセンスを持つかどうかを確認されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	情報を提供するユーザー。	<ユーザー>
	結果	ユーザーが プロセス ボード ライセンスをもつ場合は TRUE、もたない場合は FALSE になります。	<論理値>

6.3 取得 - ユーザーの選択の有無

このサービスを使用すると、タスクの実行中に表示されるダイアログ ボックスのユーザー選択でユーザーが選択されているかどうかに関する情報が取得されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	情報を取得するための、ダイアログ ボックス内の [選択したユーザー] ボックス。	<ユーザー>
	結果	ダイアログ ボックスで少なくとも 1 人のユーザーが選択されている場合は TRUE、選択されていない場合は FALSE です。	<論理値>

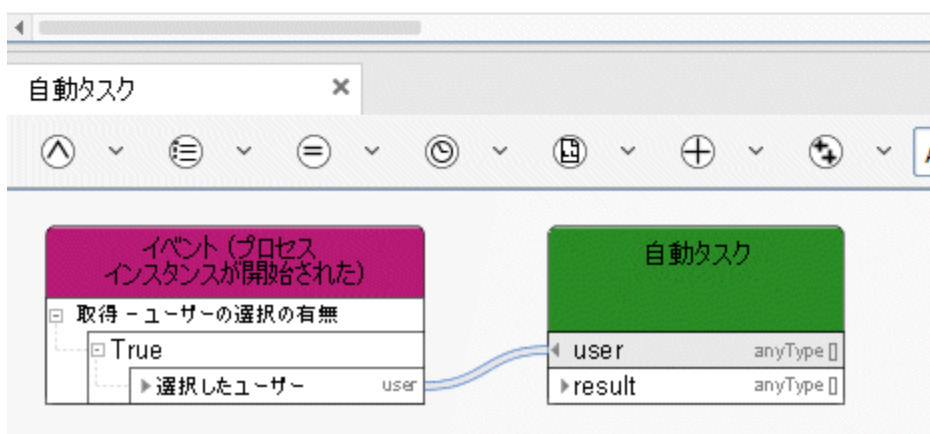
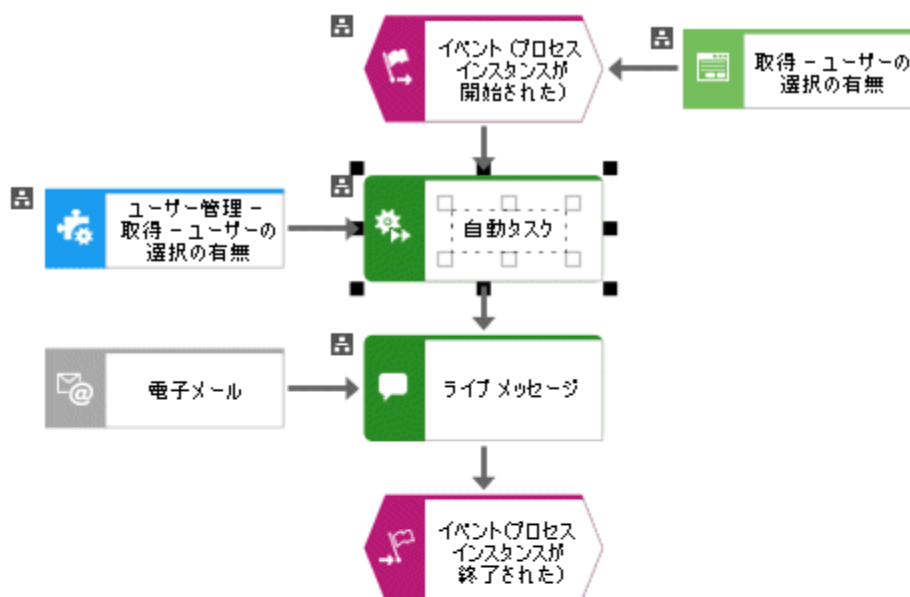





図 47: ユーザー管理 - 取得 - ユーザーの選択の有無



6.4 識別 - ユーザーのユーザー グループ

このサービスを使用すると、ユーザーが特定のユーザー グループと関連付けられているかがユーザー管理で確認されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー グループ	ユーザーの関連を確認するユーザー グループ。	<ユーザー> または <テキスト>
	ユーザー	ユーザー グループの関連を確認するユーザー。	<ユーザー> または <テキスト>
	結果	ユーザーがユーザー グループに属している場合は TRUE、それ以外の場合は FALSE です。	<論理値>

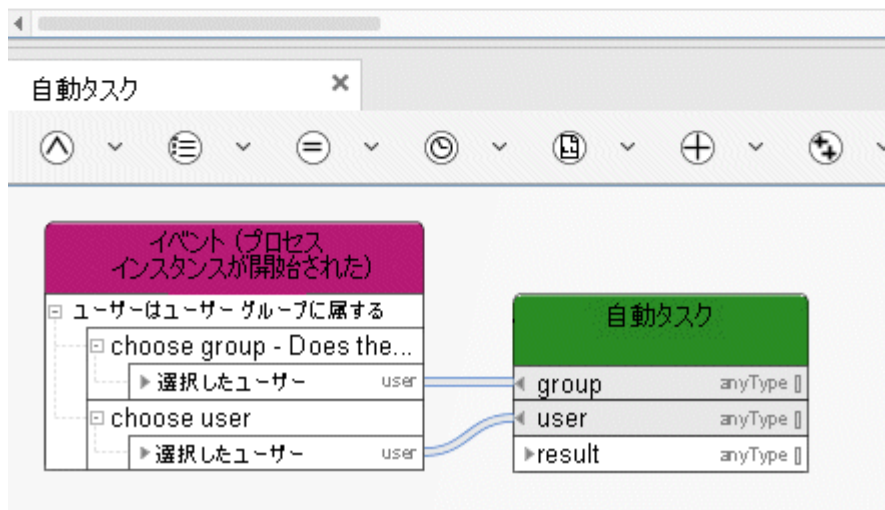
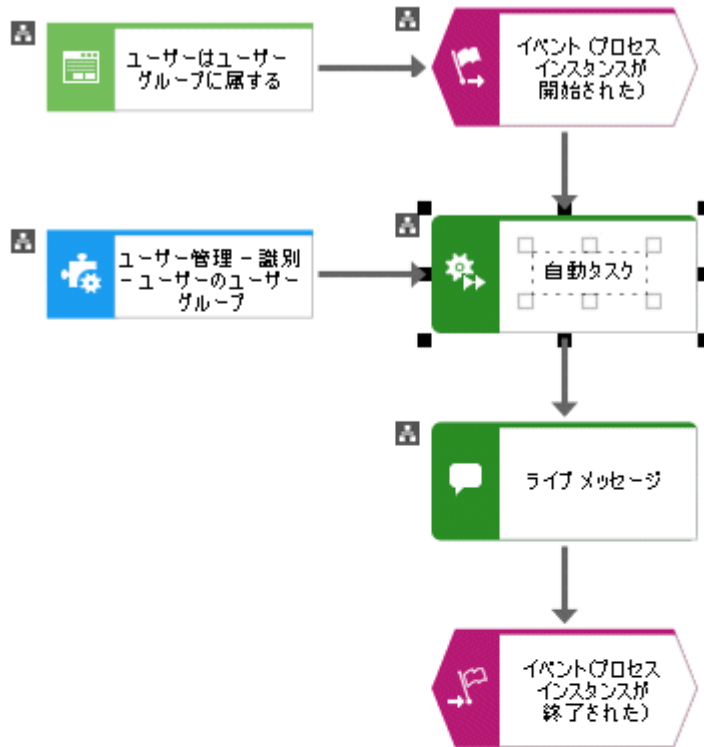


図 48: ユーザー管理 - 識別 - ユーザーのユーザー グループ



6.5 取得 — ユーザー情報

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理からユーザーに関する情報が取得されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	情報を提供するユーザー。	<ユーザー>
	ログオン名	ログオンする際にユーザーが入力する名前。	<テキスト>
	名	ユーザーの名前。	<テキスト>
	UUID	ユーザーの一意の識別子。	<テキスト>
	表示名	ユーザーの表示名。	<テキスト>
	名	ユーザーの名前。	<テキスト>
	姓	ユーザーの姓。	<テキスト>
	電子メール	ユーザーの電子メール アドレス。	<テキスト>

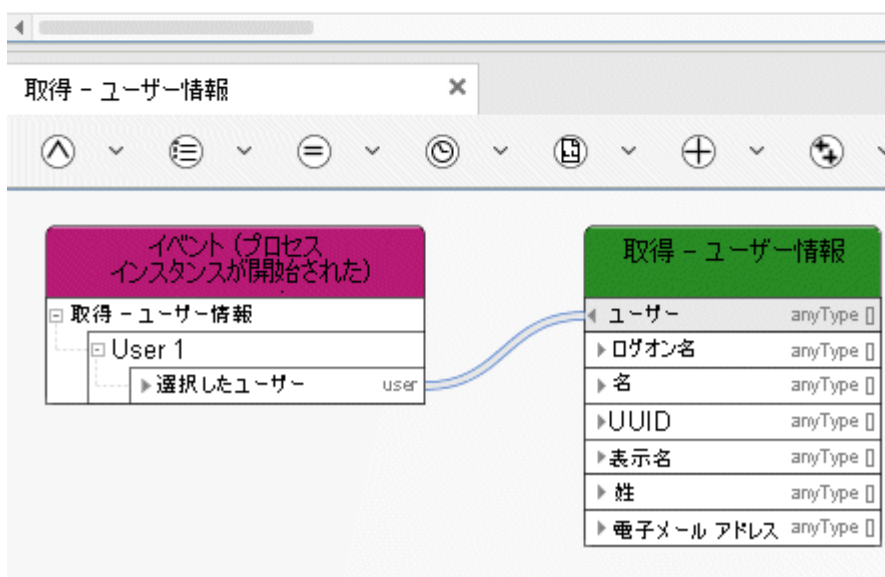
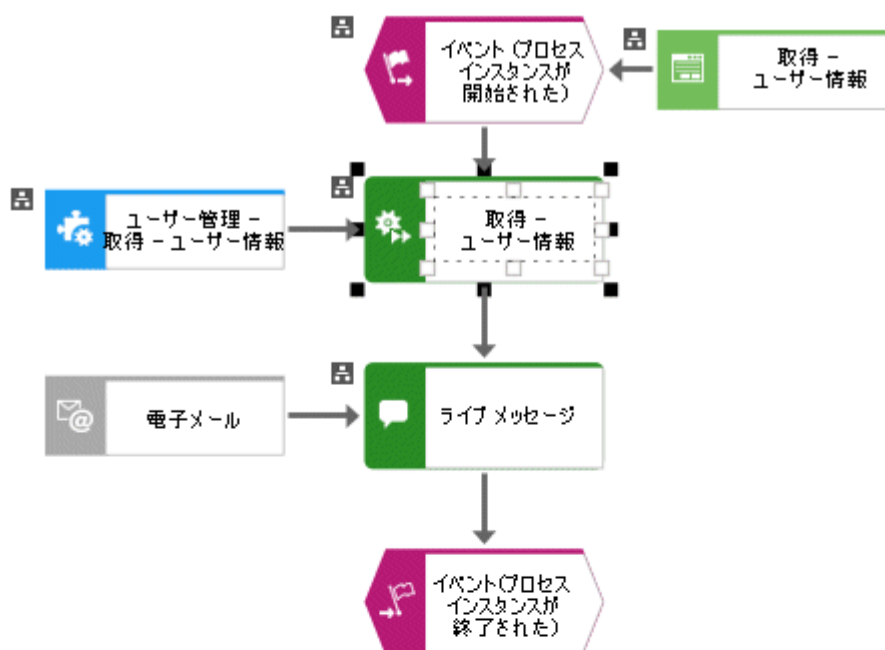






図 49: ユーザー管理 - 取得 - ユーザー情報



6.6 生成 - ユーザー

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理でユーザーが新規に生成されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ログオン名	ユーザーが CentraSite にログオンするために使用する名前。	<テキスト>
	姓	生成するユーザーの姓。	<テキスト>
	名	生成するユーザーの名前。	<テキスト>
	ユーザー	生成されたユーザーのログオン名。	<テキスト>

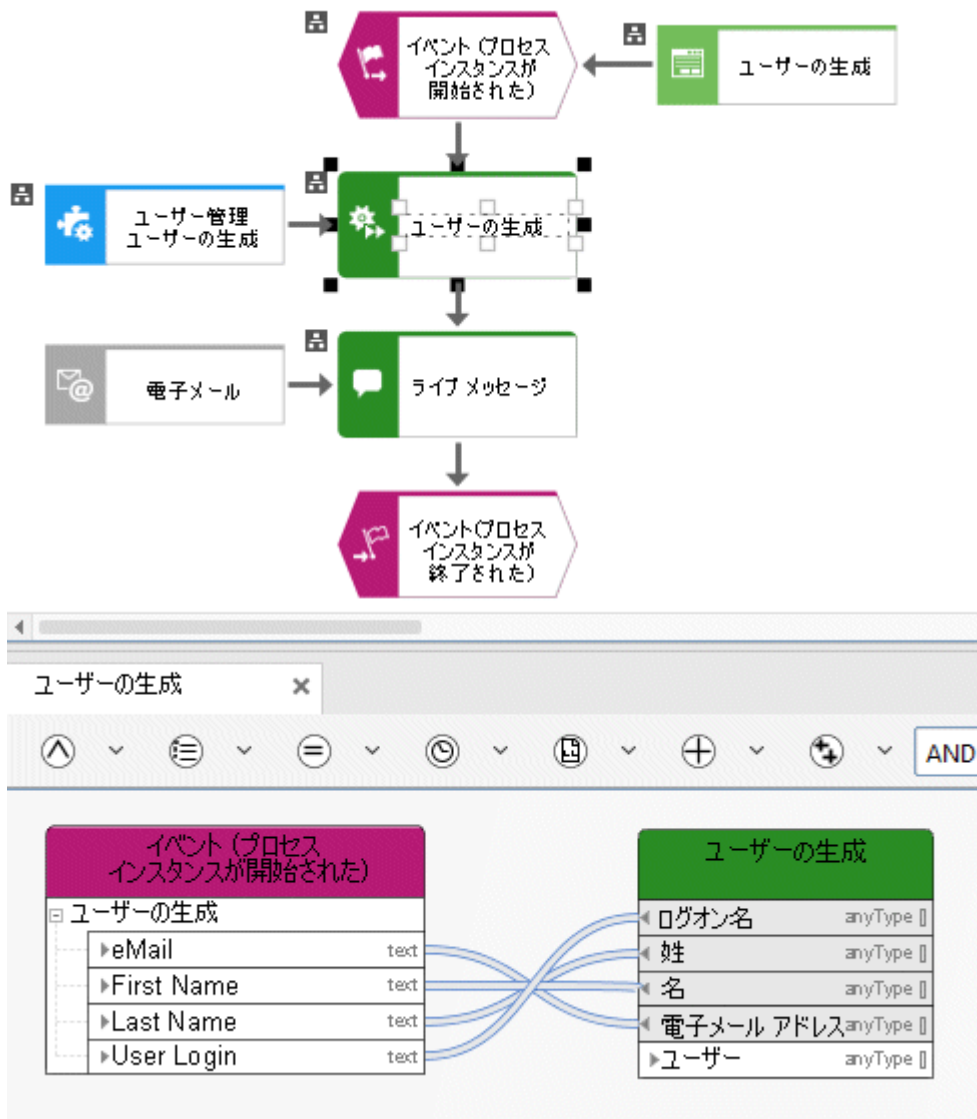




図 50: ユーザー管理 - 生成- ユーザー



6.7 生成 - ユーザー グループ

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理でユーザー グループが生成されます。ユーザー グループの名前は入力データです。同じ名前のユーザー グループが既にある場合は、出力データとして返されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー グループの名前	データベースと管理のユーザー管理で生成するユーザー グループの名前。	<テキスト>
	ユーザー グループ	生成されたユーザー グループの名前。	<テキスト>

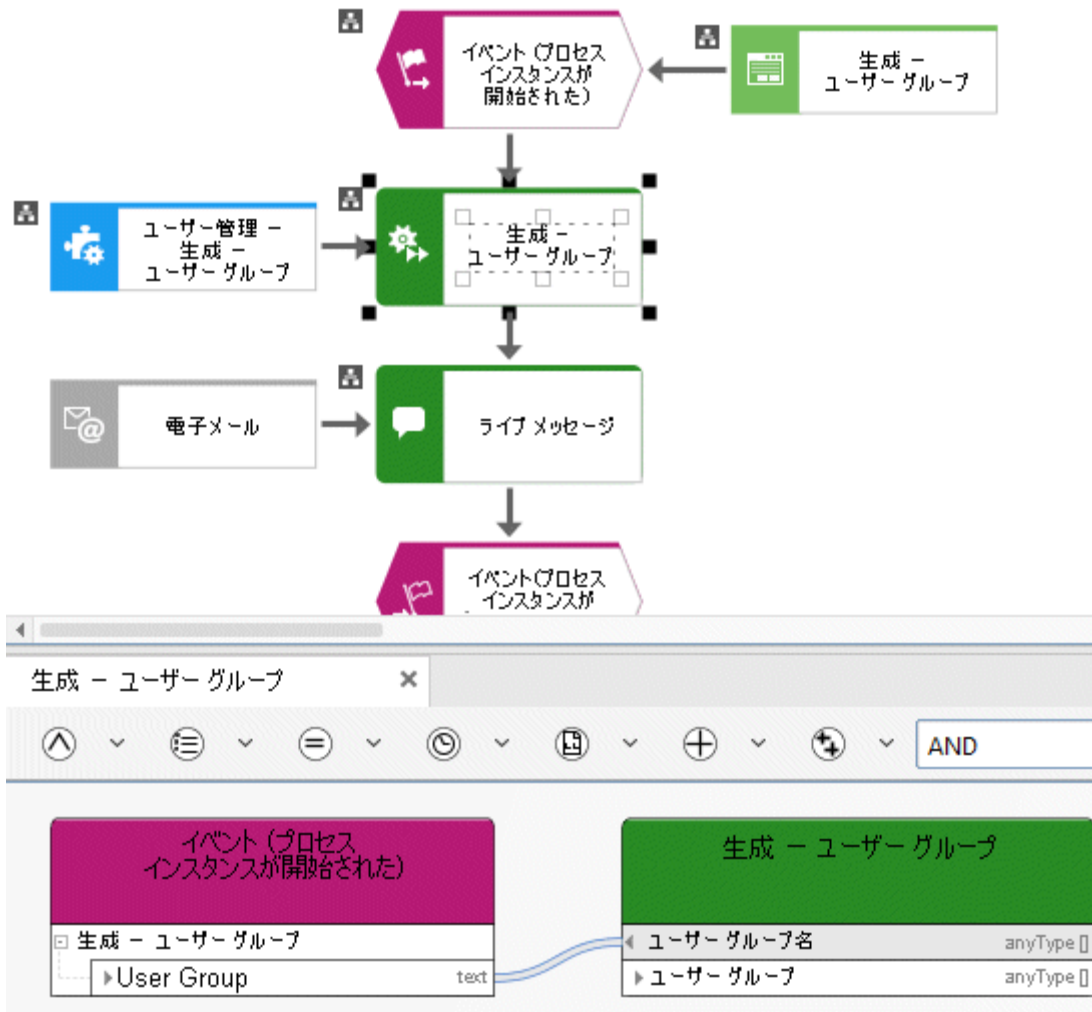


図 51: ユーザー管理 - 生成- ユーザー グループ



6.8 削除 - ユーザー

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理からユーザーが削除されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	削除されるユーザー。	<ユーザー>

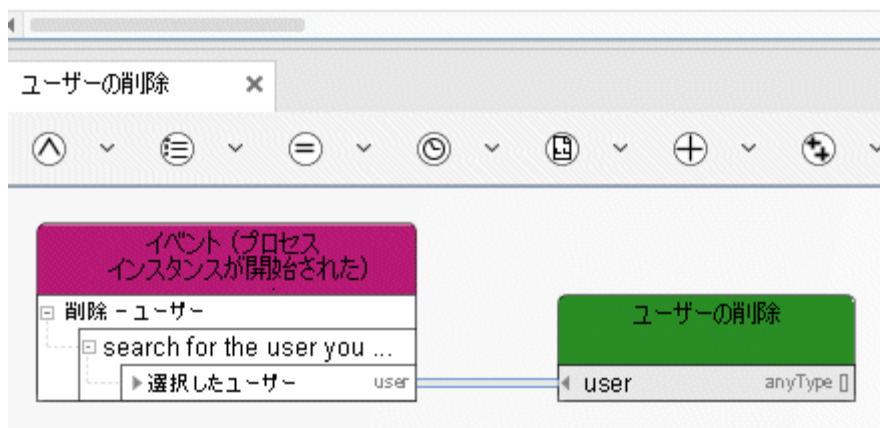
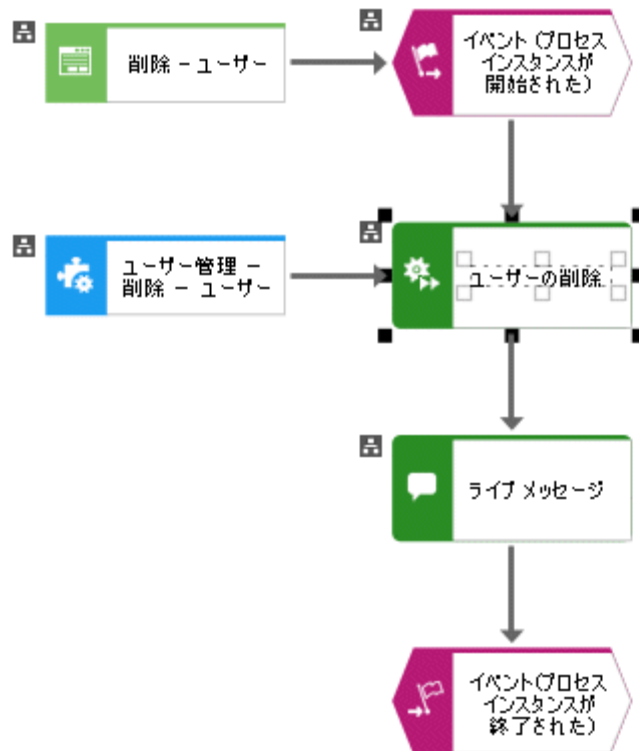


図 52: ユーザー管理 - 削除- ユーザー



6.9 削除 - ユーザー グループ

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理からユーザー グループが削除されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー グループ	削除するユーザー グループ。	<ユーザー> または <テキスト>

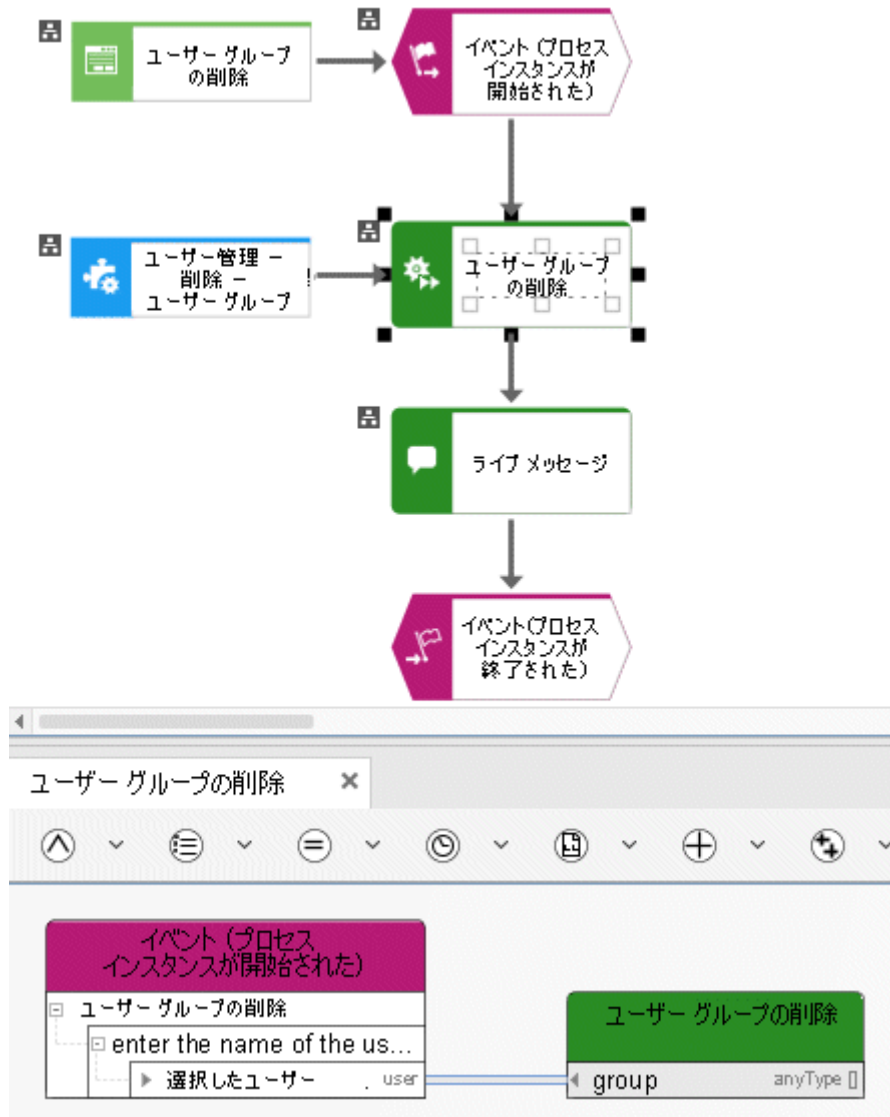





図 53: ユーザー管理 - 削除- ユーザー グループ



6.10 関連 - ユーザー グループ

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理でユーザーを特定のユーザー グループに関連付けます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー グループ	ユーザーが関連付けられるユーザー グループ。	<ユーザー> または <テキスト>
	ユーザー	特定のユーザー グループと関連付けられるユーザー。	<ユーザー> または <テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

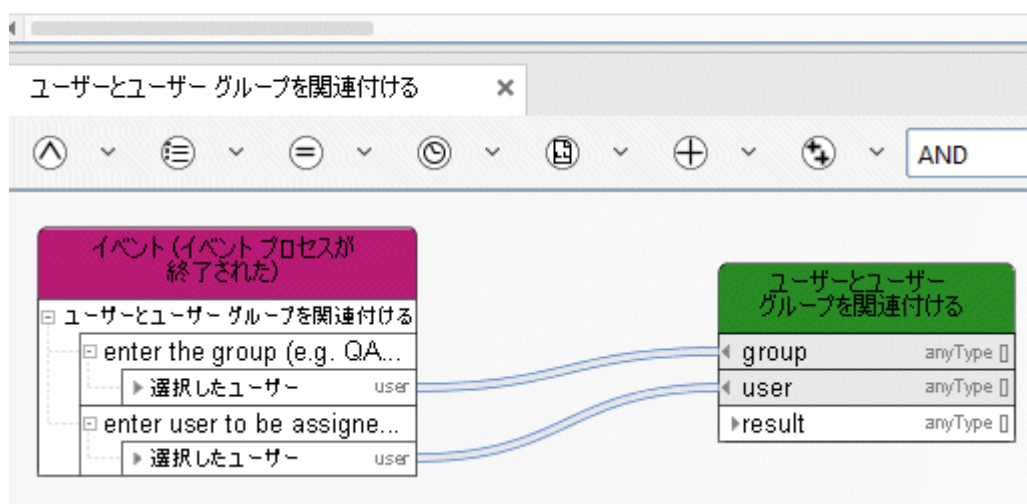
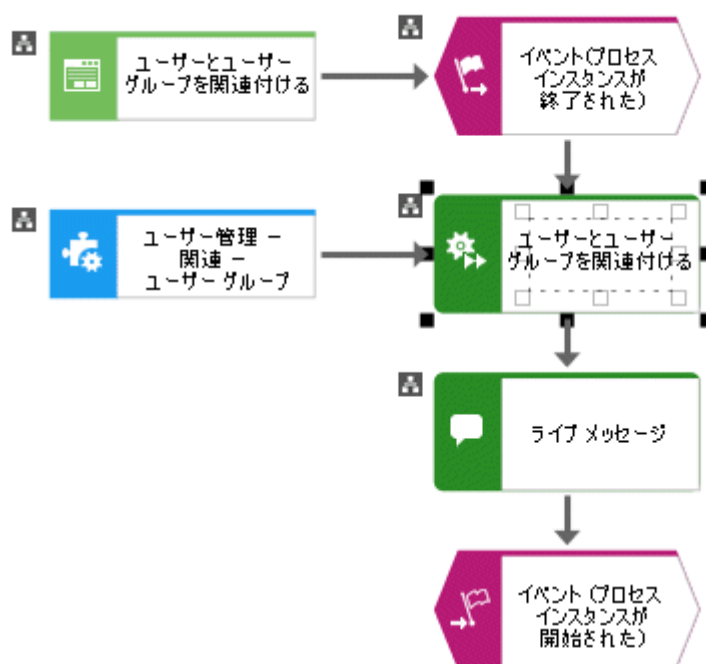





図 54: ユーザー管理 - 関連 - ユーザーグループ



6.11 割り当て - 利用権限をユーザーへ

このサービスを使用すると、ユーザーに利用権限が割り当てられます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	利用権限を割り当てるユーザー。	<ユーザー>
	利用権限	ユーザーに割り当てる利用権限 (たとえば、Process Governance 管理者など)。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

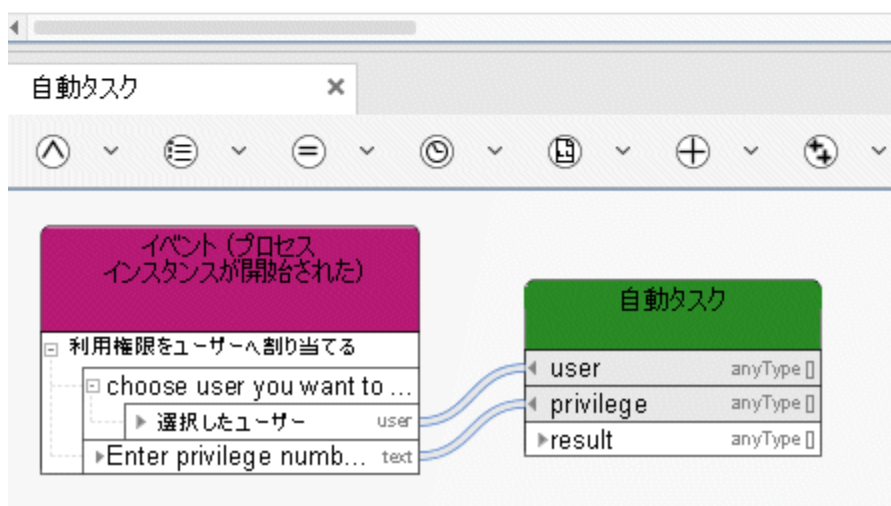
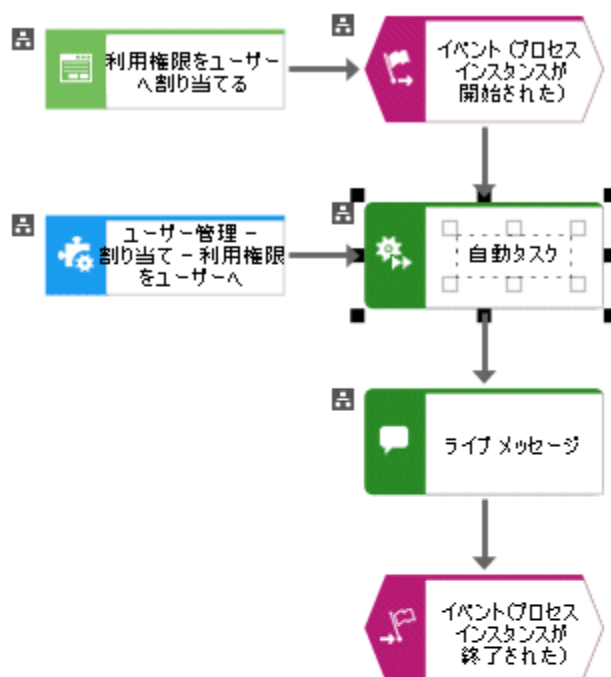


図 55: ユーザー管理 - 割り当て - 利用権限をユーザーへ



6.12 割り当て - ライセンス

このサービスを使用すると、ライセンスがユーザーに割り当てられます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	特定のライセンスを割り当てるユーザー。	<ユーザー>
	製品コード	ユーザーに割り当てる特定の製品ライセンス (ARIS Publisher の YBU など)。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

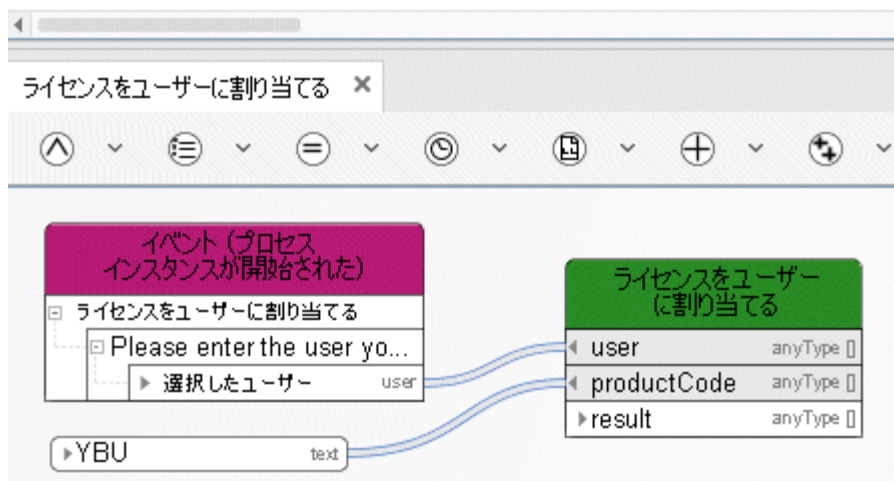
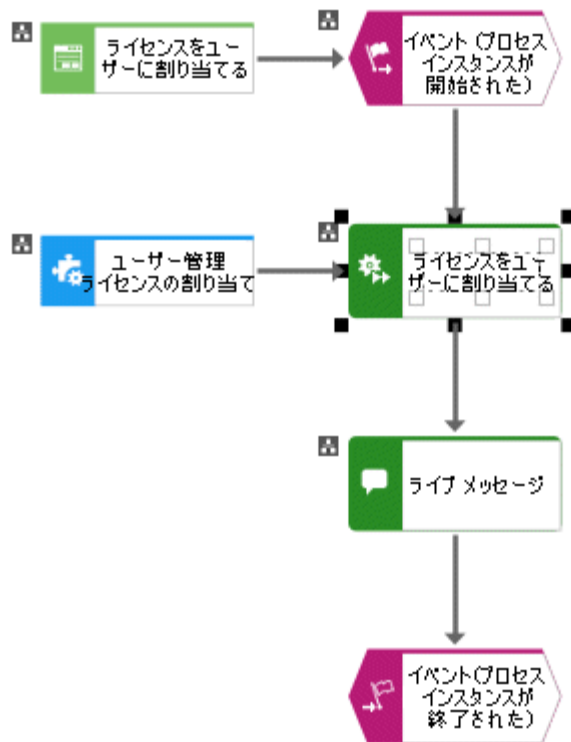


図 56: ユーザー管理 - 割り当て - ライセンス



7 ARIS 文書格納

7.1 文書の作成

このサービスは、新規文書を ARIS 文書格納に作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ADS ユーザー	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<テキスト>
	ADS パスワード	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」のパスワードが使用されます。	<パスワード>
	ターゲット フォルダー	文書のアップロード先となる ARIS 文書格納内の保存場所の URL (必須フィールド)。 例: Repository: /root/	<フォルダー>
	タイトル	文書タイトル。	<テキスト>
	説明	文書の説明。	<テキスト>
	ステータス	文書のステータス。大文字で表示される以下の値があります。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ APPROVED (承認済み) ▪ IN_PROGRESS (処理中) ▪ ON_APPROVAL (承認待機中) ▪ REJECTED (拒否済み) 	<テキスト>
	バージョン	文書のバージョン。	<テキスト>
	タグ	文書を識別するタグ。	<テキストの集合>
	ファイル URL	[ARIS Design Server] 上のファイルの物理的な場所の URL (必須フィールド)。 例: D:\temp\document.doc	<テキスト>
	文書	作成された文書 (<文書> タイプ)	<文書の集合>

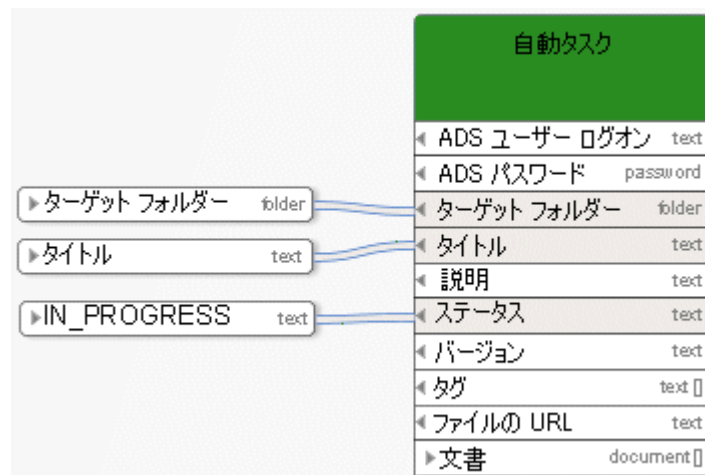


図 57: 文書の作成



7.2 文書のダウンロード

このサービスは、ARIS 文書格納から文書をダウンロードします。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	ADS ユーザー	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<テキスト>
➡	ADS パスワード	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」のパスワードが使用されます。	<パスワード>
➡	文書	ダウンロードする文書（必須フィールド）。	<文書>
➡	パス	[ARIS Design Server] 上のファイルの物理的な場所の URL（必須フィールド）。 例: D:\temp\document.doc	<テキスト>
➡	上書き	値 TRUE（上書き）または FALSE（上書きしない）を取ることができます	<論理値>
⬅	文書	文書の内容	<テキスト>

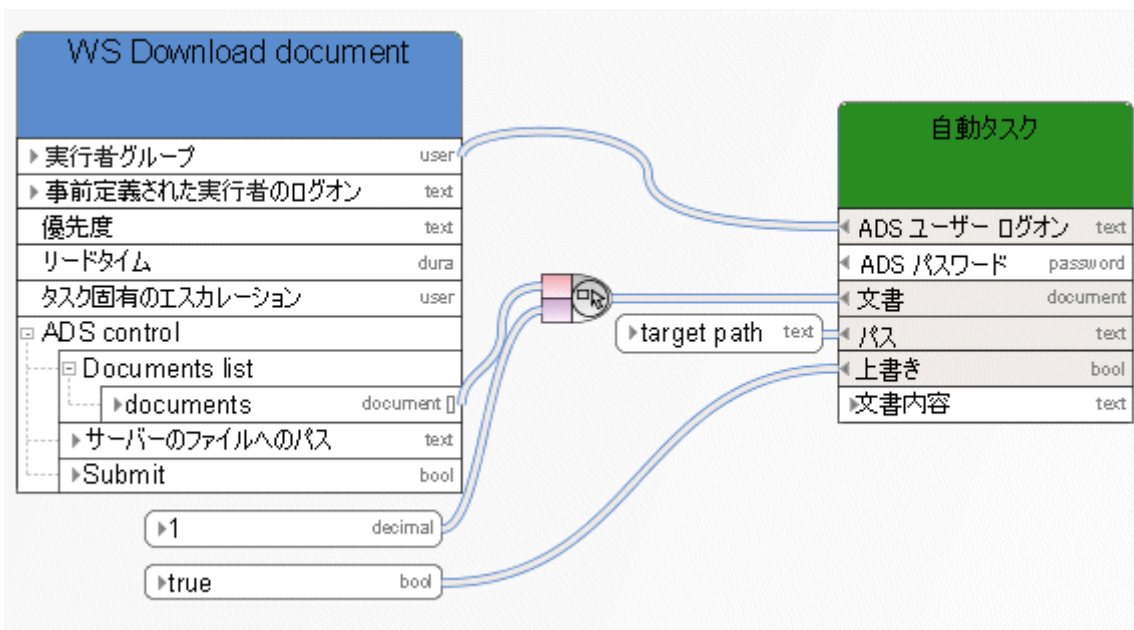


図 58: 文書のダウンロード



7.3 文書の更新

このサービスは、サーバー側で実行されます。ARIS 文書格納内の文書を更新する新しい内容を含む文書が、ARIS Design Server 上に存在する必要があります。一般に、レポート結果やログ ファイルがこれに該当します。通常、このサービスは、[自動タスク] タイプのオブジェクトによって呼び出されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	ADS ユーザー	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<テキスト>
➡	ADS パスワード	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<パスワード>
➡	文書	ARIS 文書格納内に保存され、内容を更新する文書の一覧 (必須フィールド)。	<文書の集合>
➡	パス	[ARIS Design Server] 上のファイルの物理的な場所の URL (必須フィールド)。例: D:\temp\document.doc	<テキストの集合>
⬅	更新済み文書	更新済み文書のリスト	<文書の集合>

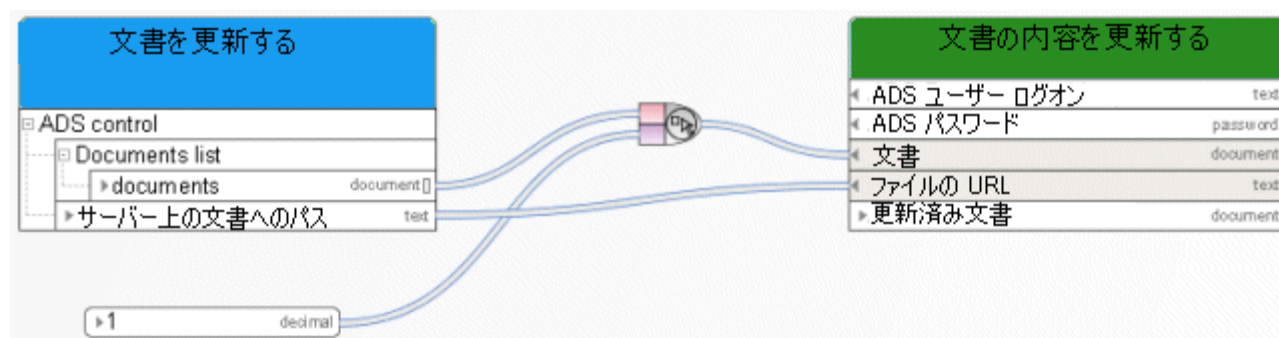


図 59: 文書の更新



7.4 文書のロックの解除

このサービスは、ARIS 文書格納内の文書のロックを解除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	ADS ユーザー	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<テキスト>
➡	ADS パスワード	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」のパスワードが使用されます。	<パスワード>
➡	文書	ロックを解除する文書の一覧（必須フィールド）。	<文書の集合>
⬅	成功	すべての文書のロックが解除されたかどうかについての情報を返します。	<論理値>

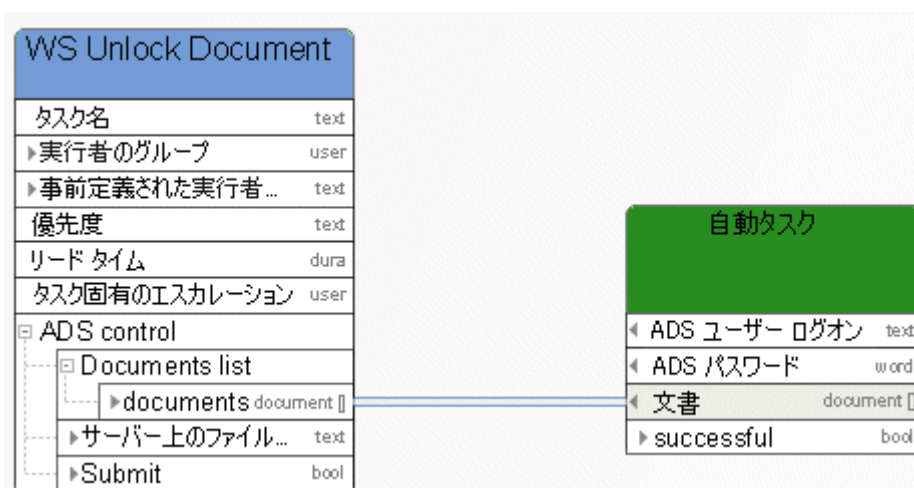


図 60: 文書のロックの解除



7.5 文書の削除

このサービスは、文書を ARIS 文書格納から削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	ユーザー	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<パスワード>
➡	文書	削除する文書の一覧（必須フィールド）。	<文書の集合>

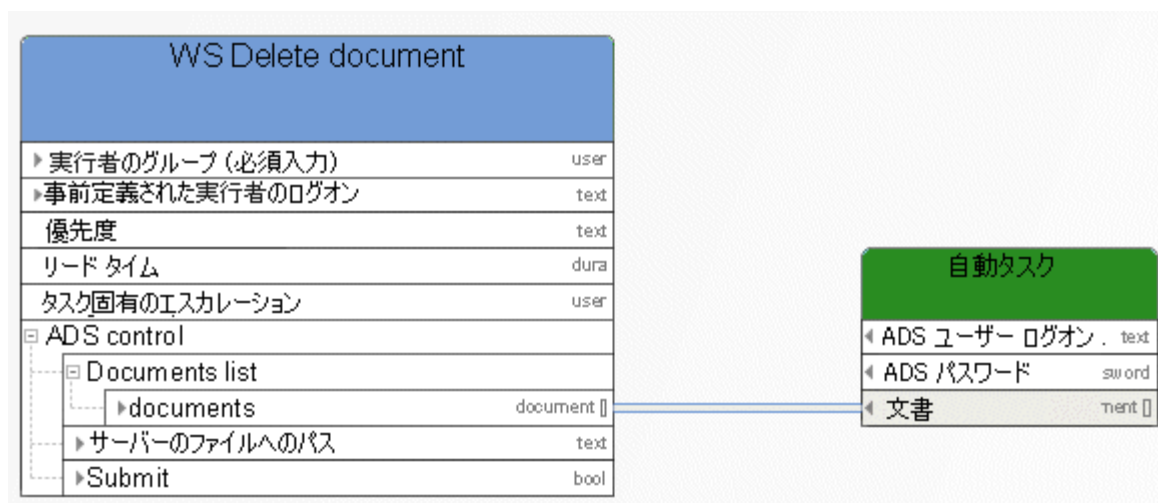


図 61: 文書の削除



7.6 文書のロック

このサービスは、ほかのユーザーが編集できないよう ARIS 文書格納内の文書をロックします。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	ADS ユーザー	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<テキスト>
➡	ADS パスワード	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<パスワード>
➡	文書	ロックする文書の一覧 (必須フィールド)。	<文書の集合>
⬅	成功	すべての文書がロックされたかどうかについての情報を返します。	<論理値>

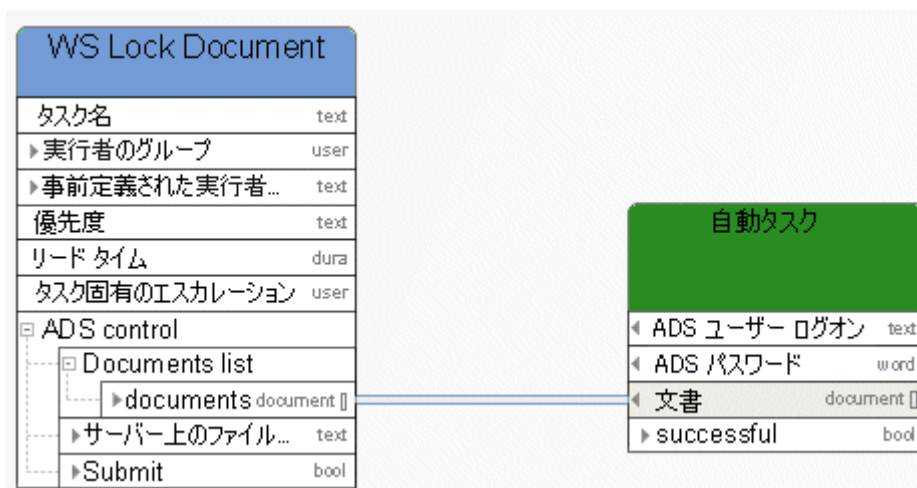


図 62: 文書のロック



7.7 文書の移動

このサービスを使用して、一時文書を ARIS 文書格納に転送するか、永久的に保存された文書を ARIS 文書格納内の別のフォルダーに移動できます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	ユーザー	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<テキスト>
➡	パスワード	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<パスワード>
➡	文書	移動する文書の一覧（必須フィールド）。	<文書の集合>
➡	ターゲット フォルダー	文書の移動先にするターゲット フォルダー（必須フィールド）。	<テキスト> または <フォルダー>
↶	文書の一覧	文書の一覧（文書データ タイプ）	<文書の集合>

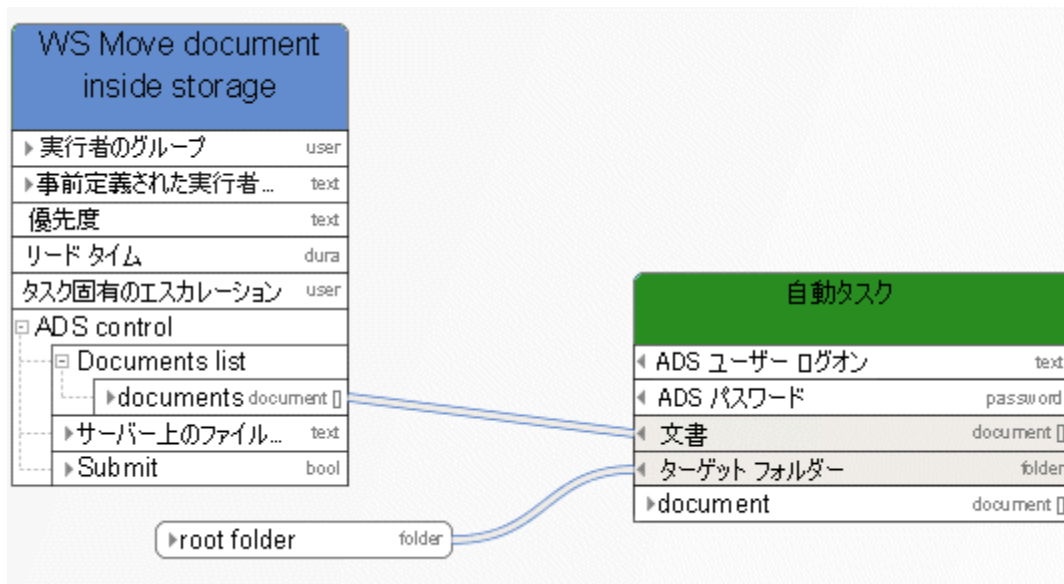


図 63: 文書の移動



7.8 文書のメタデータの更新

このサービスは、文書のメタデータを更新します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	ADS ユーザー	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<テキスト>
➡	ADS パスワード	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<パスワード>
➡	文書	メタデータを更新する文書（必須フィールド）。	<文書>
➡	キー	更新するメタデータ キーの一覧（必須フィールド）。	<テキストの集合>
➡	値	更新するメタデータ値の一覧（必須フィールド）。	<テキストの集合>
⬅	更新済み文書	メタデータが更新された文書。更新中に文書名が変更された場合、更新前の文書名が返されます。	<文書>

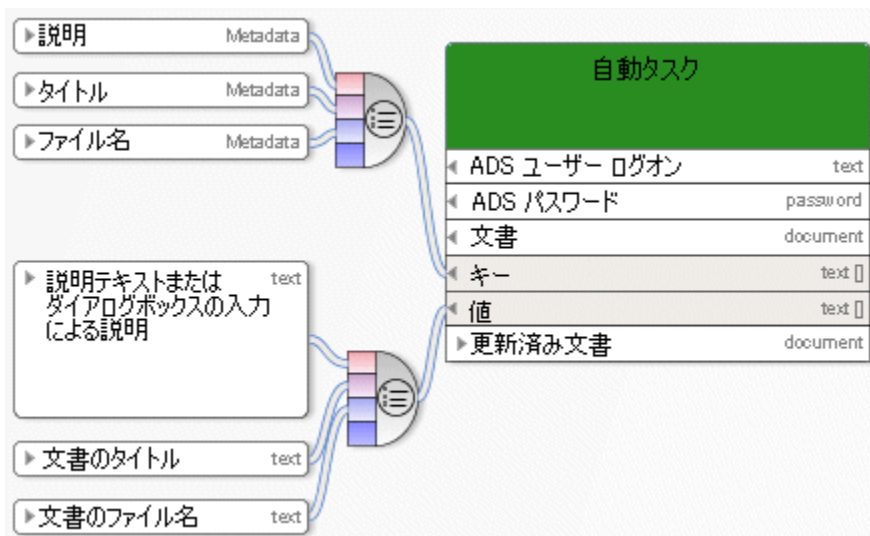


図 64: 文書のメタデータの更新



7.9 複数文書のメタデータの更新

このサービスは、複数文書に対してメタデータ キー/値ペアを更新します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ADS ユーザー	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<テキスト>
	ADS パスワード	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<パスワード>
	文書	メタデータを更新する文書の一覧（必須フィールド）。	<文書の集合>
	キー	文書一覧のすべての文書に対して更新するメタデータ キー（必須フィールド）。	<テキスト>
	値	文書一覧のすべての文書に対して更新するメタデータ値（必須フィールド）。	<テキスト>
	更新済み文書	メタデータ キー/値の組が更新された文書の一覧。更新中に文書名が変更された場合、更新前の文書名が返されます。	<文書の集合>

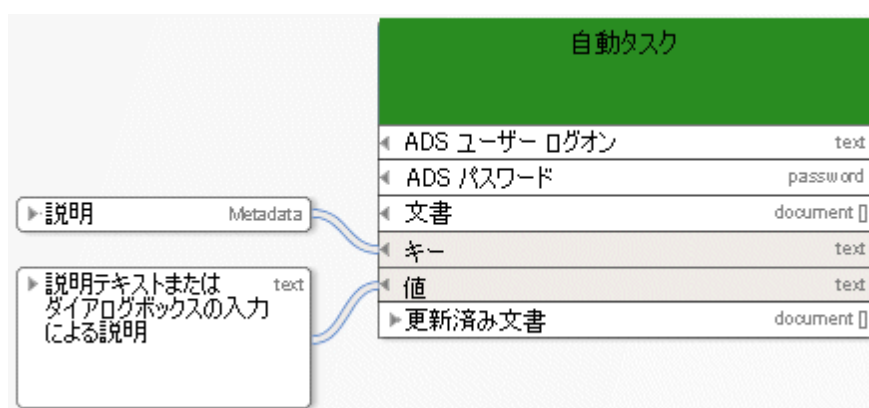


図 65: 複数文書のメタデータの更新



7.10 フォルダ-の作成

このサービスは、指定した名前のフォルダ-を ARIS 文書格納に新規作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	ARIS 文書格納ユーザー	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」が使用されます。	<テキスト>
➡	ARIS 文書格納ユーザー パスワード	オプションであり、外部の文書管理システムが使用されている場合にのみ適用されます。ARIS 文書格納には、ユーザー「arisservice」のパスワードが使用されます。	<パスワード>
➡	フォルダ-	必須入力です。作成するフォルダ-の名前です（例：Repository: /root/<新規フォルダ->/）。	<フォルダ->
⬅	フォルダ-	新しく作成されたモデルを返します。	<フォルダ->

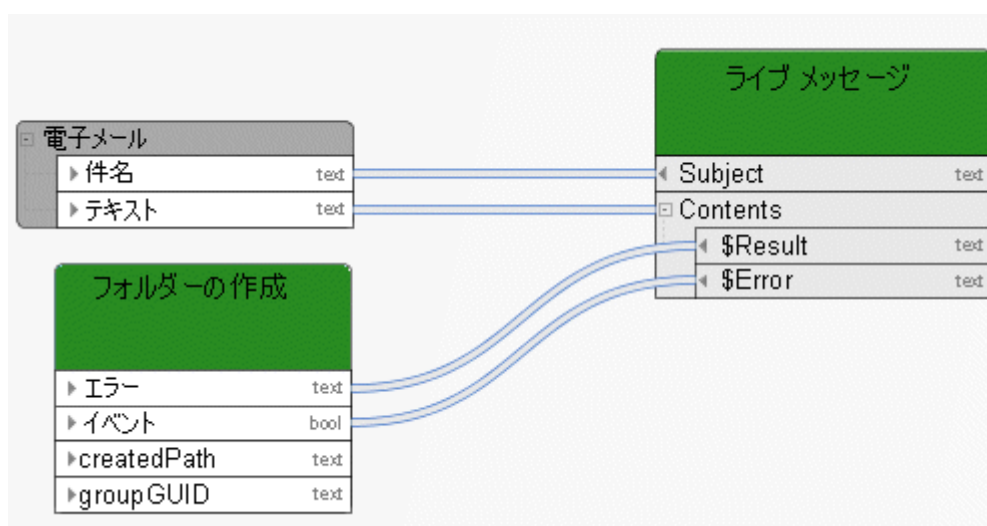


図 66: フォルダ-の作成



8 ローカル サービス

8.1 取得 - プロセス インスタンス ID

このサービスは、実行中のプロセスのプロセス インスタンスの ID を取得します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	インスタンス ID	実行中のプロセスのプロセス インスタンス ID。	<テキスト>

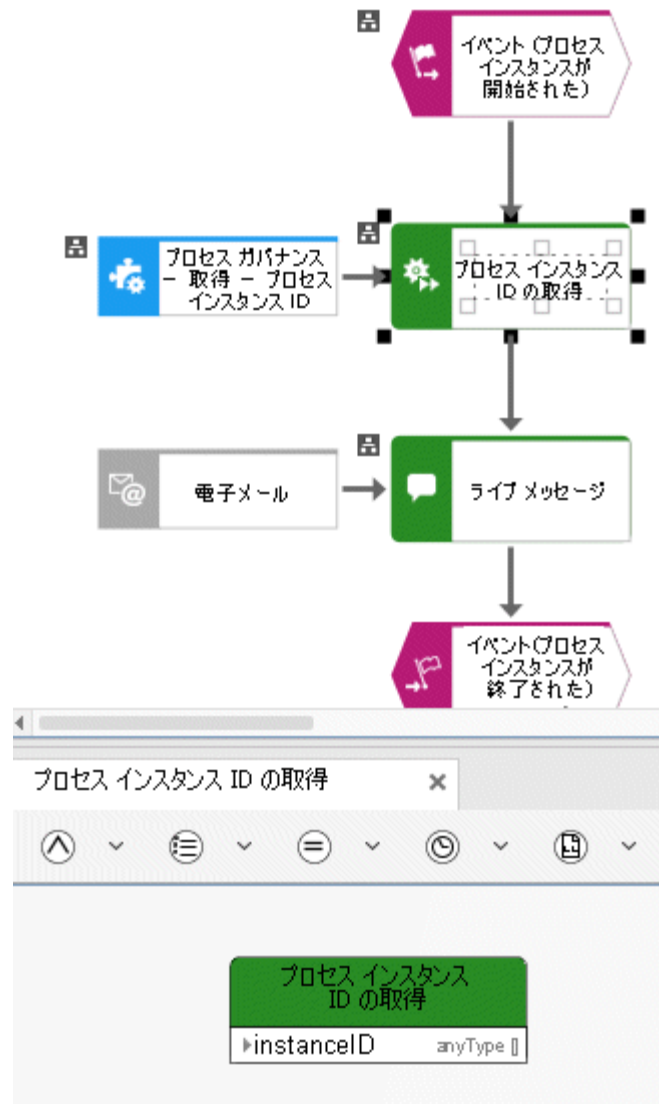


図 67: Process Governance - 取得 - プロセス インスタンス ID



8.2 獲得 - リンク (デザイン)

このサービスは、モデル リンクのリストを提供します。これらのリンクは、ARIS モデリング データベースにユーザーがアクセスするダイアログの入力データとして使用することができます。リンクされたモデルは、開いて編集することができます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	モデルが保存されているデータベースに接続してください。これを実行するには、[イベント (プロセス インスタンスが開始された)]、[手動タスク] または [自動タスク] のいずれかのタイプのオブジェクトに接続します。	<任意>
	言語	データベースのログオンに [自動タスク] タイプのオブジェクトが使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。	<任意>
	サーバー	データベースが格納されているサーバーに接続してください。これを実行するには、[イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプのオブジェクトを使用します。	<任意>
	選択したモデル	検索するモデルを選択してください。あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトから接続してください。	<任意>
	リンク リスト	すべての関連モデルにリンク リストが用意されます。これらのリンクは、ARIS モデリング データベースにユーザーがアクセスするダイアログの入力データとして使用することができます。注: ダイアログの 1 つのリンク フィールドに許可されるリンク数は 1 つのみです。このサービスは、モデルにアクセスするためのリンク設定が複数ある場合に、リンクのリストを提供します。ダイアログのデータ フローで、選択を決定する演算子を使用してすべてのリンクを個別にモデリングしてください。	<任意>

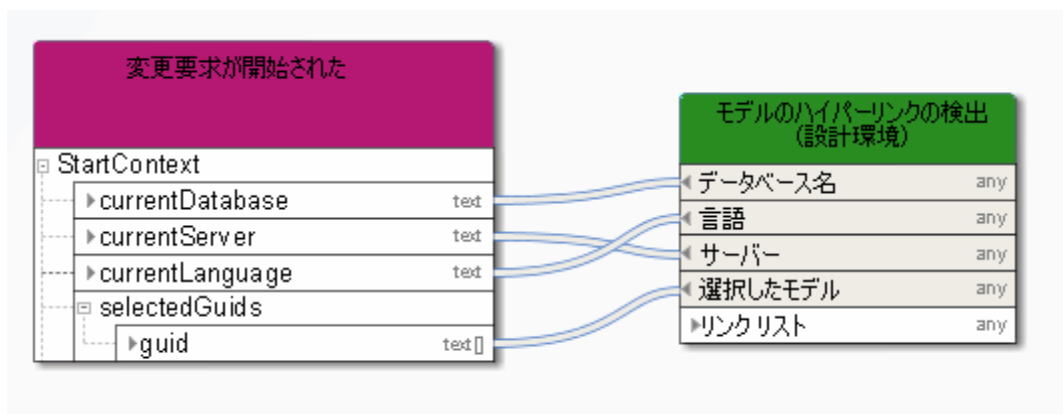


図 68: モデル リンクの出カ (デザイン)



8.3 獲得 - 番号 (最大/最小)

サービスは、所定の番号を比較し、最大または最小番号を返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	番号リスト	このサービスは、番号リストを比較します。[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトから番号に接続するか、定数を定義してください。演算子 [集合の作成] を常に使用します。	<任意>
➡	必要な選択	このサービスは、所定のリストから最大番号または最小番号を出力します。サービスが所定のリストから最大番号を返す場合は、TRUE (論理値) を入力してください。サービスが所定のリストから最小番号を返す場合は、FALSE (論理値) を入力してください。値が指定されていない場合は、FALSE (論理値) がデフォルト値として使用されます。	<任意>
⬅	結果	結果は、番号リストの最大または最小番号です。	<任意>

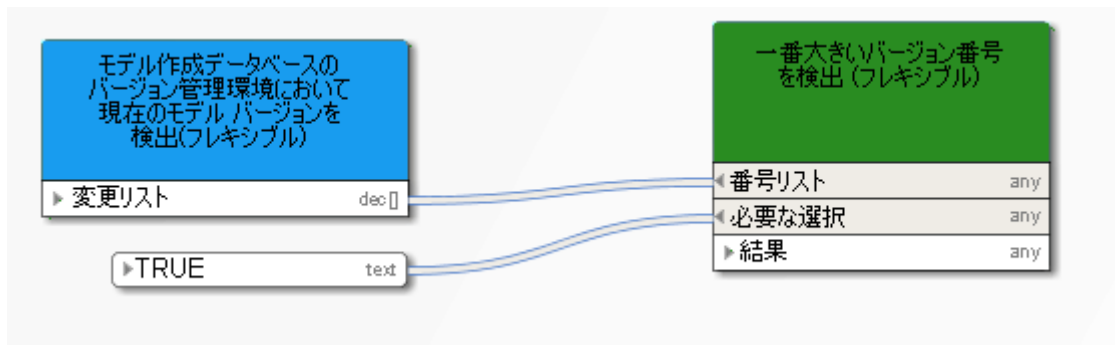





図 69: 最大/最小番号の選択



8.4 作成 - 手動タスクのログ

このサービスは、[手動タスク] タイプのファンクションを実行する際、要員がダイアログで行う入力を返します。サービスによる結果は、たとえばモデルまたはオブジェクトの [変更リスト] 属性に入力されて、詳細なドキュメンテーションを正確なものにすることができます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ダイアログ要素	[手動タスク] タイプのファンクションを繰り返しタスクとしてコピーし、コメントなどのダイアログ要素で繰り返しタスクに接続してください。複数のダイアログ要素のログには、[連結] 演算子を使用します。ダイアログ要素自身を接続する前に、たとえばダイアログ名のあるモデル定数など、接続されているダイアログ要素の入力を構成する定数を使用してください。定数には、スペースやセミコロンを区切り文字として使用することもできます。	<任意>
	実行者 ID	繰り返しタスクとしてログを取りたい [手動タスク] タイプのファンクションをコピーして、実行者の ID を含むフィールドに接続してください。ログは、各実行者ごとに出力されます。	<任意>
	結果	実行者とエントリごとに選択されたダイアログ要素に、繰り返しタスクとしてコピーされた [手動タスク] ファンクションに接続された実行者によってなされたエントリのログが出力されました。サービスによる結果は、たとえばモデルまたはオブジェクトの [変更リスト] 属性に入力されて、[手動タスク] ファンクション タイプのダイアログに指定された入力実行者の詳細なドキュメンテーションを正確なものにすることができます。	<任意>

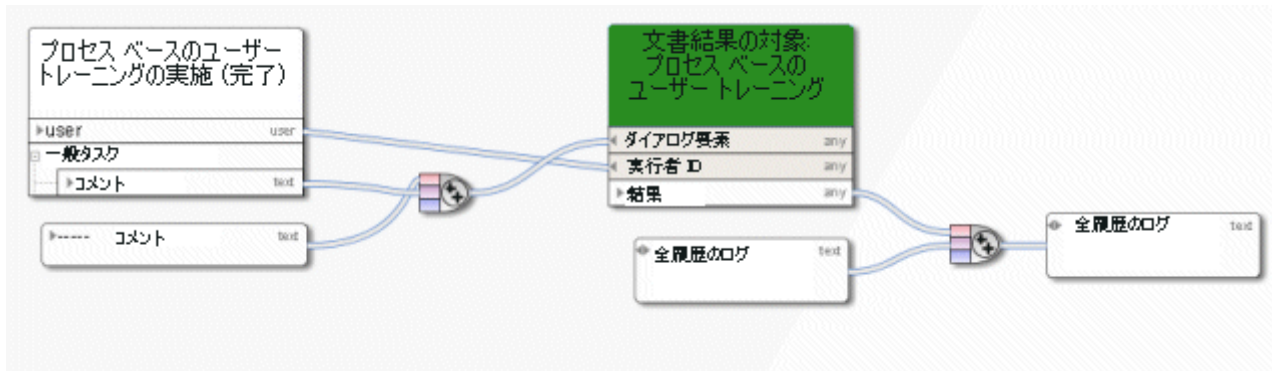





図 70: ユーザー入力のログ



8.5 作成 - 変更番号

サービスは、定義済みの値ごとにバージョン番号を増やします。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	選択した値	確認する番号リストを入力することができます（例：すべてのモデルの [バージョン番号] 属性のリスト）。これを実行するには、[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント（プロセスインスタンスが開始された）] タイプの別のオブジェクトから番号に接続するか、定数を定義してください。それから演算子 [集合の作成] を使用します。	<任意>
	増分数	増加させる定義済みの値ごとに番号を入力します。これを実行するには、[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント（プロセスインスタンスが開始された）] タイプの別のオブジェクトの番号に接続するか、[10 進数] タイプの定数を定義してください。	<任意>
	選択した値	このサービスは、変更された値のリストを返します。	<任意>

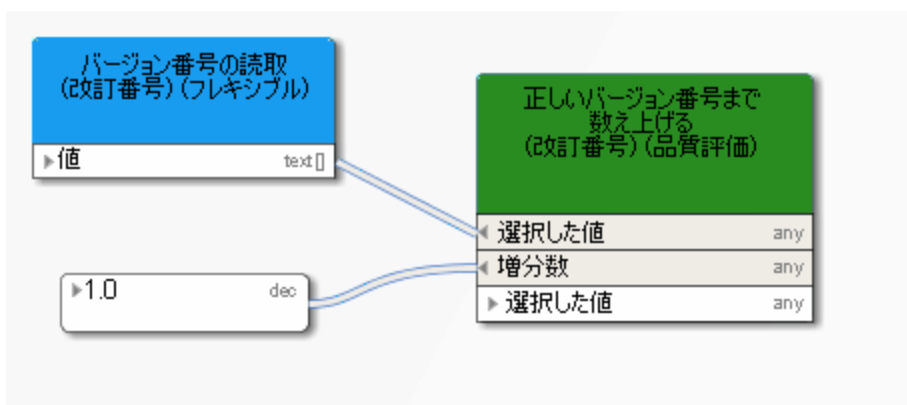


図 71: 番号の作成または変更



8.6 比較 - 論理値

論理値属性の比較。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	属性タイプ	値に TRUE または FALSE が指定されているか、あるいは値が未指定 (EMPTY) なのかを確認する論理値属性を定義してください。このためには、論理値属性を取り出すサービスの結果を、このサービスの入力データとして接続します。同じ属性について、複数アイテムを解釈できます (複数の EPC において、モデル属性 [意味論分析が正常に実行済み] など)。	<任意>
⬅	結果	このサービスは、すべてのアイテムの論理値属性に TRUE が設定されている場合は TRUE を返します。このサービスは、論理値属性が設定されていないアイテムが少なくとも 1 つある場合は、EMPTY を返します。このサービスは、すべてのアイテムの属性が指定されていて、かつ FALSE が設定されているアイテムが少なくとも 1 つある場合は、FALSE を返します。このサービスは、2 つ未満のアイテムが比較される場合も FALSE を返します。	<任意>

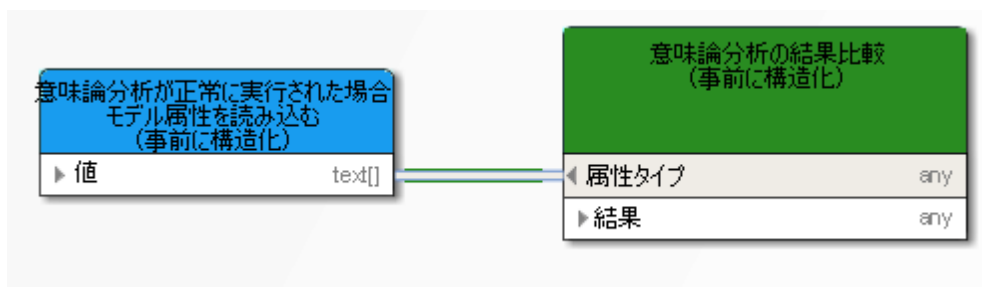


図 72: 論理値の比較



8.7 比較 - 値が空

このサービスは、事前に定義された値（属性など）が設定されているかどうかを確認します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	確認対象値	確認する値を入力します。このためには、たとえば、複数のモデルから 1 つの属性を抽出するサービスの接続などをしてください。	<任意>
	少なくとも 1 つの値が未設定	このサービスはリストで少なくとも 1 つの値が設定されていない場合、TRUE（論理値）を返します。そうでない場合、サービスは FALSE（論理値）を返します。	<任意>
	複数值が未設定	このサービスはリストに値が設定されていない場合、TRUE（論理値）を返します。そうでない場合、サービスは FALSE（論理値）を返します。	<任意>

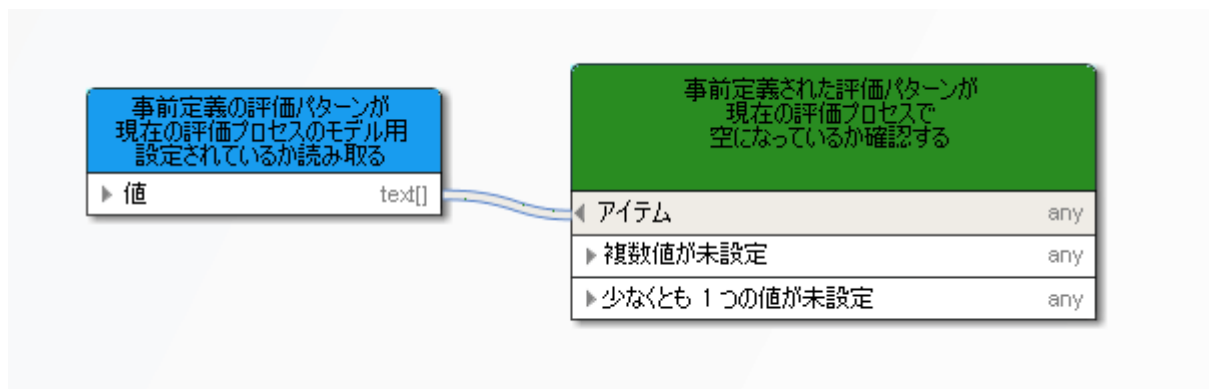


図 73: 値が設定されているかを比較



8.8 比較 - 文字列

このサービスは、複数のアイテムのテキスト属性に同じ値が設定されているかどうかを確認します。たとえば、複数のモデルの [ステータス] 属性の設定値を確認するなど。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	属性タイプ	複数アイテムで同時に値を確認するテキスト属性を指定してください。このためには、テキスト属性を取り出すサービスの結果を、このサービスの入力データとして接続します。複数アイテムが解釈されます。たとえば、EPC タイプの複数モデルのテキスト属性など。	<任意>
⬅	結果	このサービスは、すべてのアイテムのテキスト属性に同じ値が設定されている場合、TRUE を返します。たとえば、すべての [モデル ステータス] 属性に [リリース済] が設定されている場合などです。このサービスは、異なる値が少なくとも 1 つのアイテムで見つかった場合、FALSE を返します。たとえば、モデル 1 の [モデル ステータス] 属性に [リリース済] が設定されているが、モデル 2 には [拒否] が設定されている場合などです。	<任意>








図 74: テキスト属性 (文字列) の比較



8.9 比較 - 時間属性

このサービスは、モデルまたはオブジェクトの 2 つの時間属性を比較し、いずれかのタイムスタンプがもう片方よりも最近かどうかを確認します。さらに、より新しい時間属性を持つモデルまたはオブジェクトをリストにします。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	時間属性 (旧)	より以前となる属性値を定義してください。これを実行するには、必要な時間属性を取得した [自動タスク] オブジェクトの出力データを接続します。例: 定義済みモデルの [更新日時] 属性。	<任意>
	時間属性 (新)	より最近となる属性値を定義してください。これを実行するには、必要な時間属性を取得した [自動タスク] オブジェクトの出力データを接続します。例: 定義済みモデルで意味論分析が実行された時間。	<任意>
	選択したアイテム	検索するモデルまたはオブジェクトを選択してください。これを実行するには、あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<任意>
	TRUE と EMPTY のアイテム リスト	このサービスは、次の確認基準のいずれかに合致するすべてのモデルまたはオブジェクトをリストにします: [時間属性 (新)] が [時間属性 (旧)] よりも最近の場合、あるいは [時間属性 (新)] が設定されていない場合。	<任意>
	結果	このサービスは、[時間属性(新)] が [時間属性(旧)] よりも最近であるモデルまたはオブジェクトが、比較対象で少なくとも 1 つある場合は、TRUE (論理値) を返します。このサービスは、[時間属性 (新)] が指定されていないモデルまたはオブジェクトが、比較対象で少なくとも 1 つある場合は、EMPTY を返します。そうでない場合、サービスは FALSE (論理値) を返します。	<任意>

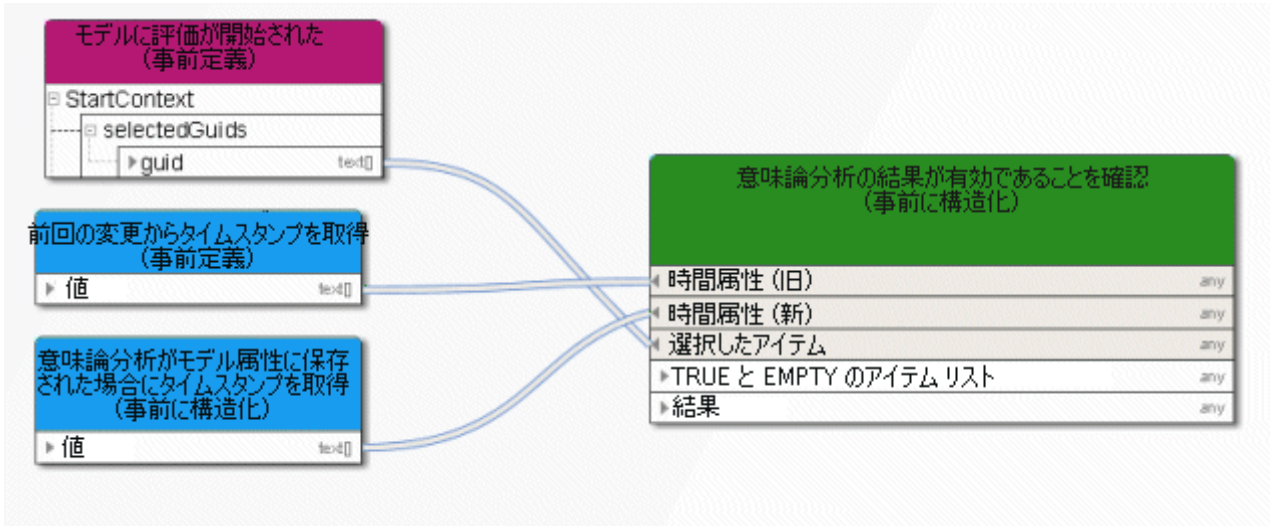


図 75: 時間属性の比較

8.10 比較 - 未来のタイムスタンプ

このサービスは、現在のタイムスタンプと指定されたタイムスタンプを比較します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➡	比較するタイムスタンプ	[手動タスク] または [自動タスク] タイプの別のオブジェクトのタイムスタンプを接続してください。このタイムスタンプは、現在のタイムスタンプと比較されます。	<任意>
⬅	結果	このサービスは、確認したタイムスタンプが未来である場合に、TRUE を返します。そうでなければ、FALSE を返します。	<任意>

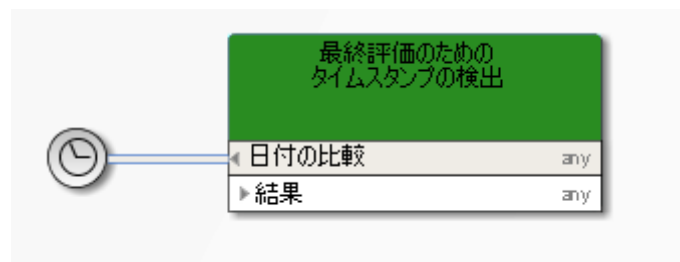


図 76: 未来日付の確認



9 データ フロー内の演算子

9.1 数値演算子

9.1.1 追加

	数またはタイム スパンを持つ日付の加算です (例: 5 月 11 日に 10 日を加算すると、5 月 21 日になります)。
--	--

次の組み合わせが可能です。

最初のスロット	2 番目のスロット	結果
日付	期間	日付
日付と時刻	期間	日付と時刻

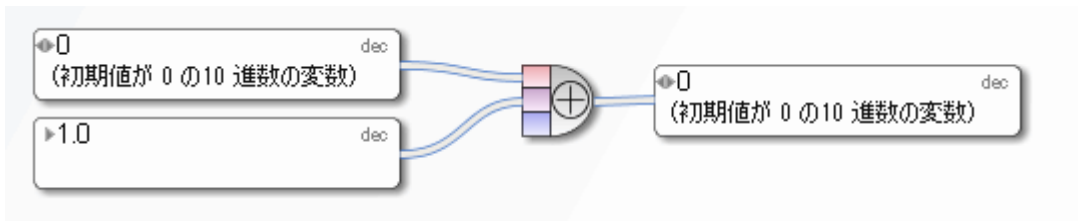


図 77: 追加

9.1.2 減算

	期間から数または日付を減算します。2 番目のエントリが、1 番目のエントリから差し引かれます。例: 5 月 11 日から 10 日を減算すると、5 月 1 日になります。
--	---

次の組み合わせが可能です。

最初のスロット	2 番目のスロット	結果
日付	日付	期間
日付	期間	日付
日付と時刻	期間	日付と時刻
日付と時刻	日付と時刻	期間

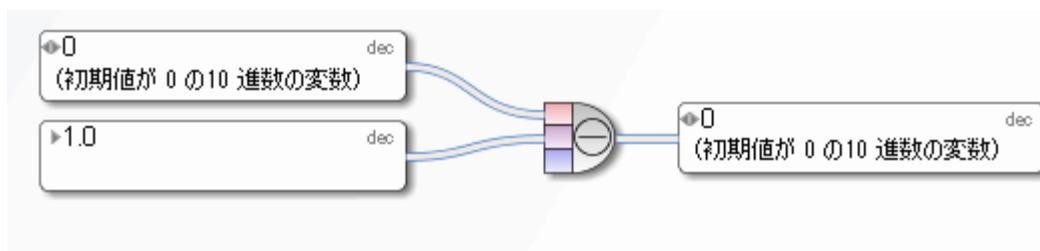


図 78: 減算

9.1.3 乗算

	数の乗算
--	------

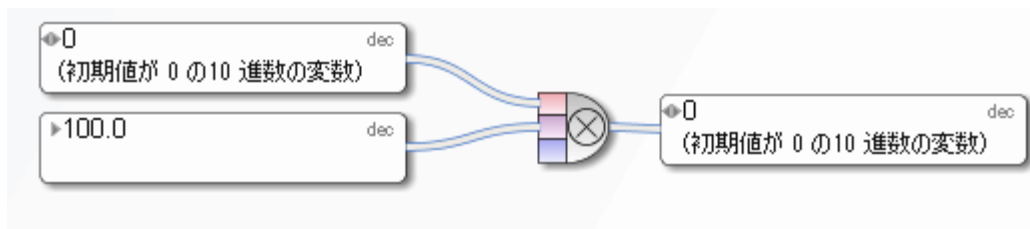


図 79: 乗算

9.1.4 除算

	数の除算
--	------

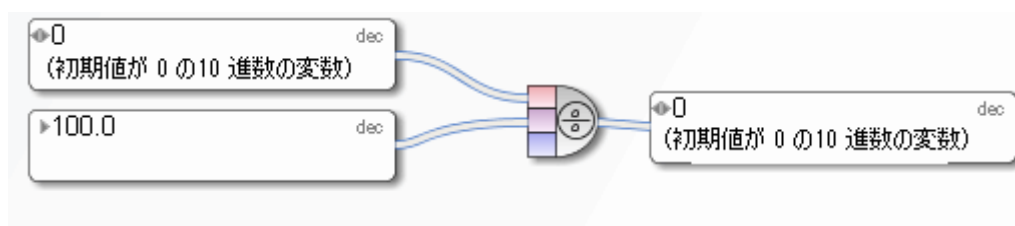



図 80: 除算



9.2 比較演算子

9.2.1 等しい

 両方の入力オブジェクトが等しい場合、数値演算子 [等しい] は TRUE を返します。

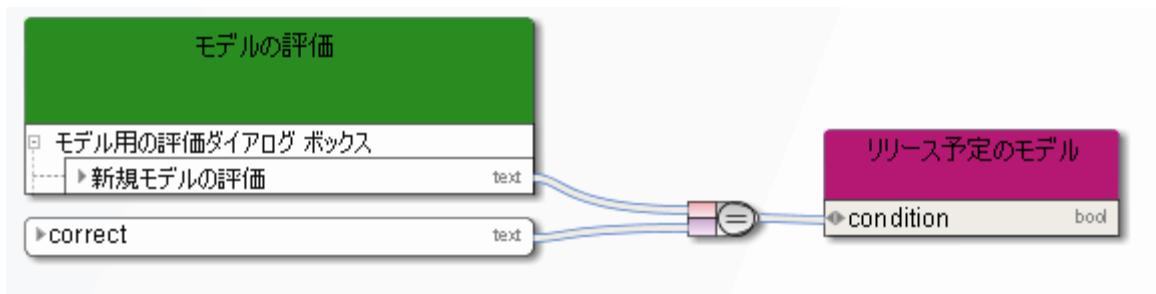



図 81: 等しい

9.2.2 等しくない

 両方の入力オブジェクトが等しくない場合、数値演算子 [等しくない] は TRUE を返します。

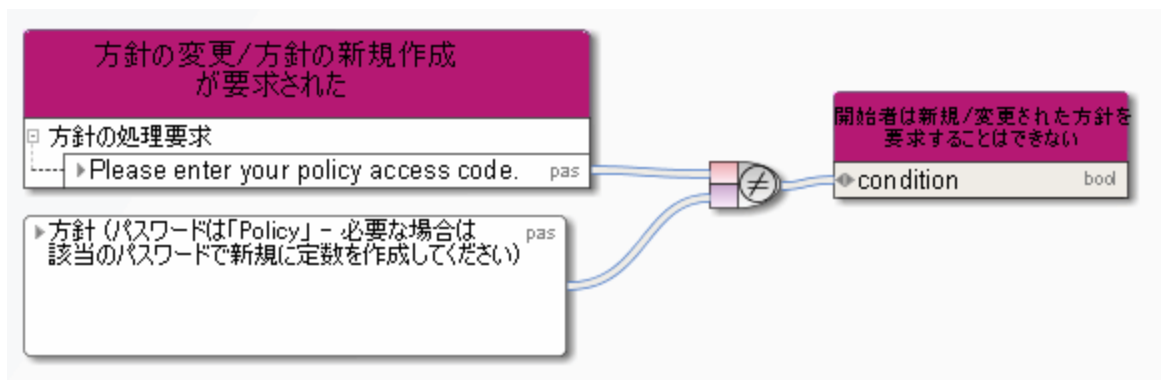


図 82: 等しくない



9.2.3 より大きい

 数値演算子 [より大きい]

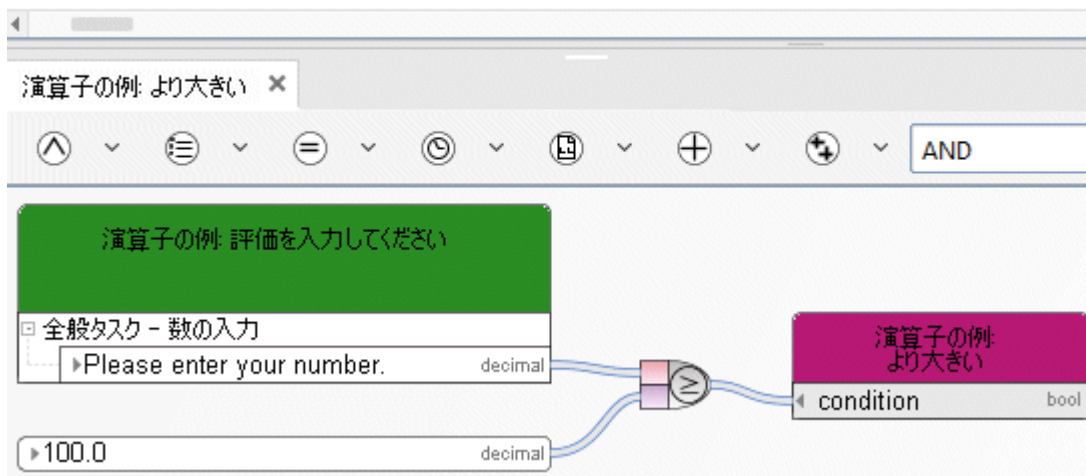
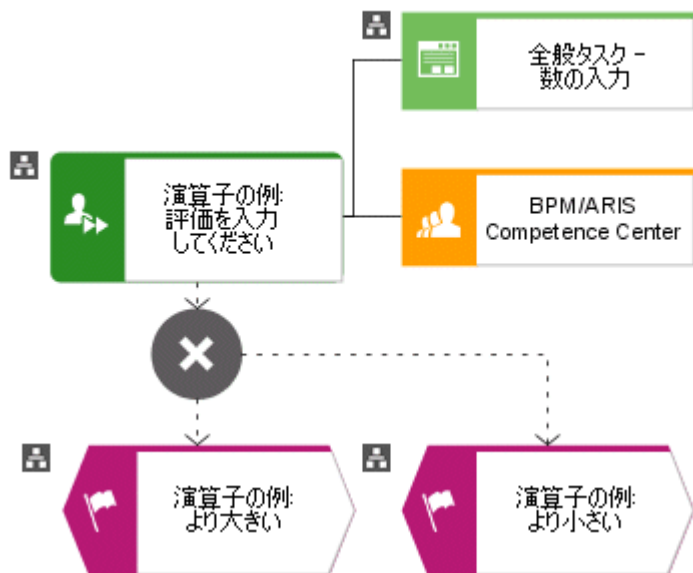



図 83: より大きい



9.2.4 以上

 数値演算子 [以上]

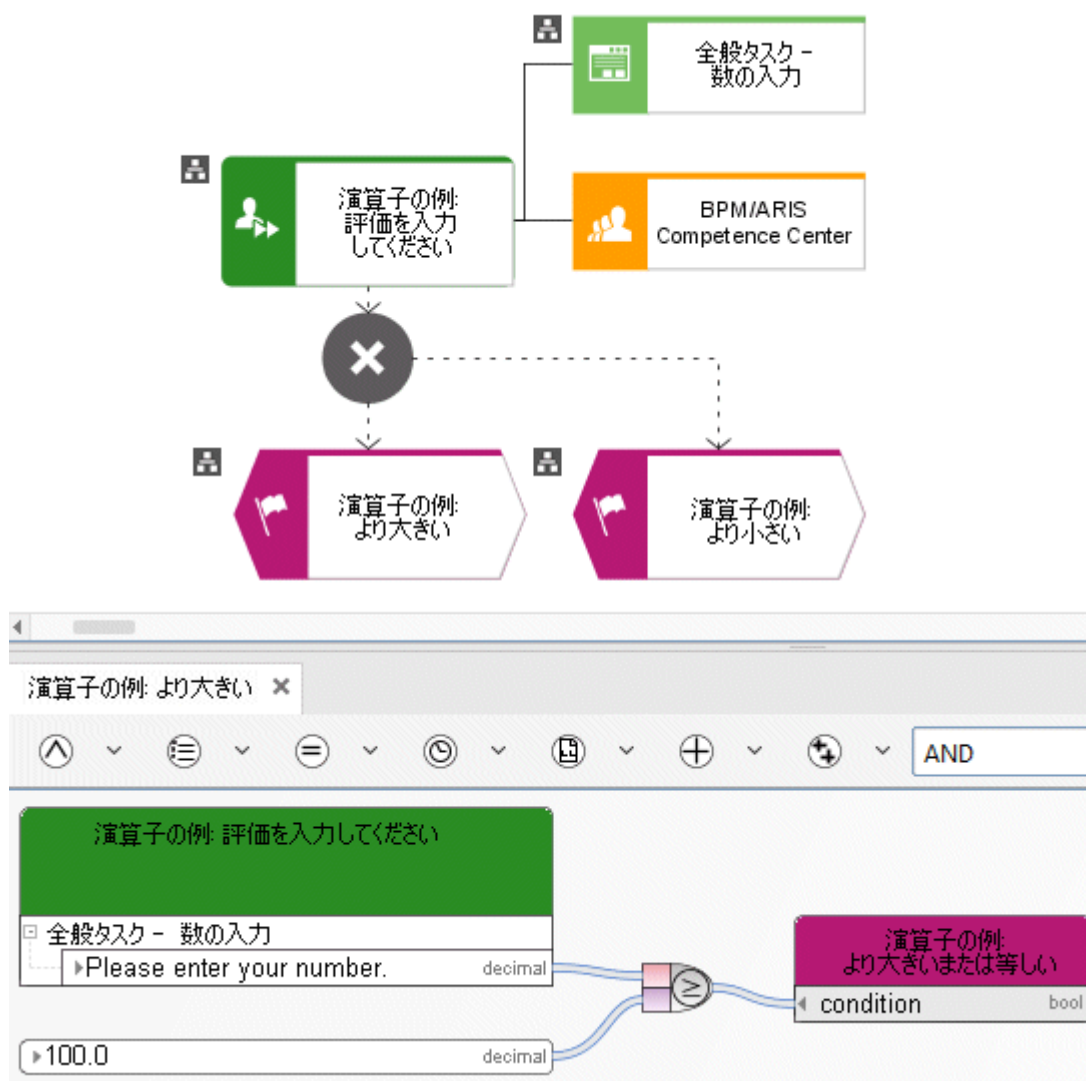


図 84: 以上



9.2.5 より小さい

<
数値演算子 [より小さい]

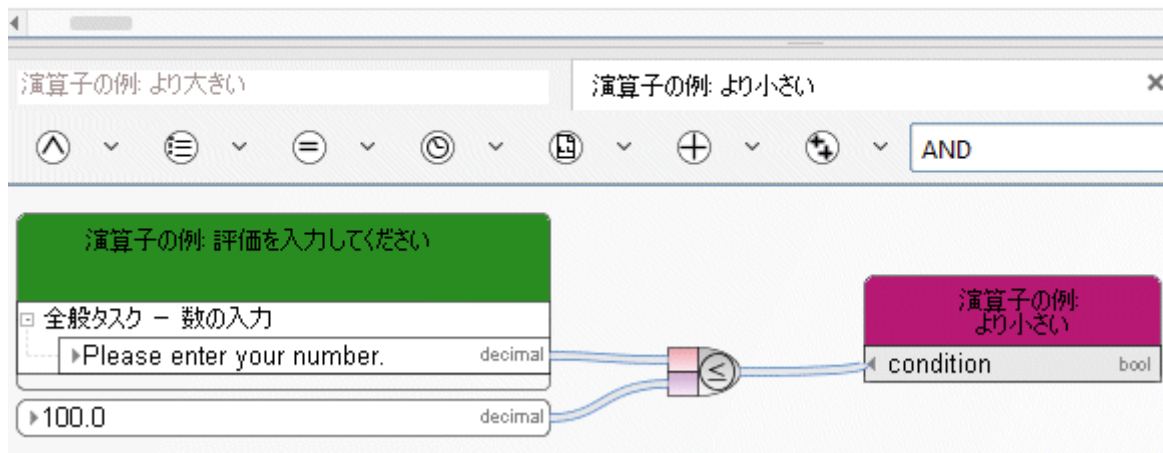
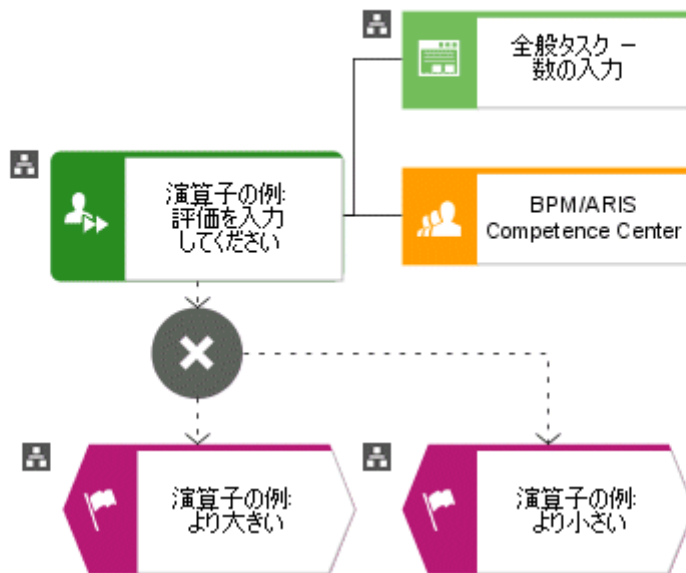


図 85: より小さい



9.2.6 以下

	数値演算子 [以下]
--	------------

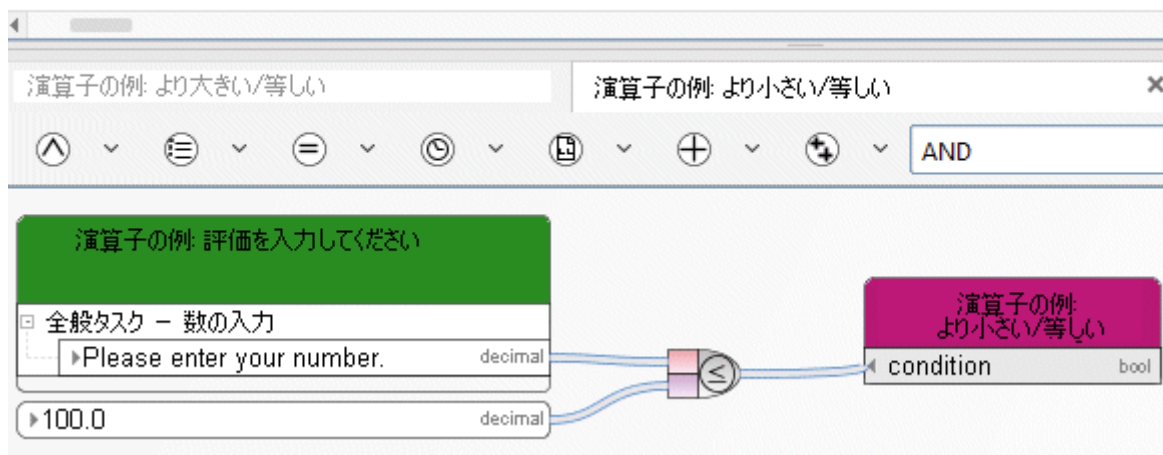
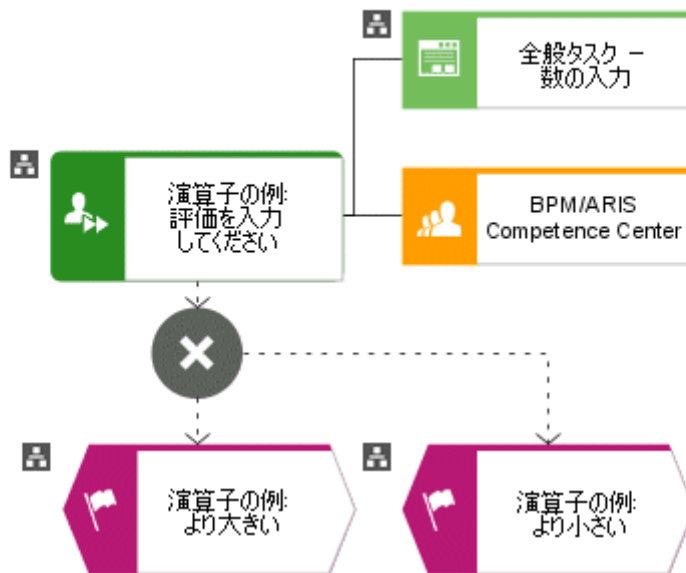


図 86: 以下



9.3 論理演算子

9.3.1 AND 演算子



演算子 [AND] は論理演算子であり、プロセス インスタンスにすべての入力オブジェクトが存在するという条件を表します。

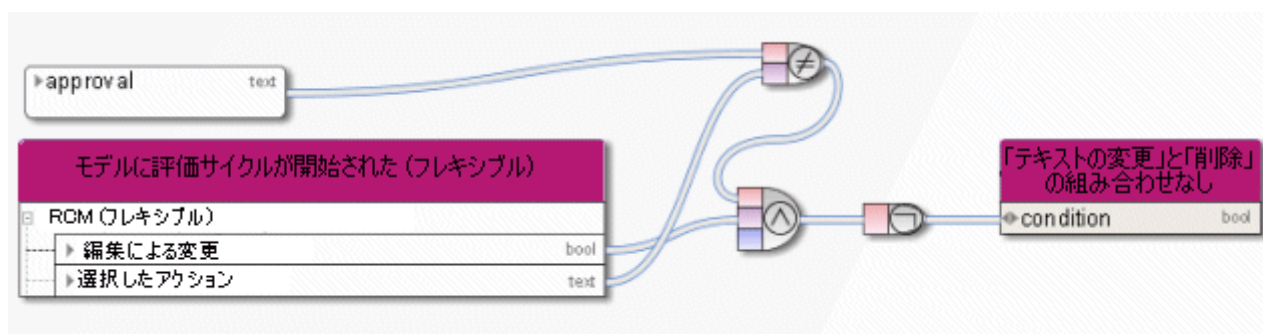


図 87: AND

9.3.2 OR 演算子



演算子 [OR] は論理演算子であり、プロセス インスタンスに 1 つ以上の入力オブジェクトが存在するという条件を表します。

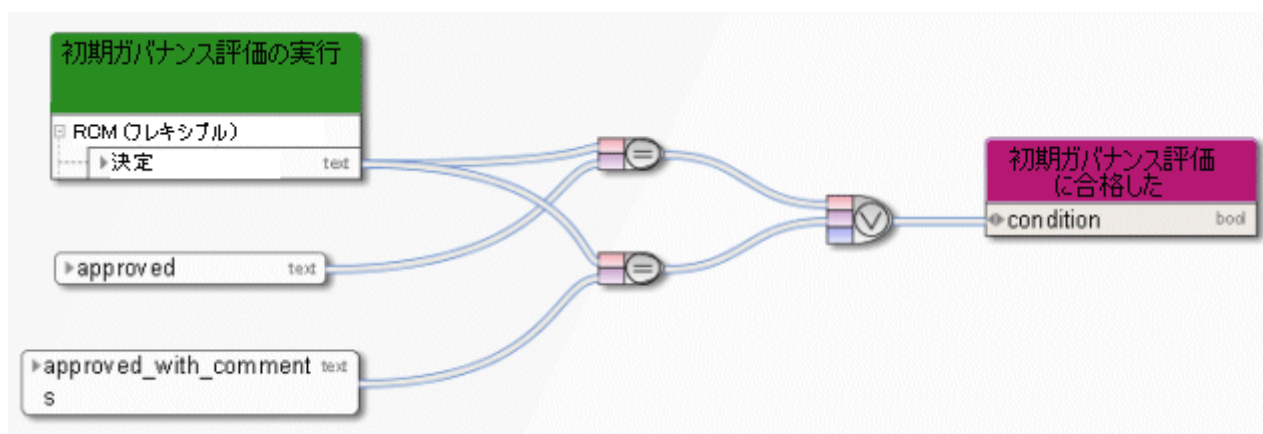


図 88: OR



9.3.3 NOT 演算子



[NOT] 演算子は、論理演算子です。この演算子は、論理変数の値を反転します。グラフィックでは、入力オブジェクトは変数 [一時ファイル作成] になります。したがって、この演算子は、一時ファイルが削除されないという条件を満たしているかどうかを指定します。

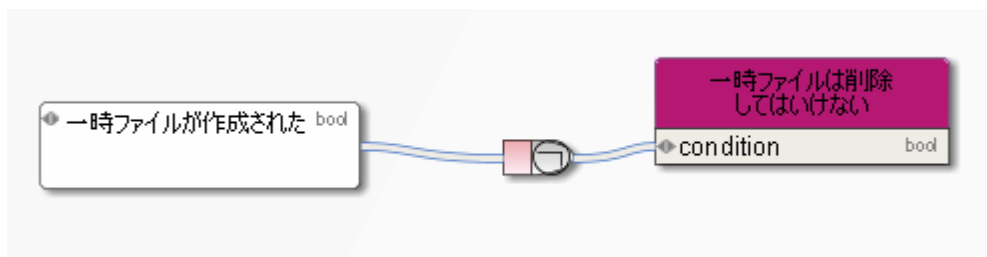


図 89: NOT



9.4 集合の演算子について

9.4.1 ID によりアイテムを選択

1

特定の ID を持つ一覧アイテムを返します。この演算子に必要な最初のパラメーターは、アイテムを選択する一覧です。演算子の 2 番目のパラメーターは、必要なアイテムの ID (キー) です。

対応する属性は、API 名を使用して一覧から選択されます。

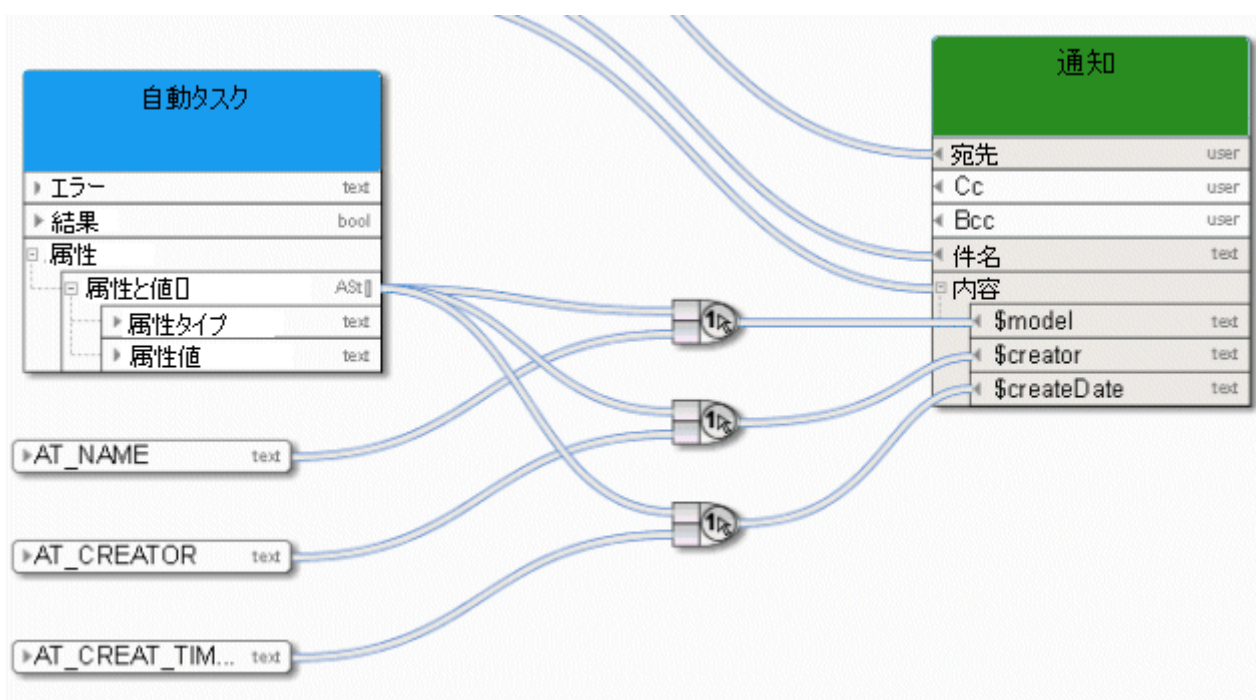



図 90: ID によりアイテムを選択



9.4.2 位置によるアイテムの選択


 転送された整数インデックス値にしたがって、インデックス付きの一覧（集合）からアイテムを返します。1 番目のパラメーターは集合で、2 番目のパラメーターはインデックスです。
 ここで、このサービスは、その後の処理のために 1 番目のアイテムが選択されたリンクの一覧を提供します。

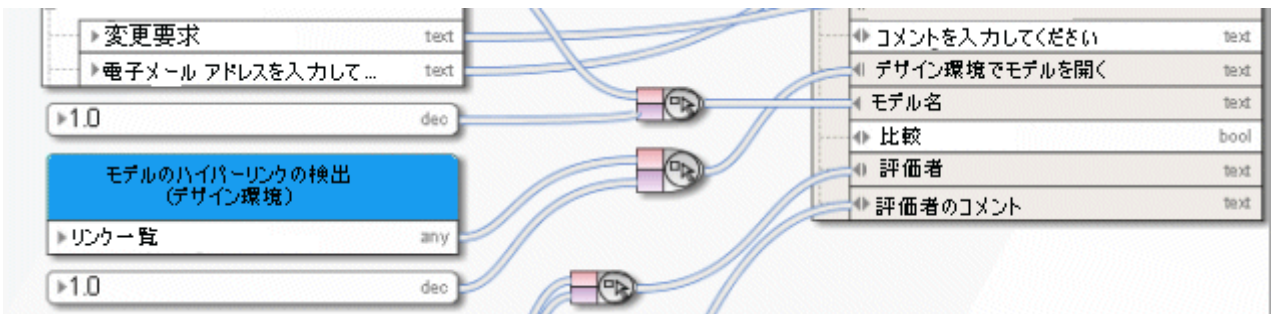



図 91: 位置によるアイテムの選択

9.4.3 集合の作成


 同じタイプのオブジェクトで構成される集合（一覧、データ系列）を作成します。この演算子は、ここで、サービスによってさらに処理される属性タイプの一覧を定義するために使用します。

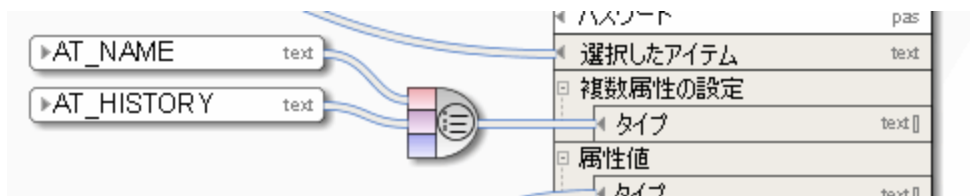



図 92: 集合の作成



9.4.4 集合サイズの検出

 同じタイプのオブジェクト集合（一覧、一連のデータ）のアイテム数を検出して、整数で出力します。

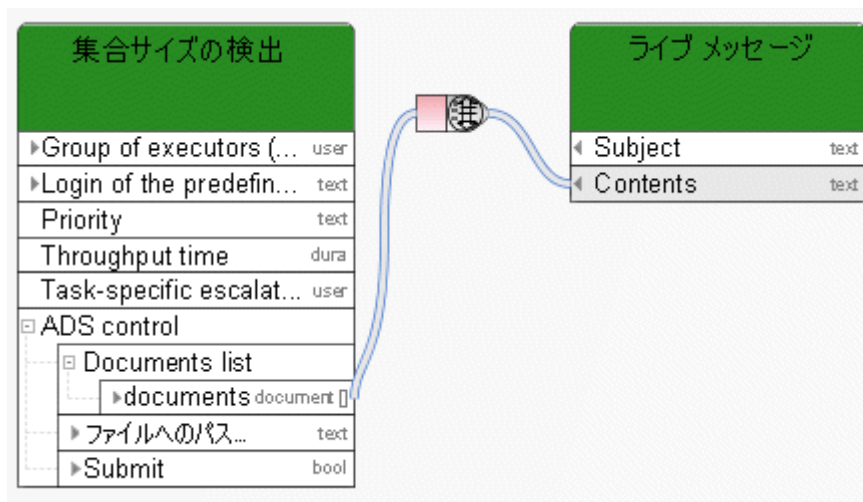



図 93: 集合サイズの検出

9.4.5 集合の交差を作成

 2 つの一覧の交差部分を検出します。たとえば、一方の一覧に数値 10、113、127 が含まれ、もう一方の一覧に数値 1 と 127 が含まれる場合、この演算子は数値 127 を返します。この演算子は、すべてのデータ型の一覧に使用できます。

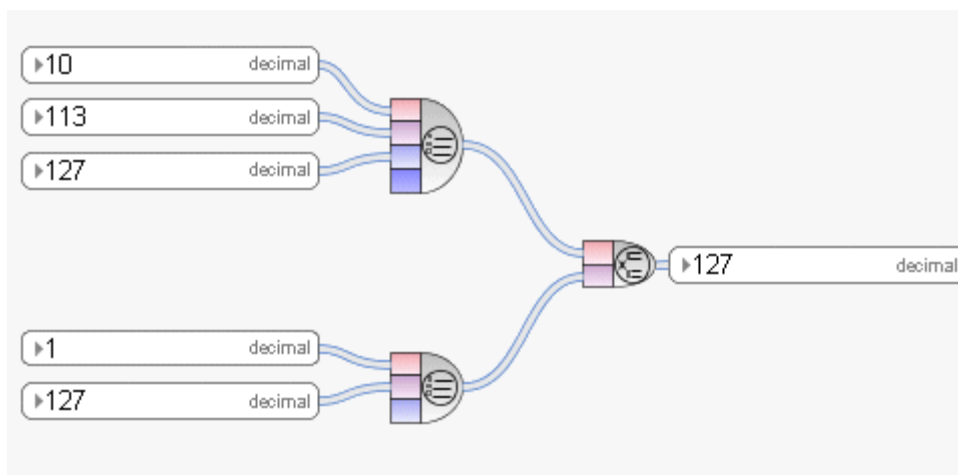


図 94: 集合の交差を作成



9.4.6 行の書式設定

新しい文字列を集合から作成します。文字列には、元の順序を保ち、カンマで区切られた状態で集合のすべてのオブジェクトが含まれます。

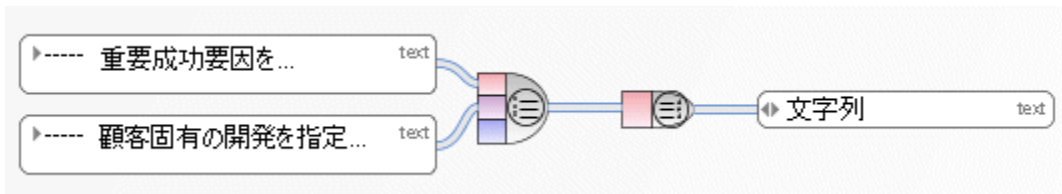


図 95: 集合を文字列に変換

9.4.7 集合の妥当性確認

この演算子は、集合の妥当性を確認します。

集合が検証されて、有効かどうかを確認されます。

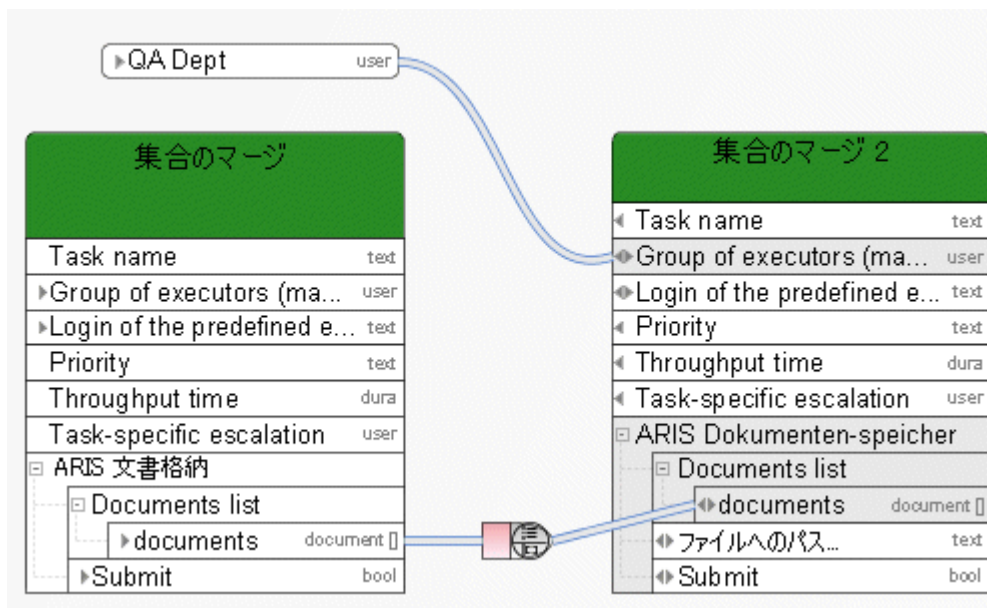


図 96: 集合の妥当性確認



9.4.8 集合のマージ



同じタイプのオブジェクトの 2 つの個別の集合から、同じタイプのオブジェクトの新しい集合（一覧、一連のデータ）を作成します。新しい集合には、元の順序を保った状態で、すべてのオブジェクトが含まれます。最初の集合のオブジェクトが先に来ます。

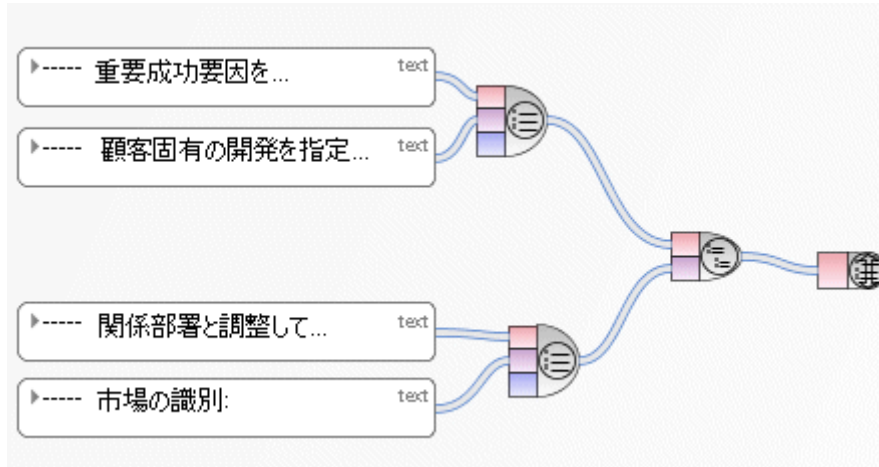


図 97: 集合のマージ

9.5 文書用の演算子について

9.5.1 パスによる文書の取得



この演算子を使用すると、物理的なパス名によって、ARIS 文書格納に保管されている文書にアクセスすることができます。これを実行するには、必要な権限を持つユーザーが管理で作成されている必要があります。[文字列の集合] タイプの定数が ARIS 文書格納の文書の場所を含む入力データとして使用され、出力データは [文書の集合] タイプになります。

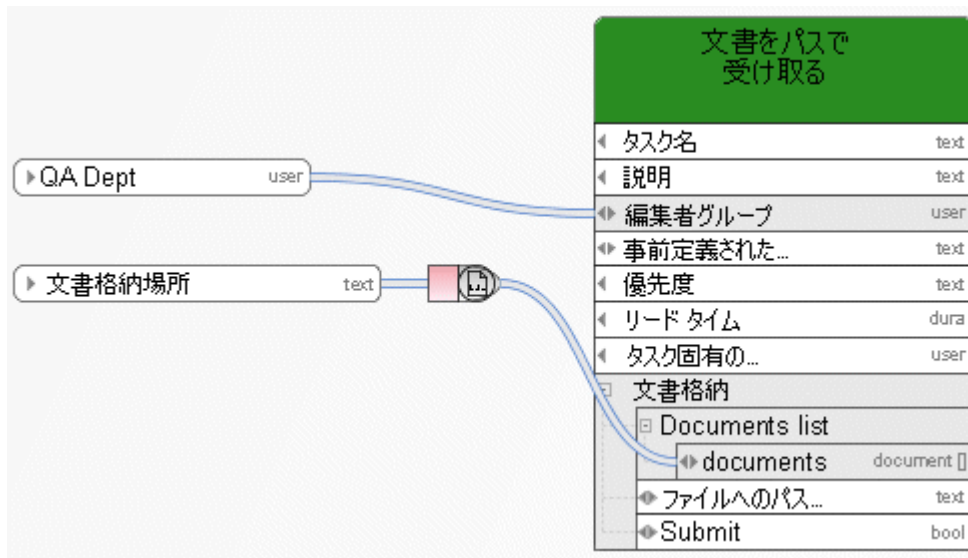


図 98: パスによる文書の取得

9.5.2 文書メタデータの取得



ファイル名、タイトル、バージョン番号などの [文書メタデータ] タイプの定数が配置できるすべてのメタデータが検出されます。

文書を指定するには、演算子の最初のスロットに接続線を引きます。そして、別の接続線を 2 番目のスロットに引いて、文書メタデータの対応するフィールドを指定します。

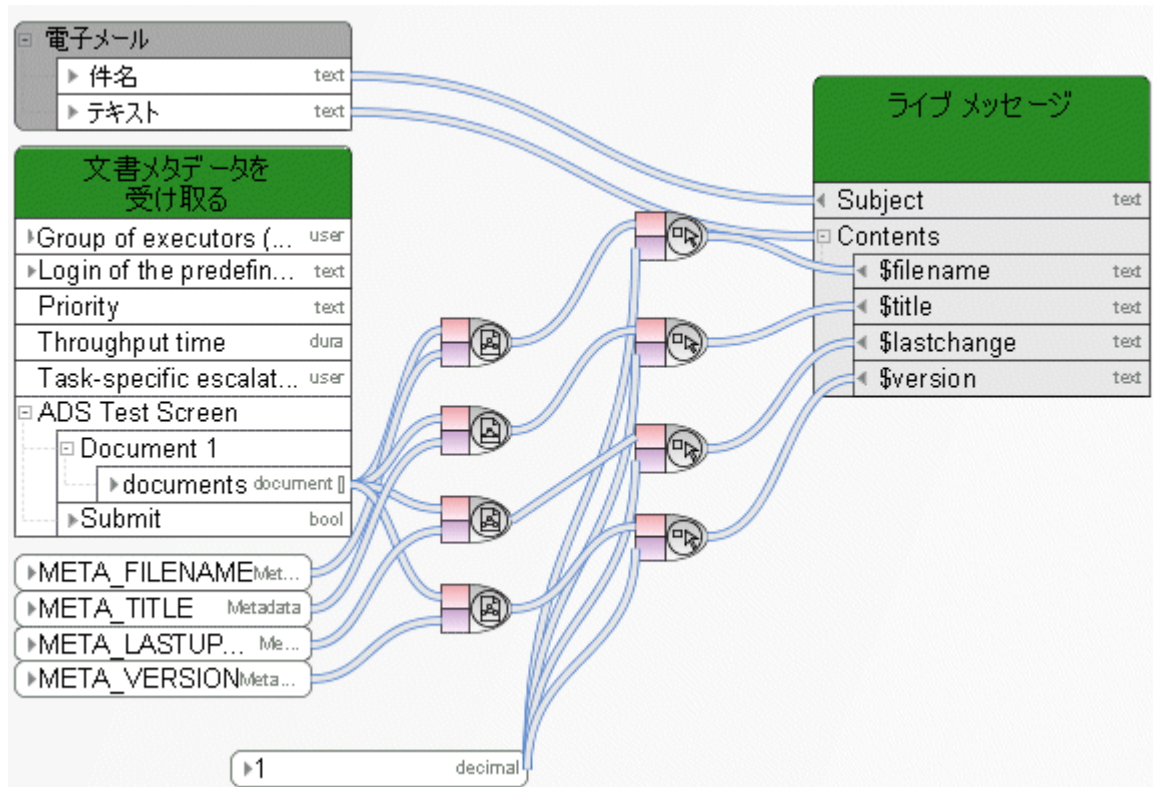



図 99: 文書メタデータの取得

9.5.3 文書のフィルター

 ARIS 文書格納では文書にタグを付けることができます。この演算子を使用すると、文書の一覧を名前、バージョン、タグでフィルターできます。

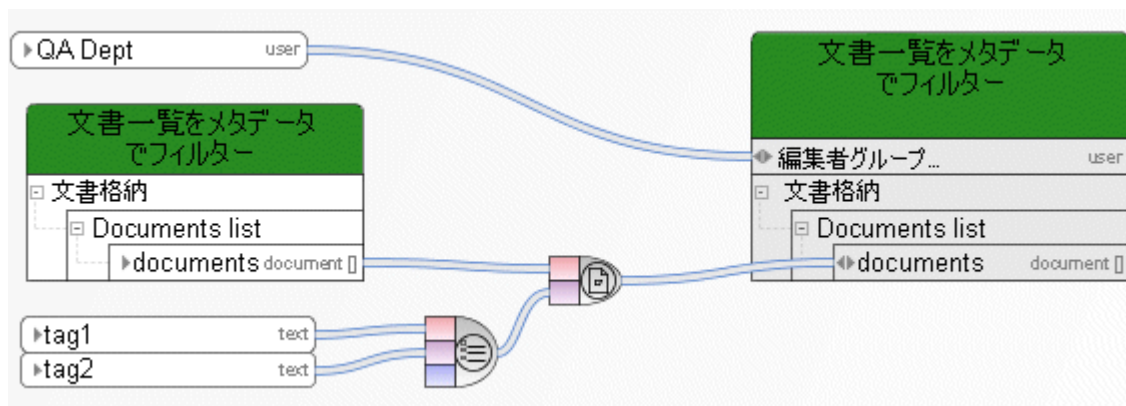



図 100: 文書のフィルター



9.5.4 文書に HTTP リンクを作成

 ARIS 文書格納に保存された文書や文書の一覧に HTTP リンクを作成します。入力データは文書の一覧で、出力データはハイパーリンクの一覧です。

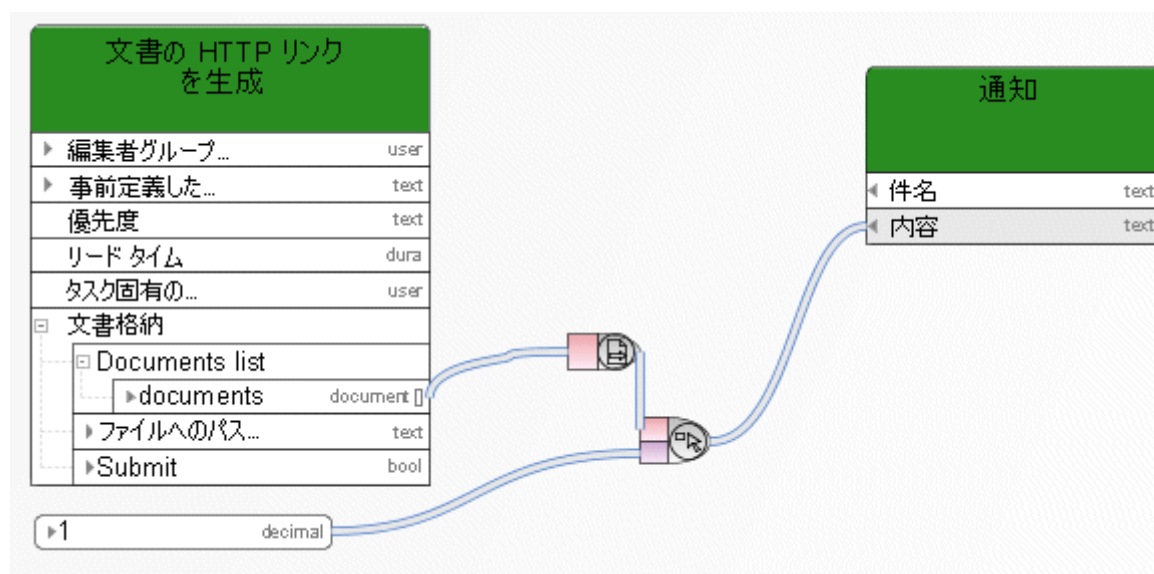


図 101: 文書に HTTP リンクを作成



9.6 データ要素

9.6.1 プロセス ボードへのパス



この演算子により、プロセス ボードへのパスが返されます。

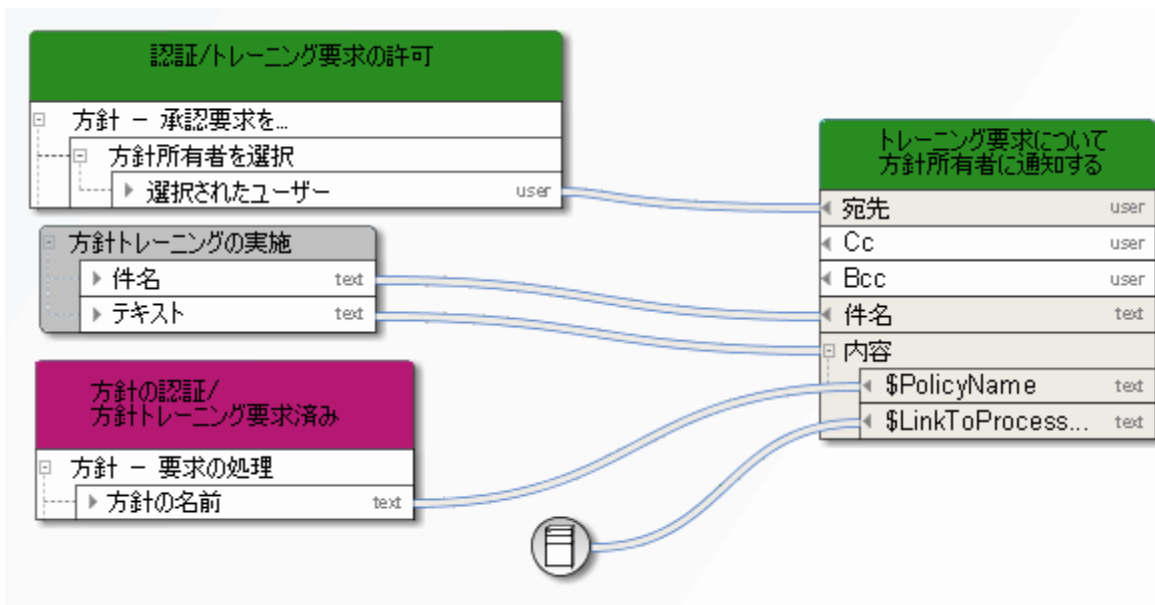


図 102: プロセス ボードへのパス

9.6.2 タイムスタンプの取得



この演算子により、サーバーの現在のタイムスタンプが UTC の時間として返されます (日付 - 時間)。

Coordinated **U**niversal **T**ime は、協定世界時を意味します。

時間数を加算することで、UTC 時間から CET (Central European Time) を計算できます。CEST (Central European Summer Time) を計算するには、2 時間を加算する必要があります。

[タイムスタンプまたは日付を可読テキストに変換] 『150ページ』 演算子は、UTC 時間をお使いのタイムゾーンに対応する時間に変換します。

注意: サーバーのタイプスタンプはクライアントのタイムスタンプと異なる場合があります。

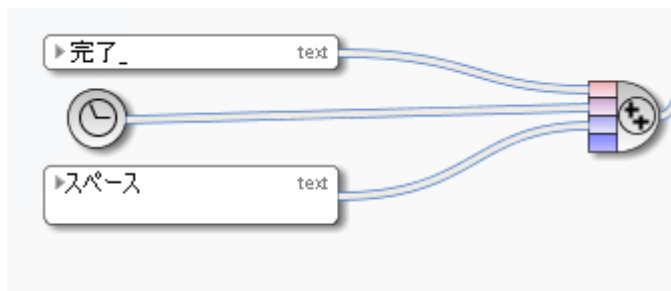


図 103: タイムスタンプの取得

9.7 その他の演算子

9.7.1 管理に存在するか確認



演算子は、ユーザーまたはグループが管理に存在するかどうかを確認します。

入力データは、ユーザーまたはユーザー グループを表すスカラー値です。

ユーザーまたはユーザー グループが管理に存在する場合、演算子は「TRUE」を返します。その他の場合は、「FALSE」が返されます。

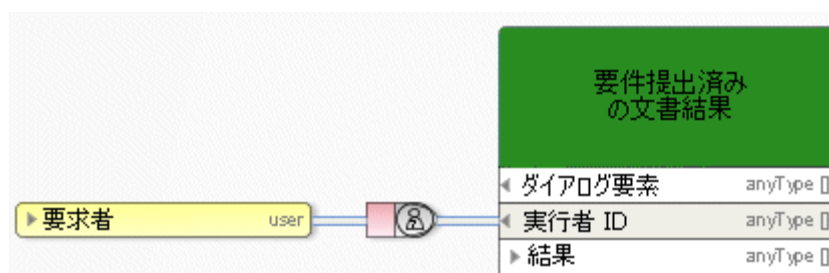



図 104: 管理に存在するか確認



9.7.2 電子メール/ログオン名でユーザーを検出

 この演算子は、特定の名前、ユーザー名、または電子メール アドレス (peter.smith@company.com のような、テキスト タイプの標準 SMTP 電子メール アドレス) を持つユーザーを検出します。

データは、ユーザー名 (要員)、電子メール アドレス (要員)、名前 (ロール)、名前 (組織ユニット) の順に検索されます。

この入力データが不明な場合は、演算子によって新しいユーザーが作成されます。演算子の出力はこのユーザーのリファレンスであり、[通知] (宛先、cc、bcc) または [手動タスク] (実行者グループ) タイプのタスクの入力として使用できます。

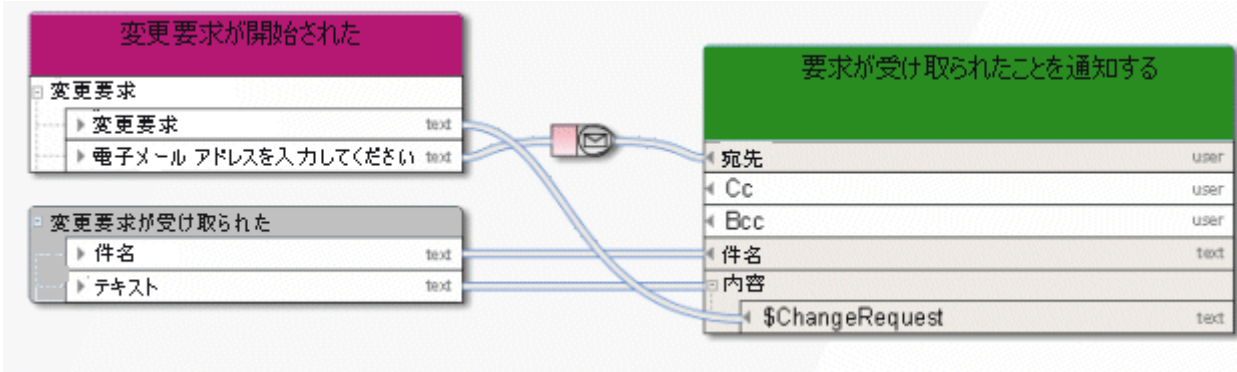



図 105: 電子メール/ログオン名でユーザーを検出

9.7.3 コミットされたリソースを取得

 この演算子は、入力として自動化に関連する組織要素 (ロールなど) を受け入れ、これらの組織要素に属しておりワークフローに参加したユーザーを返します。

例: [モデル作成者] ロールは 5 人のメンバーで構成されており、これらのメンバーのうち、このロールに割り当てられている [手動タスク] のすべてを処理したのが 1 人だけの場合などです。このため、このユーザーは、演算子 [コミットされたリソースを取得] の唯一の出力になります。

この演算子は、通知ファンクションのデータ フローが作成され、接続された組織要素に [関係者のみに通知] 属性 (接続線タイプ [結果を通知される必要がある]) が設定されているときに、自動的に作成されます。

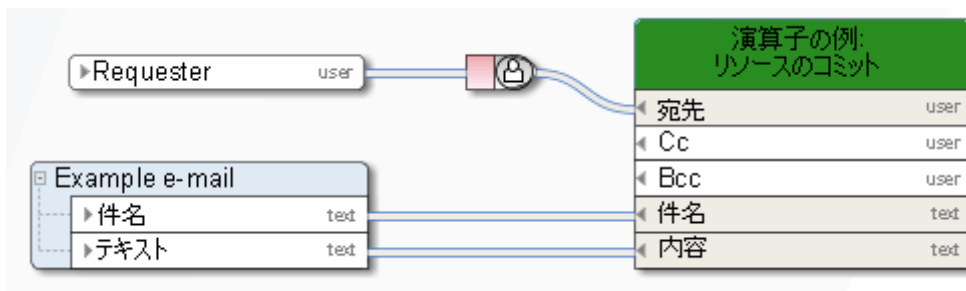


図 106: コミットされたリソースを取得

9.7.4 参加者名の取得



この演算子は、実行者の技術表現を名前に変換します。

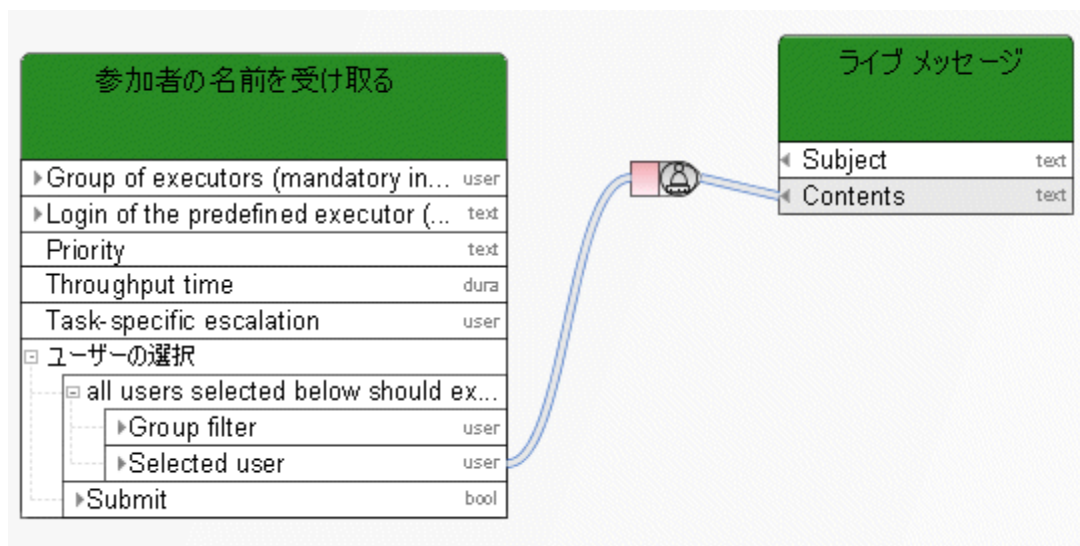


図 107: 参加者名の取得



9.7.5 連結



値のテキスト連結。ここでは、[自動タスク] タイプの結果と変数 [全履歴のログ] の値の連結です。

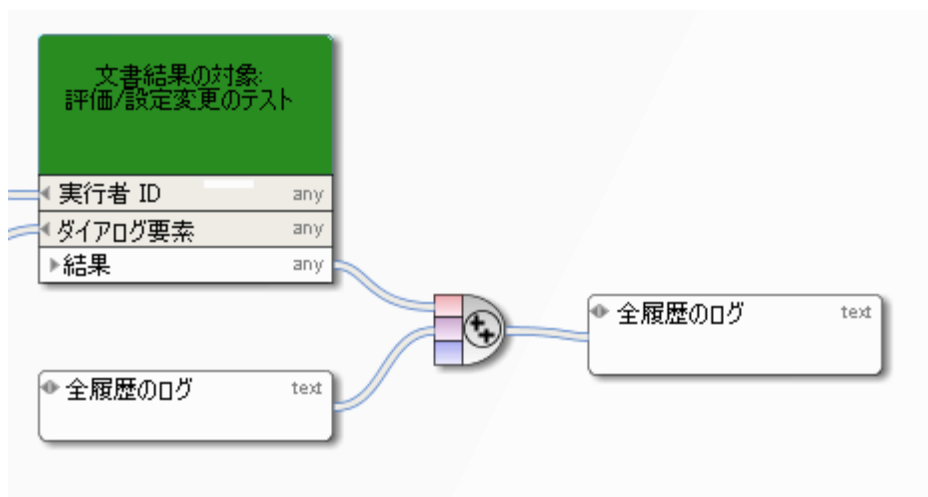


図 108: 連結



9.7.6 タイムスタンプまたは日付を可読テキストに変換



この演算子は、Base64 でエンコードされたタイムスタンプや日付を可読文字列に変換します。

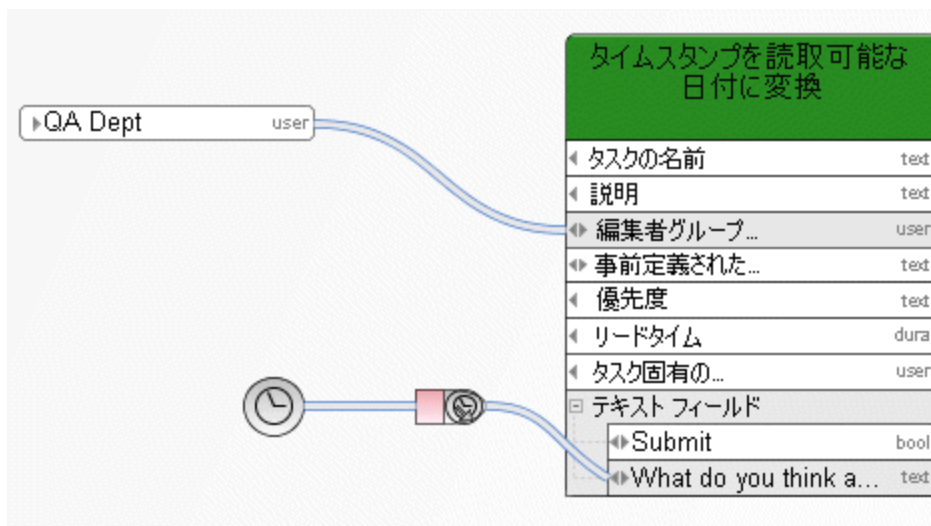


図 109: タイムスタンプまたは日付を可読テキストに変換



9.7.7 XOR 演算子

XOR 排他 OR (XOR): 最初に利用できる入力を使用します
 データベース名は、[手動タスク] (優先度 1) か、(これが返す値がない場合) [自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] によって決定されます。

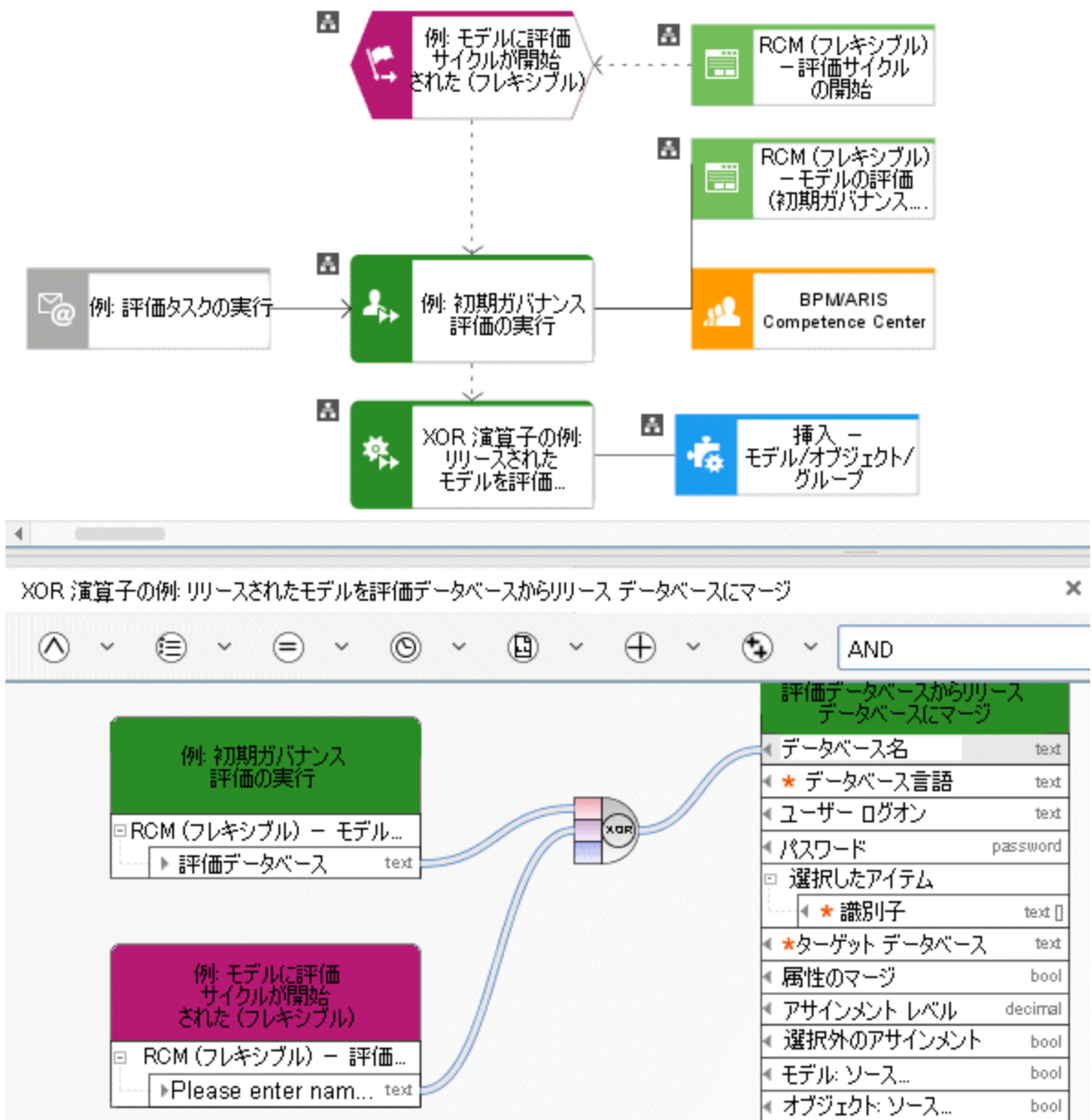


図 110: XOR



9.7.8 時間の計算



この演算子は、開始日と期間に基づいて終了日を計算します。

[タイマー イベント] は、プロセス インスタンスがこのイベントに到達した時点から 18 時間遅れます。

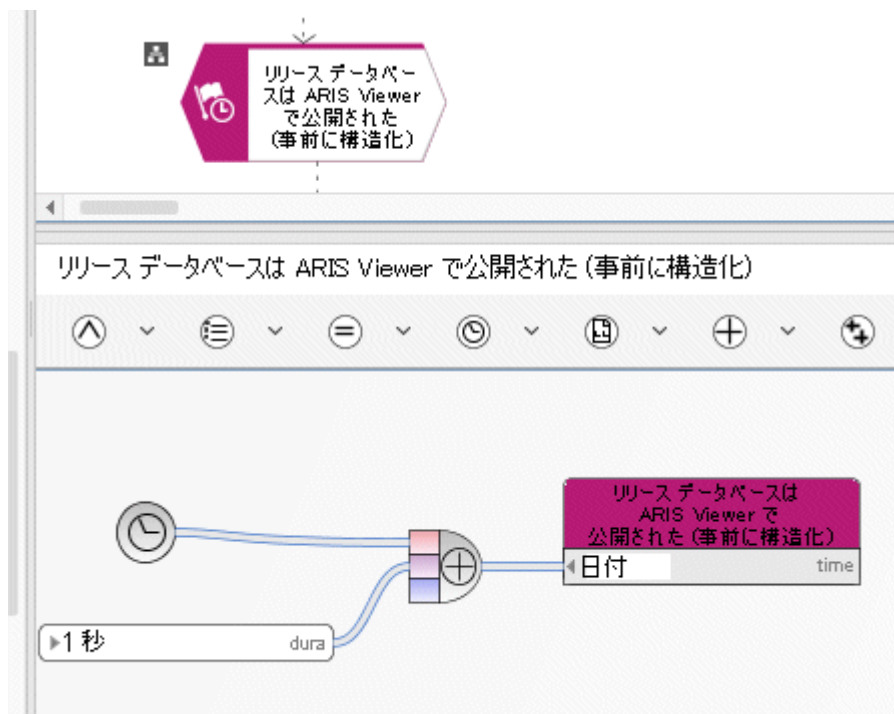


図 111: 時間の計算



10 定数

定数は、値が固定されたデータ ソースです。値は、実行時に計算されるのではなく、ユーザーがプロセスをモデリングする設計時に計算されます。定数は、実行可能プロセスの作成中に 1 回だけ評価されます。

定数の値は言語に依存しません。定数の値を言語に依存させる場合は、値を入力しないでください。この場合、定数の値は名前から抽出されます。名前は常に言語に依存します。

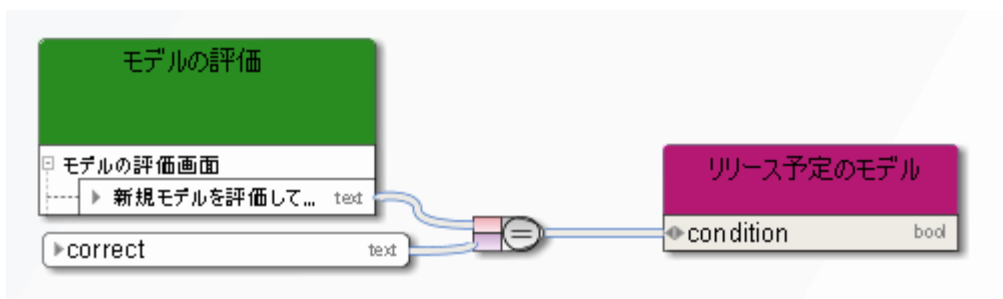


図 112: 定数



11 変数

変数は、タスクに依存しないデータのプレースホルダーです。ファンクションまたはイベントで値を変数に保存し、そのあとのプロセス ステップで、別のファンクションまたはイベントでこの値を抽出し、使用できます。

例:

プロセスが開始されると、実行ユーザーは開始ダイアログ ボックスに自分の電子メール アドレスを入力します。変数の電子メール テキスト フィールドの内容は、[イベント (プロセス インスタンスが開始された)] のアサインされたデータ フロー内で割り当てられます。実行ユーザーにプロセスのステータスについての情報を提供するために、変数に保存された電子メール アドレスは、以後の通知ファンクションの入力としてあとから使用されます。

11.1 インスタンス変数

これは、最も一般的な変数の用途です。変数の内容 (値) は、現在アクティブなプロセス インスタンスのすべてのアクティビティで共有されます。この変数は、実行中のプロセス インスタンスごとに値が異なります。

例:

[文字列] タイプの変数で、タスクの編集時にどのユーザーがどのようなコメントを入力したかに関する情報を常に更新します。

11.2 プロセス変数

現在アクティブな実行可能プロセスのすべてのインスタンス内のすべてのアクティビティが、プロセス変数の内容 (値) を共有します。

例:

プロセス インスタンスの開始時に 1 つ増え、プロセス インスタンスの終了時に 1 つ減るカウンター。この変数は、現在アクティブなプロセス インスタンス数を示します。

11.3 システム変数

すべての実行可能プロセス内のすべてのファンクションと、そのすべての現在アクティブなインスタンスが、システム変数の内容 (値) を共有します。すべてのアクティビティから、この値に直接アクセスできます。

例:

ホスト名または現在の時間。



11.4 例

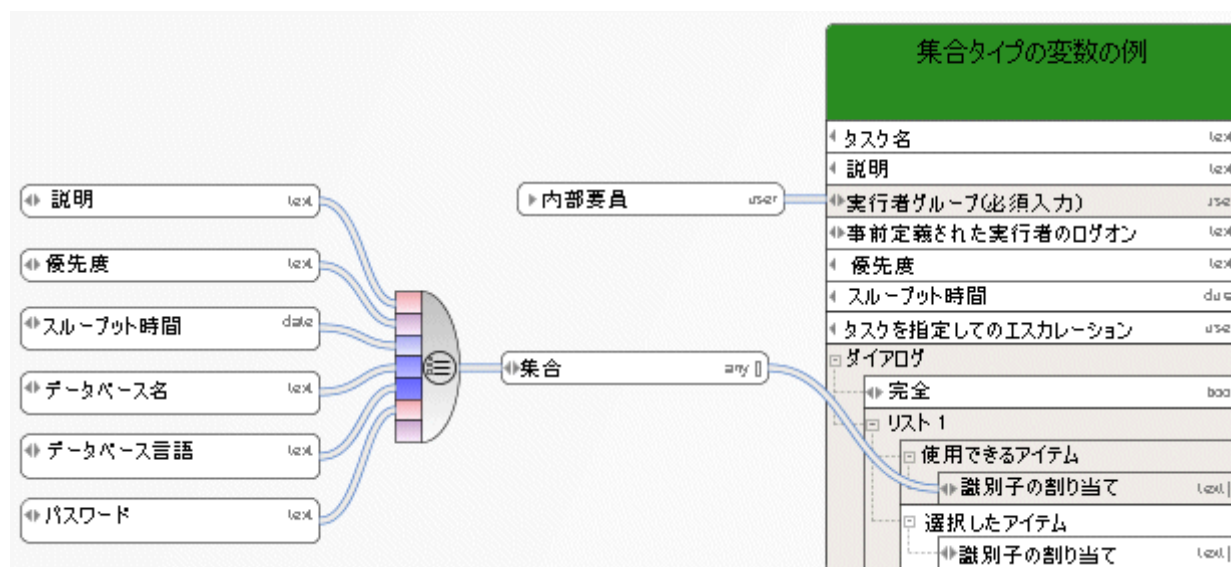


図 113: [集合] タイプの変数の例

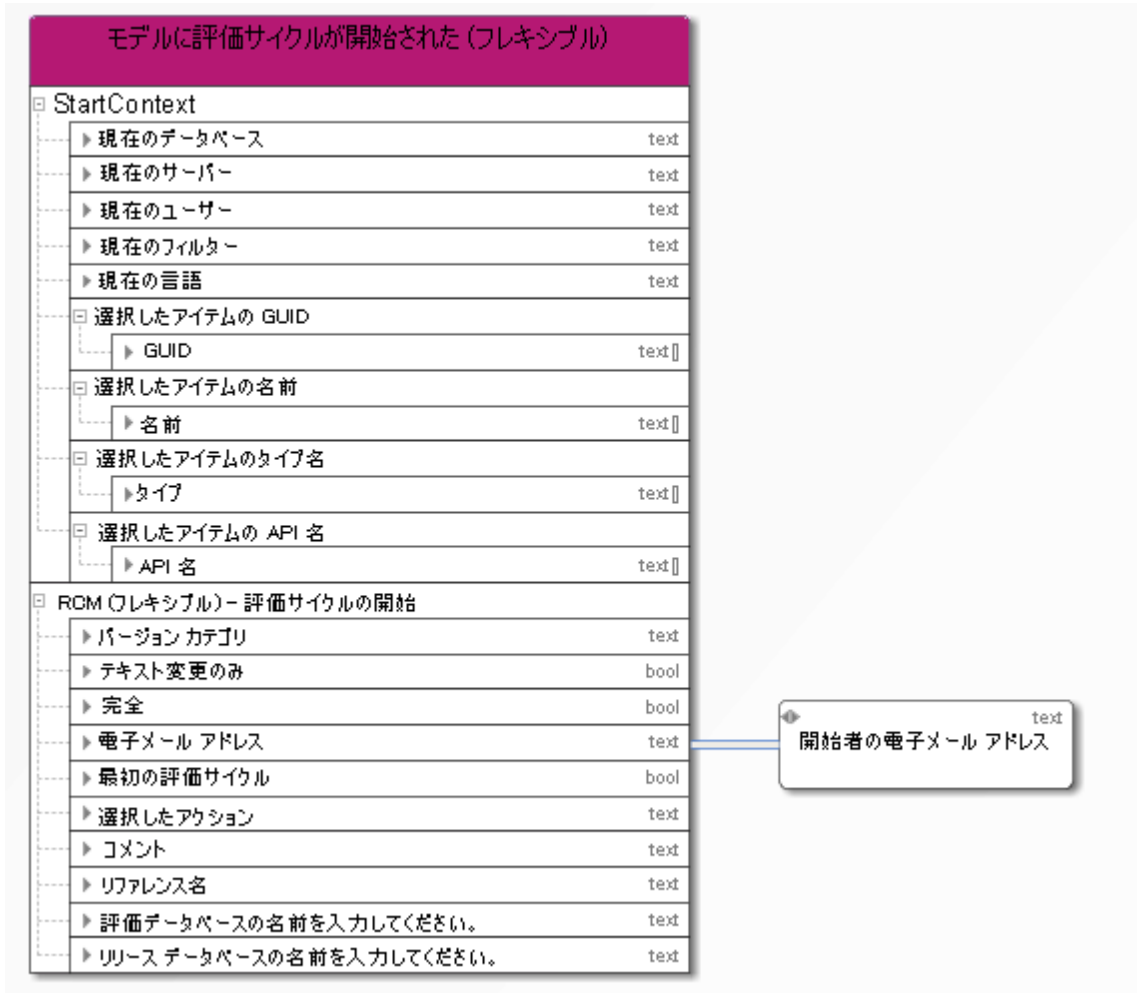


図 114: 例 1 - 出力としての電子メール

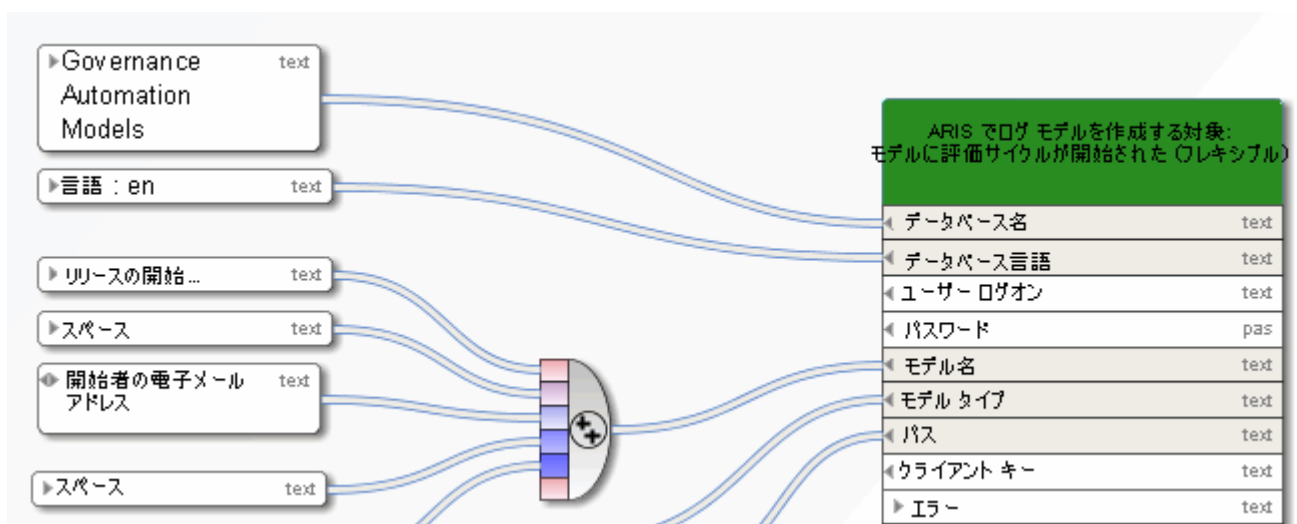


図 115: 例 1 - 入力としての電子メール

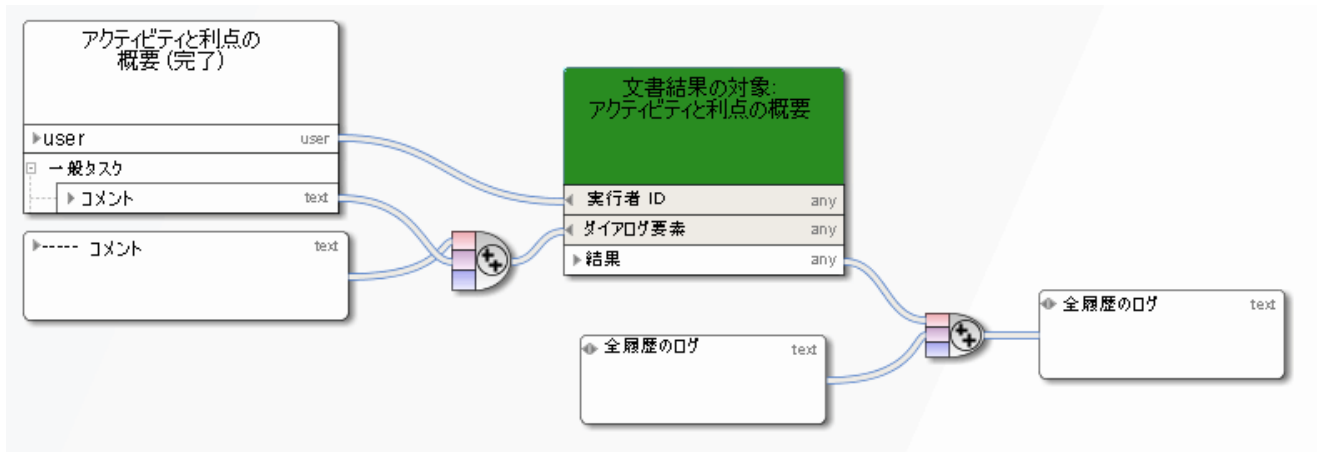


図 116: 例 2 - 手動タスクの結果の文書化

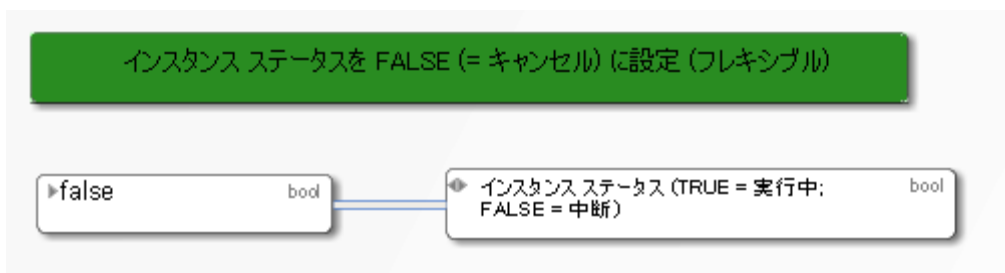


図 117: 例 3 - 変数の設定

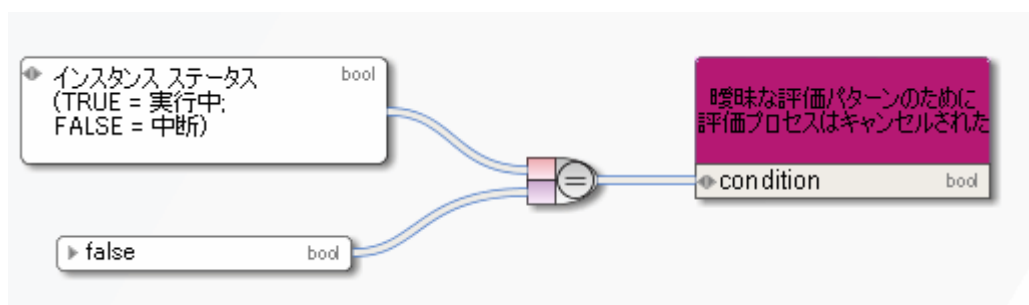


図 118: 例 3 - 変数の読み取り